

# 室岡工業団地内遺跡Ⅲ

福岡県八女市大字室岡所在遺跡の調査

八女市文化財調査報告書 第44集



1996年

八女市教育委員会

## 序

室岡工業団地内遺跡は、平成3年度より平成7年度まで4次にわたる発掘調査によって、弥生時代から平安時代にかけての遺構が数多く発見されています。特に平成4年度、平成7年度の調査は三協アルミニウム工業株式会社から委託を受けて実施いたしました。調査にあたりまして、三協アルミニウム工業株式会社の御理解と御協力により多大な成果を上げる事ができました。関係者の皆様に深くお礼申し上げます。

なお、本書が今後の文化財研究の一助になれば幸いです。

平成8年3月29日

八女市教育委員会

教育長 小川 勲



## 例 言

1. 本書は八女市教育委員会が平成7年度、三協アルミニウム工業株式会社から委託を受けて実施した福岡県八女市大字室岡字道添野中に所在する遺跡の発掘調査の報告書である。
2. 調査は平成3年度に1次調査、平成4年度に2次、3次調査を実施しており、平成7年度は4次調査にあたる。
3. 発掘調査は八女市教育委員会が実施した。
4. 遺構の実測には国土調査法第Ⅱ座標系を基準として用いた。実測図中の方位は磁北を使用している。
5. 現場での遺構の実測は赤崎、山田が中心となって実施した。また写真は赤崎、山田が撮影した。
6. 遺物の実測は赤崎、金納、折口、古賀が、浄書は御手洗が行った。なお、本書の編集、執筆は赤崎、山田が担当した。

## 本 文 目 次

1. はじめに .....	1
2. 地理と環境 .....	2
3. 調査の概要 .....	4

# 1. はじめに

室岡工業団地内遺跡は福岡県八女市大字室岡字道添字野中に所在している。

遺跡は九州縦貫自動車道八女インターチェンジのすぐ北西側に隣接した地域で、平成3年度より工業団地の開発が進められている。開発に伴って当該地内に埋蔵文化財が存在することが予想され、また、九州縦貫自動車道建設時には道添遺跡（弥生時代集落）も発見されている事から、広範囲に遺跡の広がりが考えられた。事前に試掘調査を実施した結果、弥生時代～古墳時代の遺跡が発見されたために、平成4年1月より平成4年7月までの間に3次にわたる発掘調査を実施し、多くの遺構・遺物が発見された。

【第1次調査】 平成4年1月～3月

室岡工業団地周辺排水路、道路

〔竪穴住居2軒、溝14条、土壇6基（弥生時代後期、古墳時代後期）〕

【第2次調査】 平成4年4月～7月

室岡工業団地内貯水池、道路

〔竪穴住居71軒、掘立柱建物23棟、溝15条、土壇29基、井戸1基、周溝状遺構12基（弥生時代後期、古墳時代前期・後期、歴史時代前半）〕

【第3次調査】 平成4年6月～10月

三協アルミニウム工業株式会社九州工場第1期工場棟、事務所棟

〔竪穴住居40軒、掘立柱建物14棟、溝18条、土壇22基、周溝状遺構1基、柵列1条（弥生時代後期、古墳時代後期、歴史時代前半）〕



第1図 室岡工業団地内遺跡発掘調査風景

今回の発掘調査は三協アルミニウム株式会社九州工場第2期工場棟が第1期工場棟の東側に隣接して建設される事となったため、工場建設に先だて予定地の発掘調査を実施することになり、平成7年3月14日付で発掘届が提出された。このため、調査について協議を行ない、平成7年4月21日に発掘のための委託契約を締結した。調査は工場建設によって掘削される部分約7,200㎡を対象として5月8日より発掘調査を開始し、途中幾度も冠水したが、9月29日に現地での調査を完了した。

調査関係者は下記の通りである。

#### 調査委託者

三協アルミニウム工業株式会社

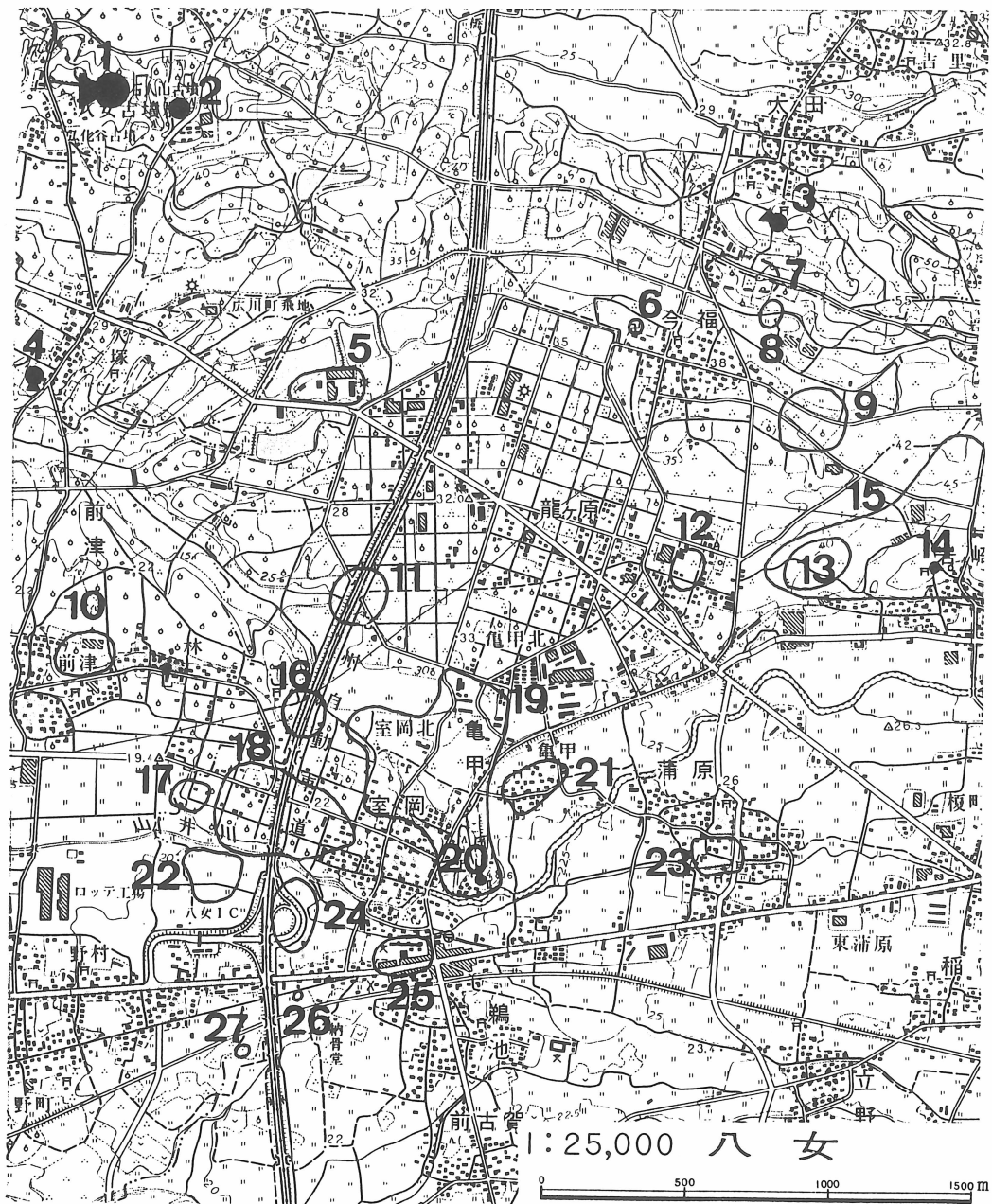
代表取締役社長	荒井久夫
九州工場長	須田康治
九州工場生産課	嶋田勝

八女市教育委員会

教育長	小川勲
生涯学習課長	杉山信行
生涯学習課長 兼文化財係長	中村武紀
文化財係主任	赤崎敏男(調査担当)
文化財係	大塚恵治・中川寿賀子
調査補助員	山田朗子(調査担当)

## 2. 地理と環境

室岡工業団地内遺跡は八女丘陵から南に延びた台地の端部にあたり、台地の裾を縫うように東から西に山の井川が流れている。遺跡の中心は山の井川の左岸上で、標高約18～19mのゆるやかに南側に向って下がる所にある。台地上や端部には弥生時代前期から後期の遺跡が集中して発見されており、室岡遺跡群(山ノ上遺跡〔弥生時代前期～後期〕、北小路遺跡〔弥生時代中期～後期〕、亀ノ甲遺跡〔弥生時代前期～後期〕、道添遺跡〔弥生時代後期〕)が、室岡工業団地内遺跡の北側には隣接して弥五郎遺跡(弥生時代後期)、東側には道添遺跡が存在している。古墳時代の遺跡としては、岡山公園古墳(円墳)が1基あるのみであるが、集落跡は室岡工業団地内遺跡、岡山小学校遺跡をはじめ各所で発見されている。歴史時代の遺跡は比較的少なく、曲田遺跡〔平安時代〕、北小路遺跡〔平安～鎌倉時代〕がある。



1. 石人山古墳 (国指定)
2. 弘化谷古墳
3. 神南牟田古墳
4. 欠塚古墳
5. 駄渡瀬遺跡
6. 善正寺 (石人)
7. 神南牟田古墳群
8. 北谷遺跡
9. 今福遺跡
10. 前津遺跡
11. 西中沢遺跡
12. 中道端遺跡
13. 下山遺跡
14. 円墳
15. 岩崎遺跡
16. 坊野遺跡
17. 弥五郎遺跡
18. 野口遺跡
19. 室岡遺跡群
20. 岡山公園古墳
21. 亀ノ甲東原遺跡
22. 室岡工業団地内遺跡
23. 蒲原館跡
24. 道添遺跡
25. 岡山小学校遺跡
26. 曲田遺跡
27. 上柳遺跡

第2図 室岡工業団地内遺跡と周辺の遺跡 [1/25000]

### 3. 調査の概要

第4次の発掘調査は第3次調査を実施した第I期工場用地の東側約15mの所にあたる。敷地内は造成によって約1m程土盛と石盛が行われており、多量の土砂と岩石を除去後、水田面を約20cm程掘り下げた部分で遺構が検出された。遺構は調査区の北側が浅く水田等によって相当削平を受けている反面、南側については遺構がかなり良好な形で残っていた。

調査にあたって、多数の柱穴が検出されたため、柱穴からの出土遺物については、発掘区内を北から南にA～I、東から西に1～6までを用いて15m方眼に地区割を行い遺物の取り上げを行った。

#### (1) 弥生時代の遺構と遺物

弥生時代の遺構として後期の竪穴住居7軒、掘立柱建物9棟、周溝状遺構5基が発見されている。弥生時代の遺構は主に調査区の東側に集中しており、竪穴住居とその周辺に高床倉庫と思われる掘立柱建物が分布する。周溝状遺構は竪穴住居とやや離れており、大・中・小と三種類が見られる。

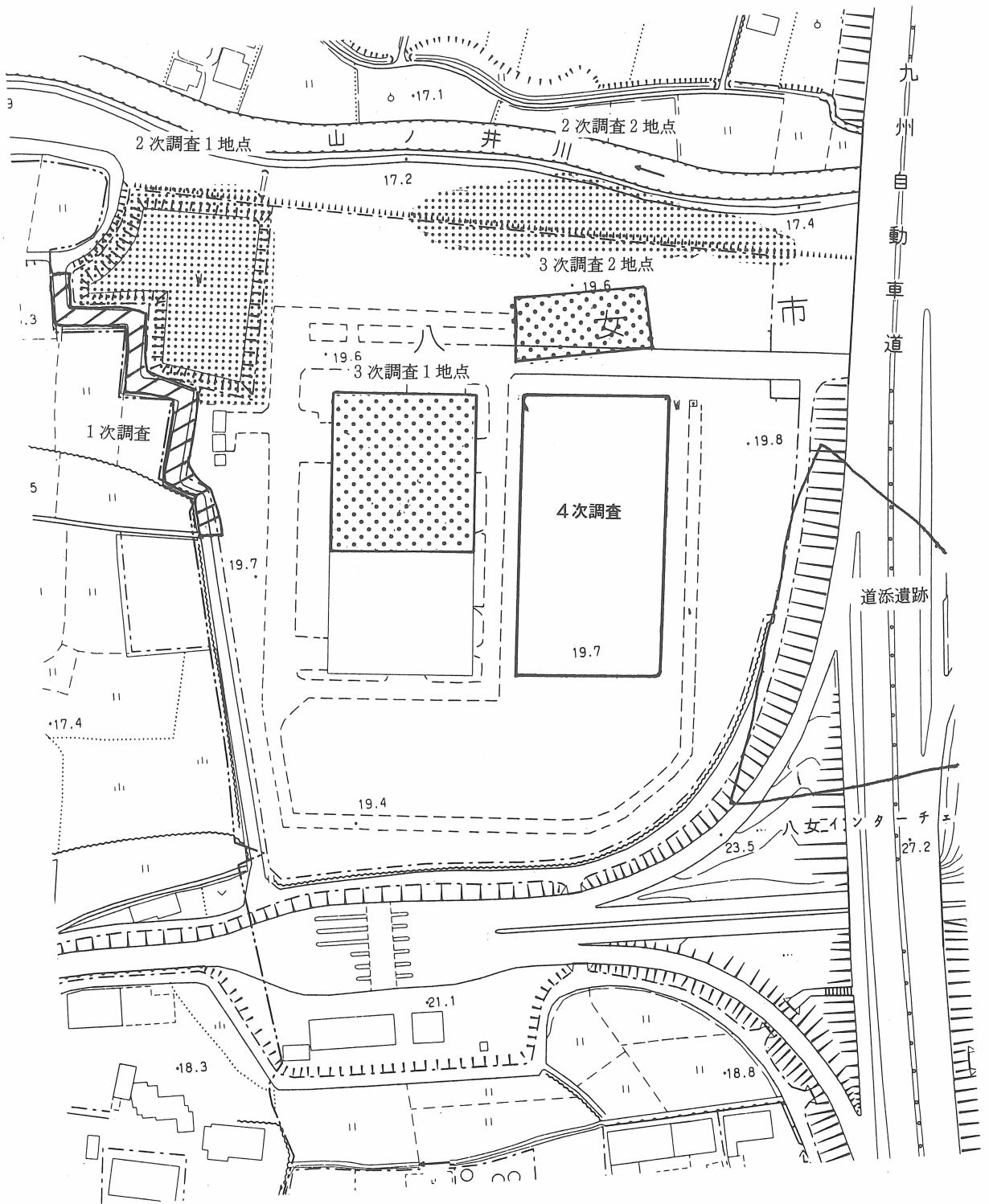
#### 竪穴住居

SB09（第5、13図、図版4） 主軸を北東－南西にとり、北西の長さ6.72m、南西の長さ4.32mを測る。壁高は8～18cmを測る。2本の支柱穴跡を検出し、規模は44～52cm、深さ36～38cmを測る。穴内には柱を固定するための粘土が残っており、これより径16～18cmの柱使用が想定される。また、東側と西側にベッド状遺構を持ち、東側には焼土が堆積していた。遺物は、弥生時代後期の甕、鉢、壺、支脚が出土した。

SB11（第5、14図、図版4） 主軸を北東－南西にとり、北西の長さ6.92m、南西の長さ5.16mを測る。残存する壁高は2～8cmと浅い。2本の支柱穴跡を検出し、規模は56～60cm、深さ55～57cmを測る。穴内には柱を固定するための粘土が残っており、これより径14～30cmの柱使用が想定される。また、東側と西側にはベッド状遺構をもつ。遺物は、弥生時代後期の甕、壺、小型鉢が出土した。

SB14（第6、15、16図、図版4） 主軸を北西－南東にとり、北西の長さ5.60m、南東の長さ3.68mを測る。壁高は13cm～21cmを測る。2本の支柱穴を検出し、規模は24～28cm、深さ11～12cmを測る。遺物は弥生時代後期の甕、高台付甕、壺、小型鉢、支脚、器台、手捏土器（ミニチュア）が出土した。

SB15（第6、17、25図、図版4） 主軸を南－北にとり、南北の長さ4.4m、東西の長さ3.04mを測る。残存壁高は3～14cmと浅い。関連柱穴は不明である。遺物は弥生時代後期の甕、壺、鉢、手捏土器、砂岩製砥石が出土した。



第3図 室岡工業団地内遺跡位置図 [1/2500]



第4図 室岡工業団地内4次調査遺構配置図 [1/400]

X=23,271,000

S B 16 (第6図) 残存状態が非常に悪いため、主軸方向は不明である。南北の長さ2.44 m以上、東西の長さ4.84 mを測る。残存壁高は0~10cmとかなり浅い。

S B 51 (第7、18、19、24図、図版6) 主軸を東—西にとり、東西の長さ6.32 m、南北の長さ3.94 mを測る。残存壁高は36~44cmを測る。2本の主柱穴跡を検出し、規模は24~60cm、深さ30~44cmを測る。東西側にベット状遺構を持つ。遺物は弥生時代後期の甕、鉢、椀、器台、甑、頁岩製石庖丁が出土した。

S B 54 (第7、20、21、22、23、25図、図版6) 主軸を北東—南西にとり、北西の長さ4.88 m、南西の長さ4.32 mを測る。残存壁高は28~43cmを測る。2本の主柱穴跡を検出し、規模は24~30cm、深さ32cmを測る。4壁にそって幅2.2~25cm、深さ1~9cmの溝がはしり、南東の壁側中央部には半円形の土壇が付設され、砥石、扁平石が出土した。南西側にはベッド状遺構をもつ。遺物は、弥生時代後期の高坏、椀、甕、脚付甕、鉢、壺、二重口縁壺、支脚、器台、投弾、石庖丁が出土した。

#### 掘立柱建物

S B 30 (第8図) 1×1間の建物で、棟方向は東—西である。長軸3.2 m、短軸2.8 mを測る。柱穴掘り方は方形で、規模は48~60cm、深さ32~45cmを測る。

S B 31 (第8図) 1×1間の建物で、棟方向は北東—南西である。長軸2.68 m、短軸2.12 mを測る。柱穴掘り方は方形で、規模は40~52cm、深さ10~22cmを測る。

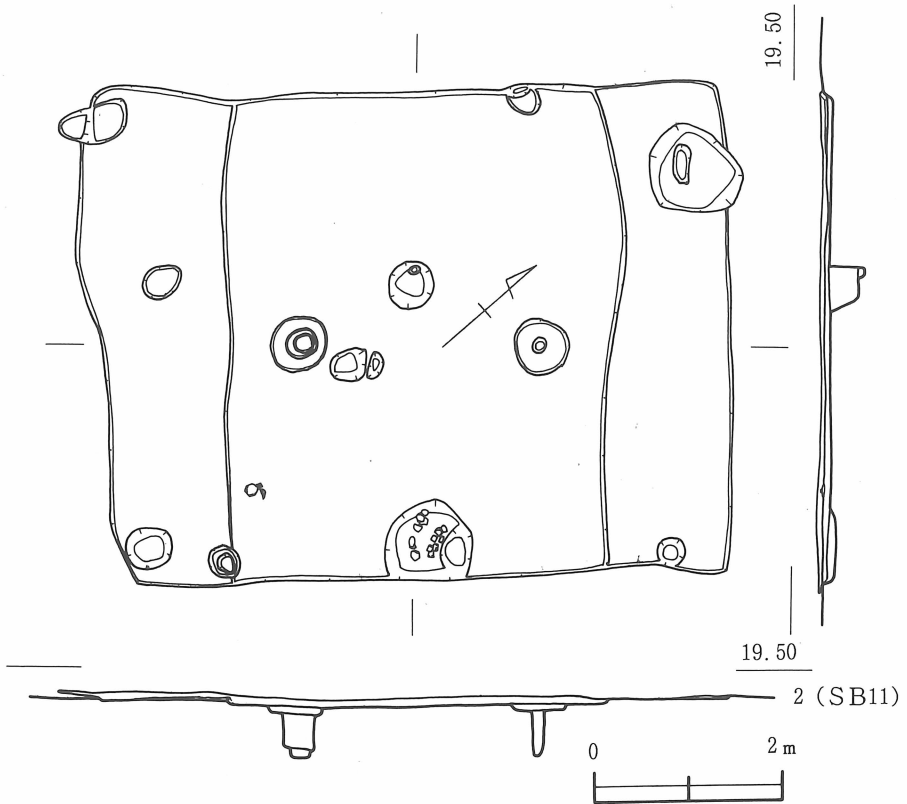
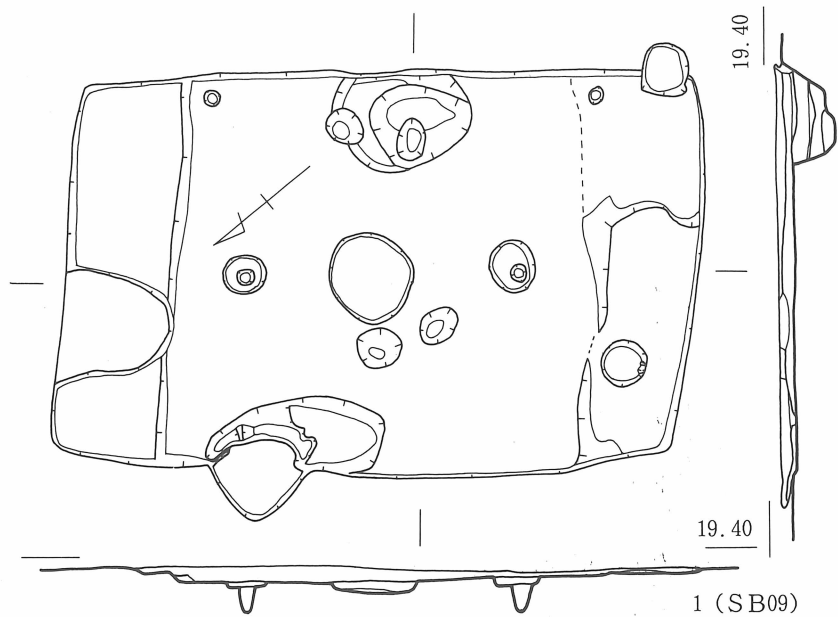
S B 32 (第8、26図、図版5) 1×1間の建物で、棟方向は南—北である。長軸3.2 m、短軸2.44 mを測る。柱穴掘り方は方形で、規模は56~100cm、深さ55~71cmを測る。柱痕跡はP 2とP 3で検出し、径17~22cmの柱使用が想定される。遺物はP 4とP 1から弥生時代後期の甕片、壺、鉢、支脚片、器台片が出土した。

S B 34 (第8図、図版5) 1×1間の建物で、棟方向は不明である。両軸2.5 mを測る。柱穴掘り方は方形で、規模は40~54cm、深さ14~33cmを測る。

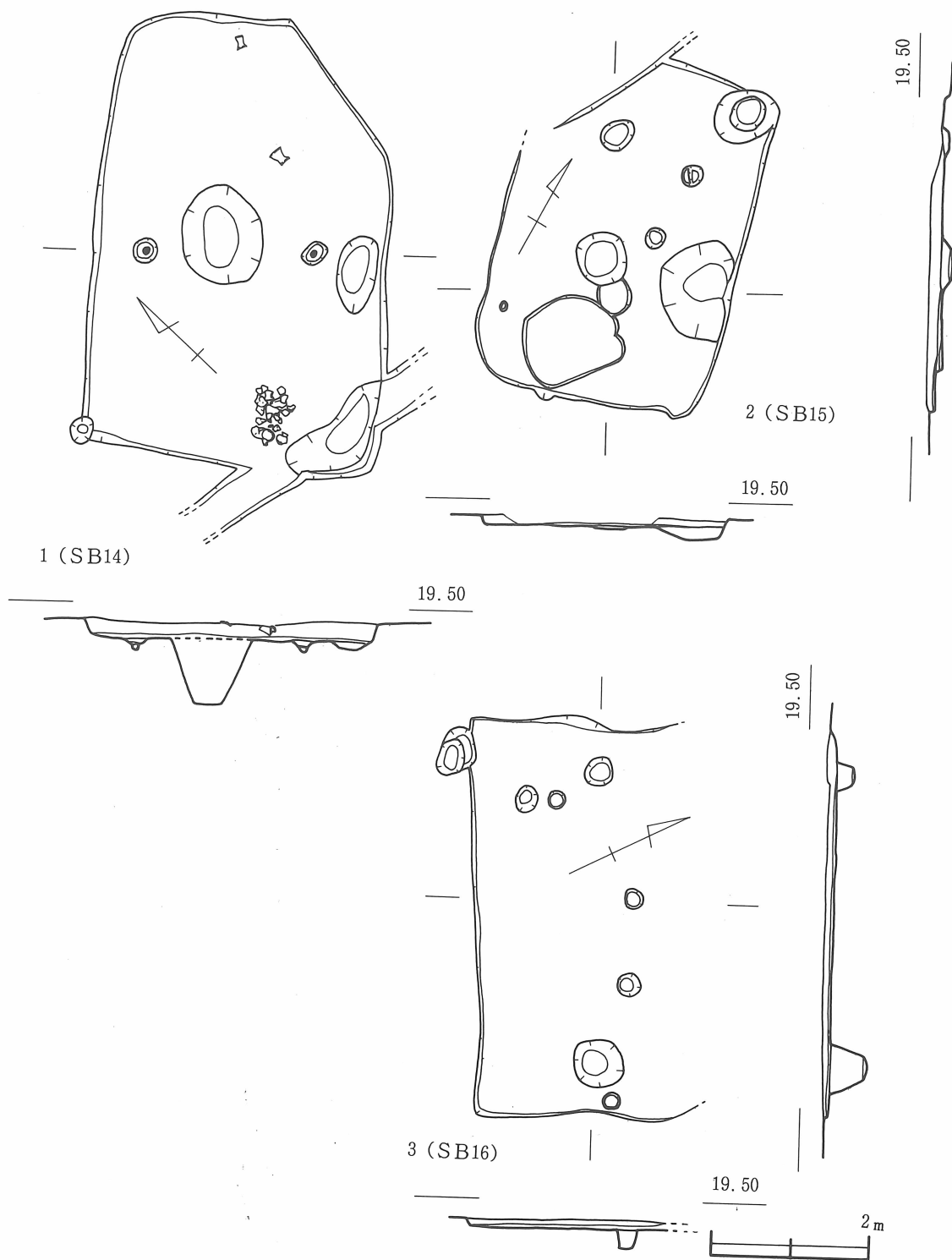
S B 36 (第8図、図版6) 1×1間の建物で、棟方向は北西—南東である。長軸3.0 m、短軸2.76 mを測る。柱穴掘り方は方形で、規模は44~56cm、深さ20~24cmを測る。

S B 37 (第8図、図版6) 1×1間の建物で、棟方向は南—北である。長軸3.8 m、短軸3.16 mを測る。柱穴掘り方は方形で、規模は48~64cm、深さ41~57cmを測る。

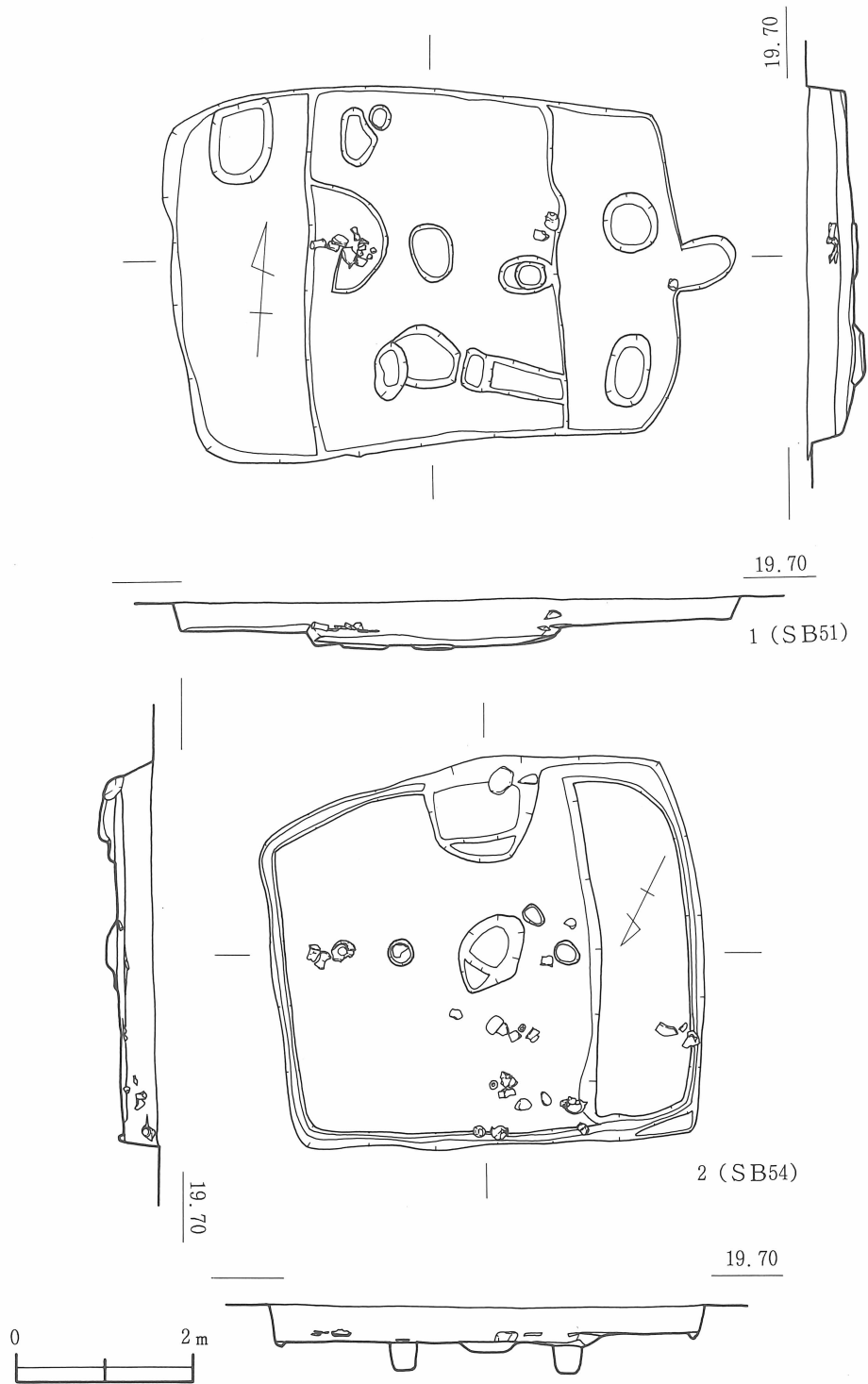




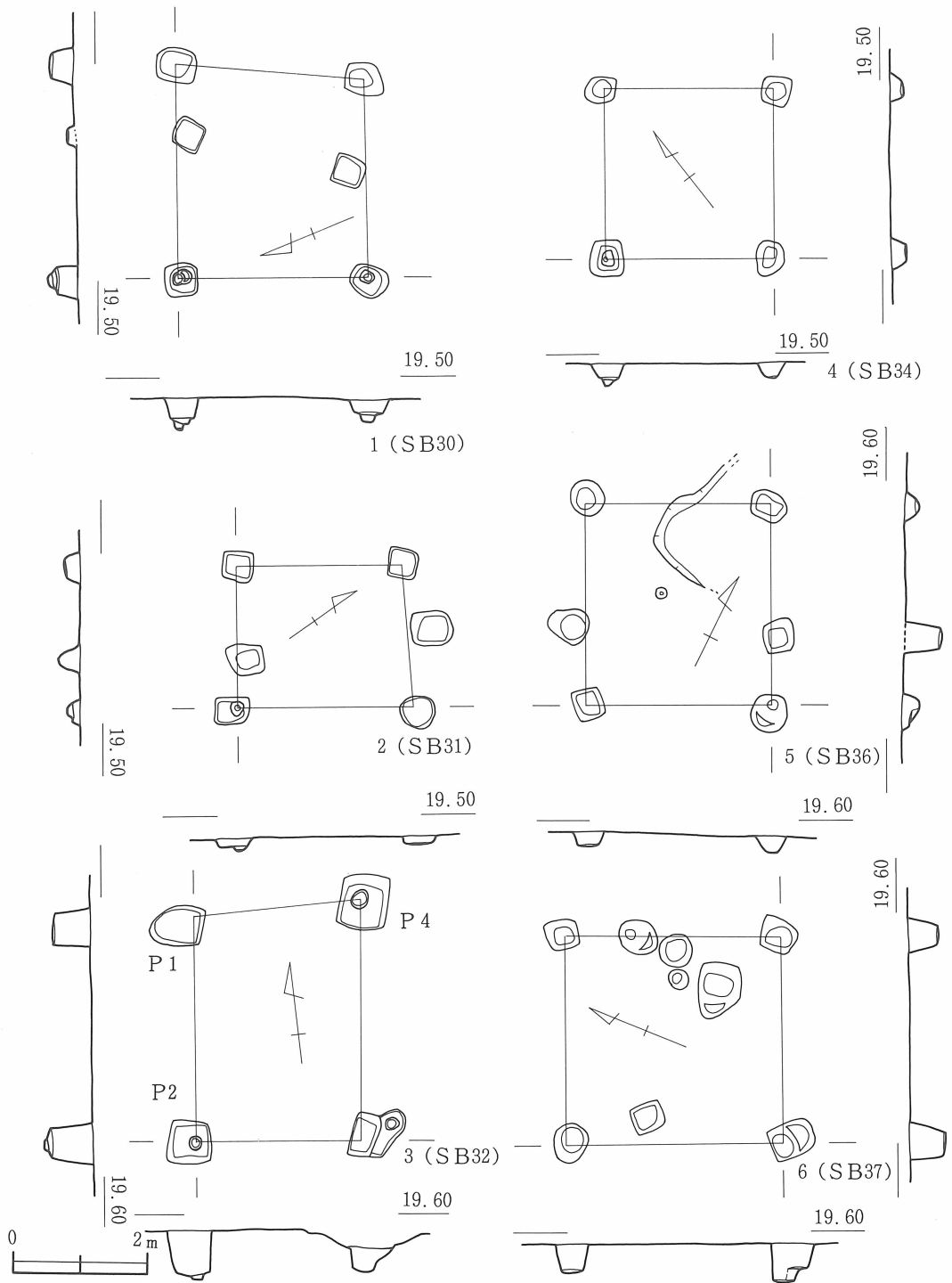
第5図 SB 09. 11 実測図 [1/80]



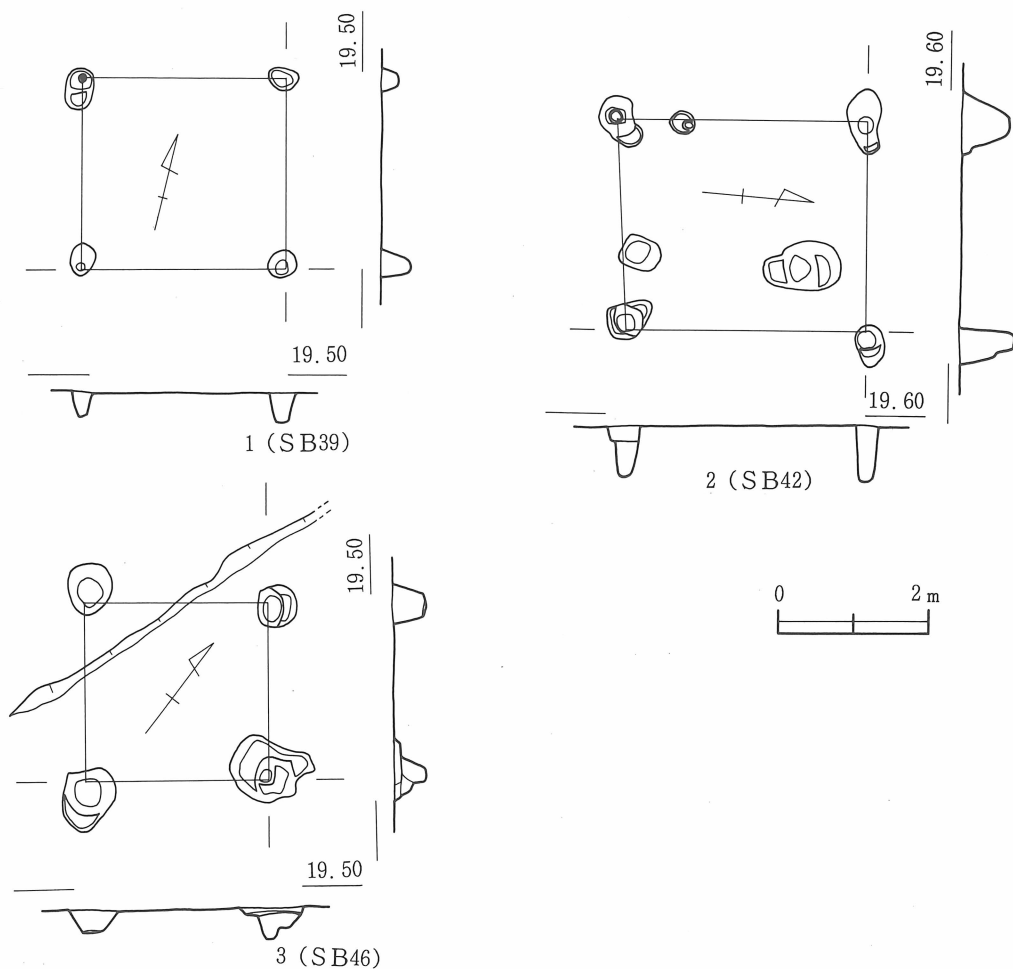
第6図 SB 14.15.16 実測図 [1/80]



第7図 SB 51.54 実測図 [1/80]



第8図 SB 30. 31. 32. 34. 36. 37 実測図 [1/100]

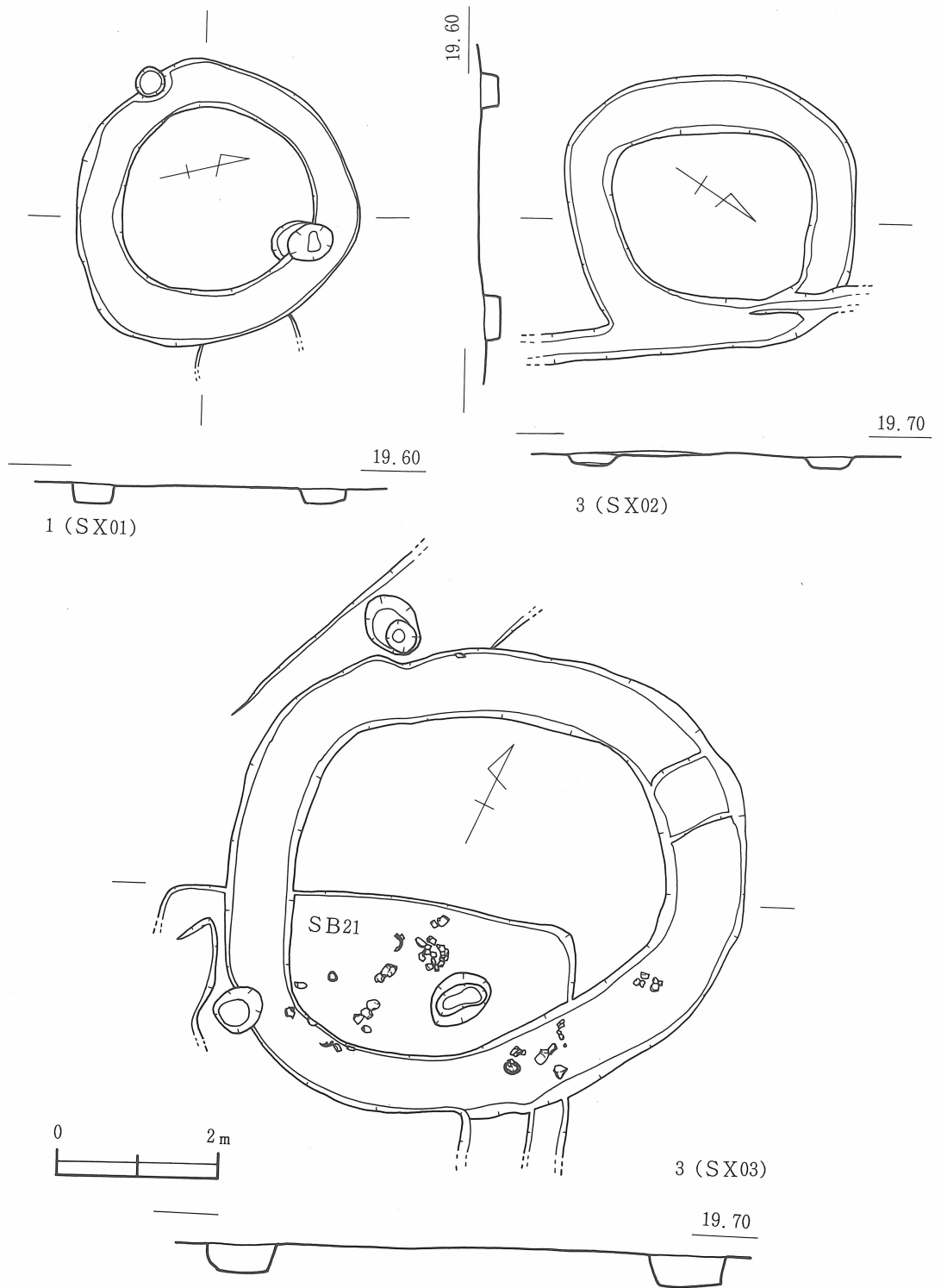


第9図 SB 39. 42. 46 実測図 [1/100]

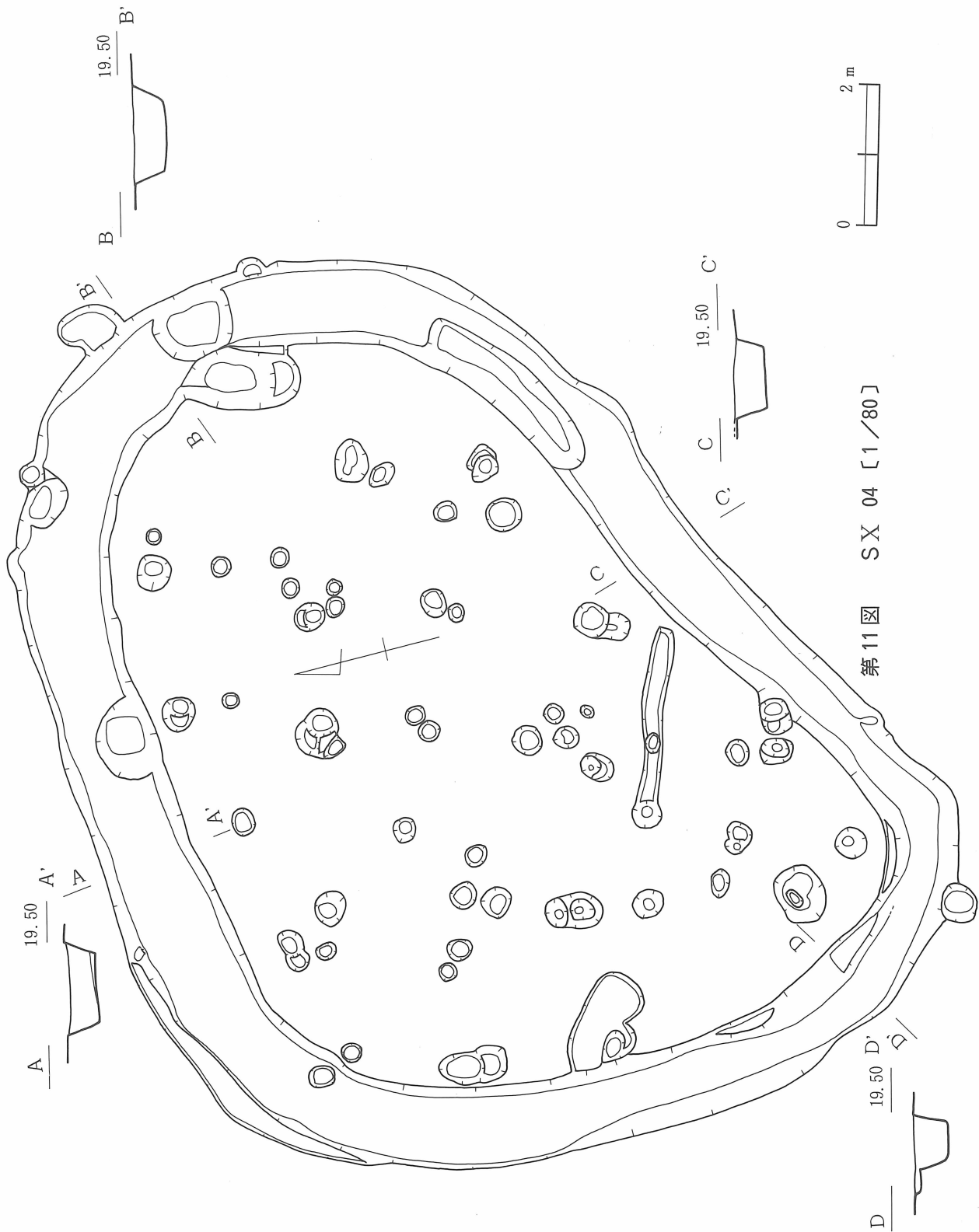
SB39 (第9図、図版6) 1×1間の建物で、棟方向は不明である。両軸とも2.68mを測る。柱穴掘り方はほぼ方形で、規模は28~32cm、深さ23~48cmを測る。

SB42 (第9、27図、図版12) 1×1間の建物で、棟方向は東-西である。長軸4.54m、短軸3.4mを測る。柱穴掘り方はほぼ方形で、規模は40~96cm、深さ49~72cmを測る。遺物は弥生後期の小型鉢片が出土した。

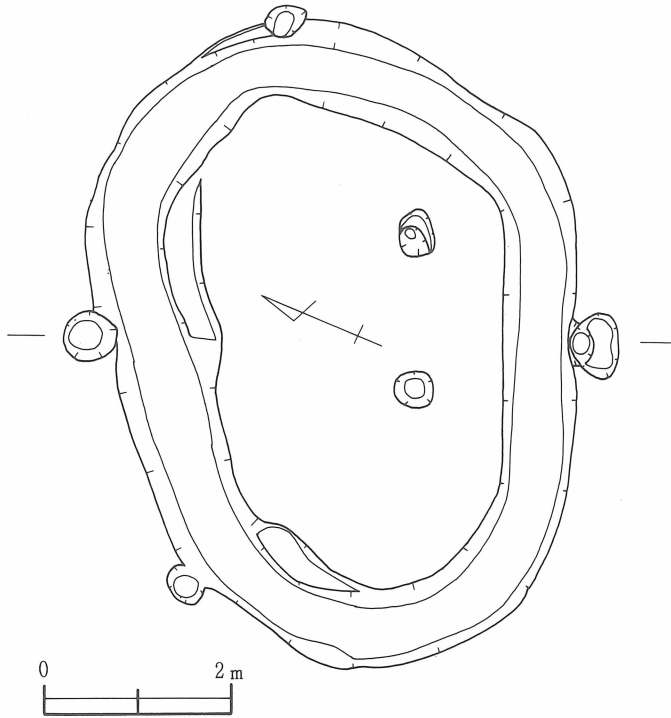
SB46 (第9図、図版5) 1×1間の建物で、棟方向は北東-南西である。長軸2.44m、短軸2.32mを測る。柱穴掘り方は方形で、規模は50~68cm、深さ29~42cmを測る。



第10圖 SX 01.02.03 [1/80]



第11図 SX 04 [1/80]



第12図 SX 05 [1/80]

測る。平面プランはほぼ円形である。SB 21に一部切られているが、住居低部よりプランは検出できた。周溝北東部には深さ87~95cmのPitが検出。遺物は弥生時代後期の甕が出土した。

SX 04 (第11、30図、図版5) 調査区南西部にて検出。計測値は長軸長13.98 m、周溝幅74~142cm、深さ35~81cmを測る。調査区内においては最大の規模である。平面プランはややくずれた楕円径である。遺物は弥生時代後期の甕、壺、長頸壺、二重口縁壺が出土した。

SX 05 (第12、31図) SX 04 より 3 m 南にて検出。計測値は長軸長 6.91 m、周溝幅58~100 cm、深さ47~59cmを測る。平面プランはやや扁平な楕円形である。遺物は弥生時代後期の甕が出土した。

#### 溝状遺構

SD 02 (第32図) 調査区東端にあり、一辺約10 m の方形区画にめぐる溝と考えられる。溝幅は約25~50cm、深さは12~23cmを測る。遺物は弥生時代後期の甕が出土した。

#### 周溝状遺構

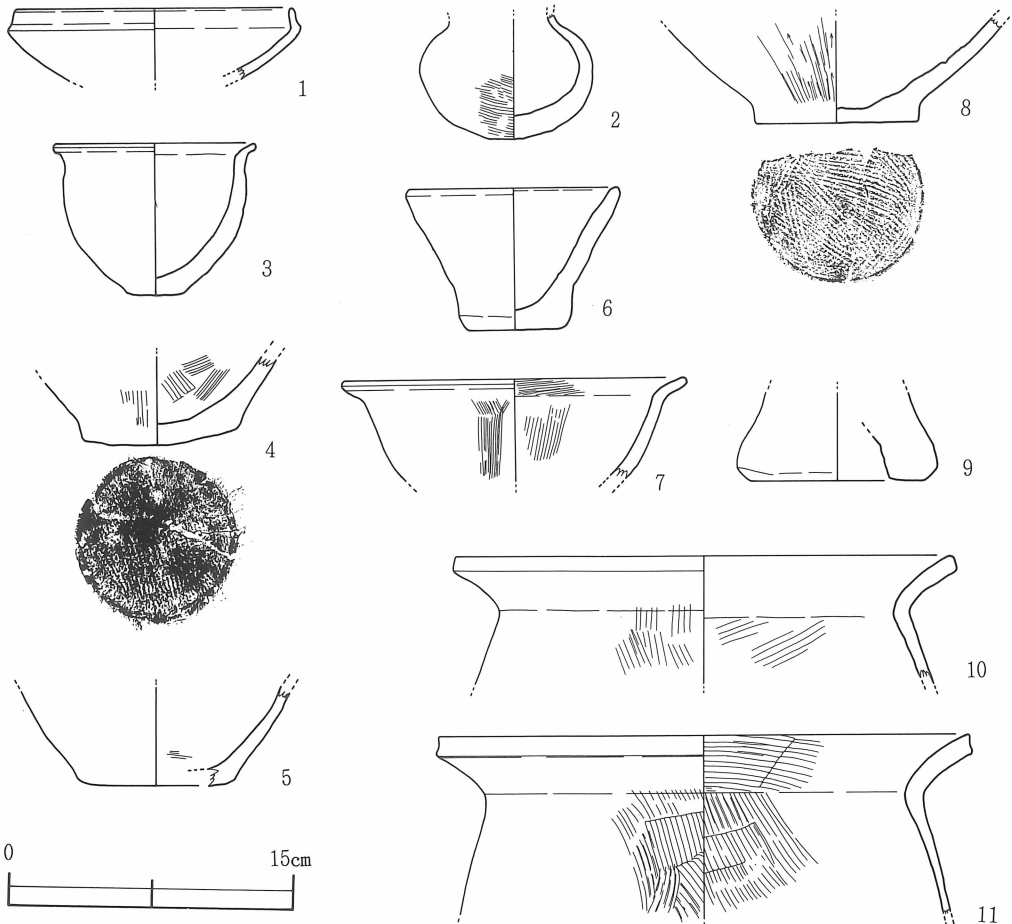
SX 01 (第10図、図版12)  
調査区中央東部にて検出。計測値は径 3.55 m、周溝幅47~78cm、深さ18~23cmを測る。平面プランは円形である。

SX 02 (第10、28図) SX 01 より13 m 南にて検出。計測値は径3.76 m、周溝幅52~70.4 cm、深さ13~17cmを測る。平面プランは円形である。遺物は、弥生時代後期の壺、甕、脚付甕、鉄釘、鏝が出土した。

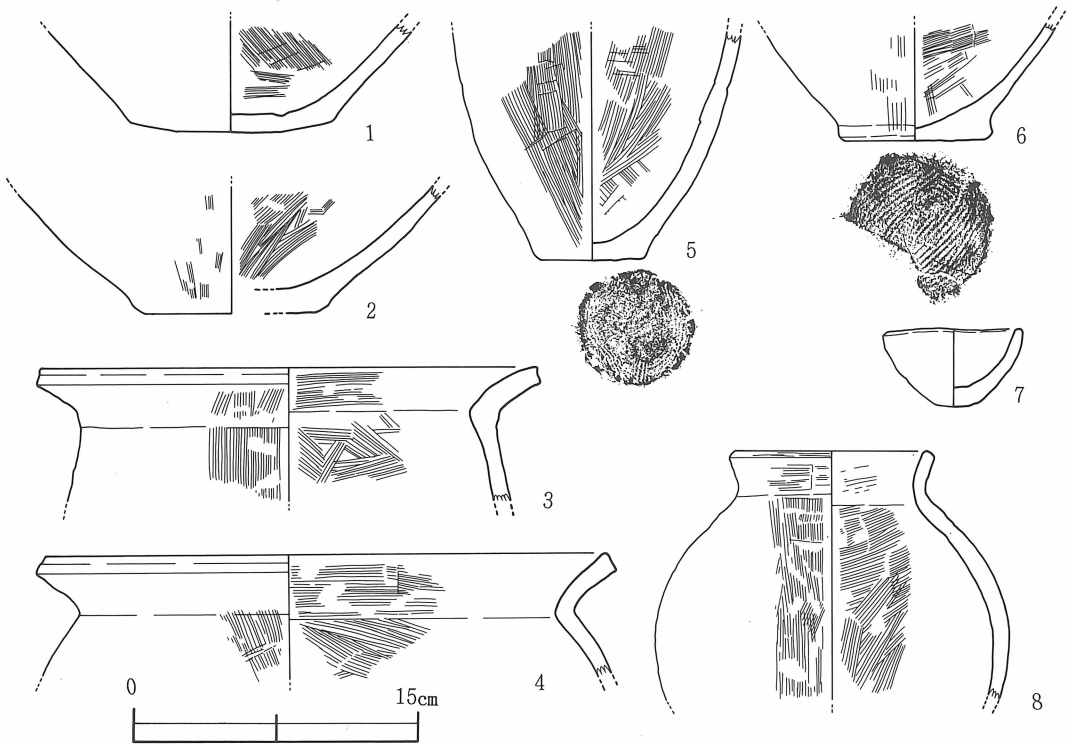
19.50

SX 03 (第10、29図、図版9)  
SX 01より 5 m 西にて検出。計測値は長軸長6.68 m、周溝幅62~112cm、深さ26~38cmを

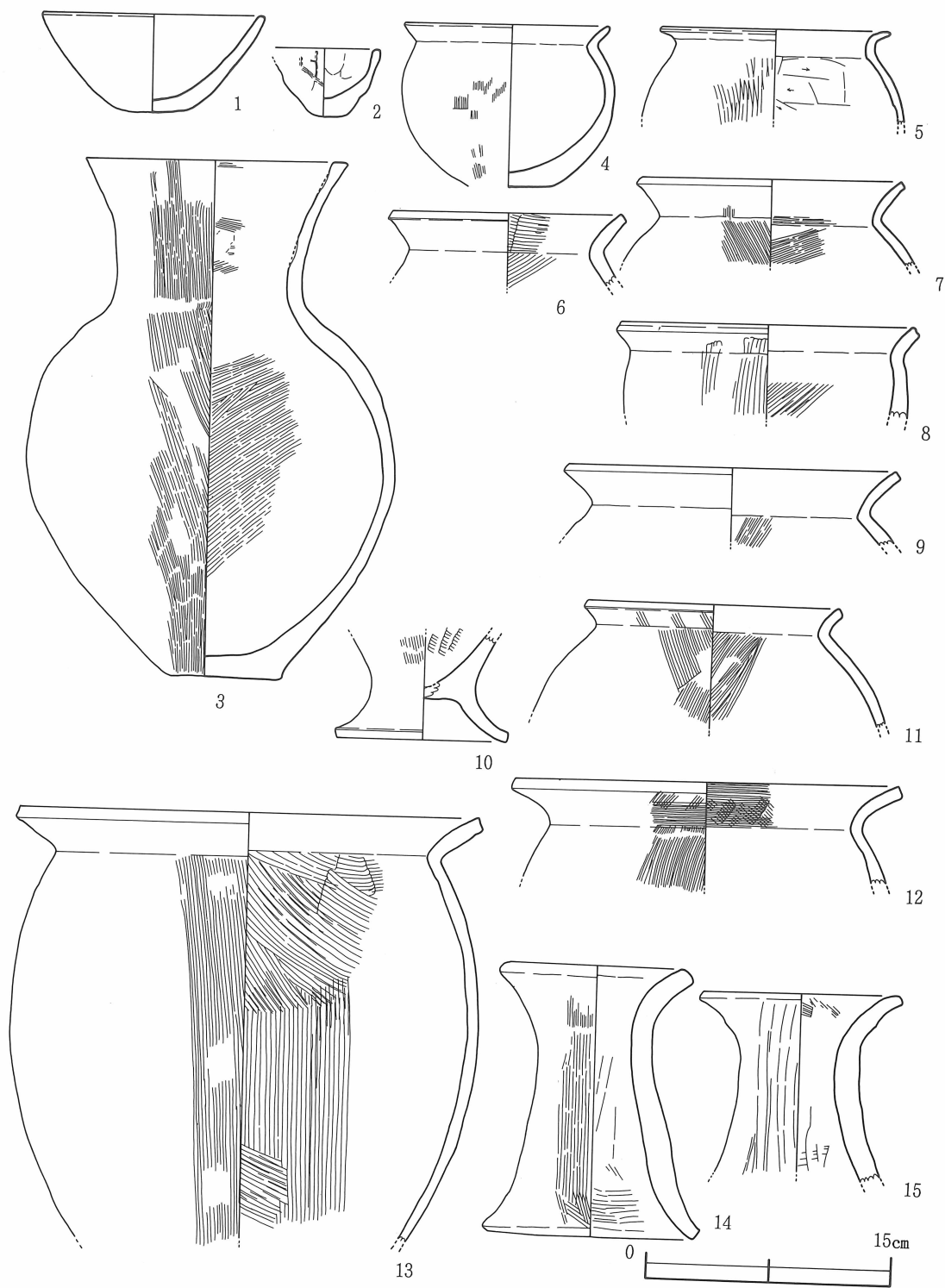




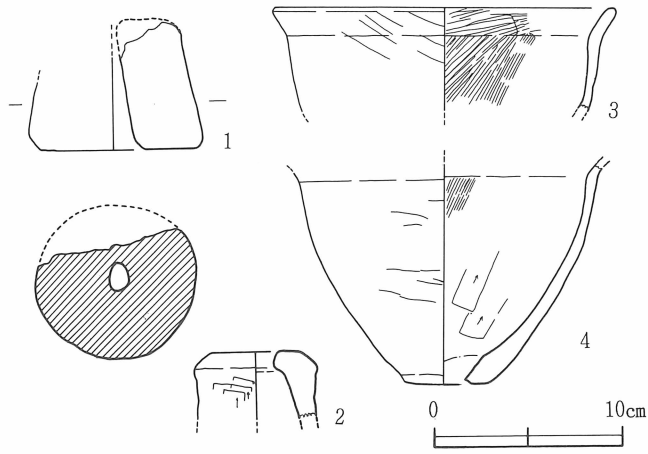
第13图 SB 09 出土土器 [1/4]



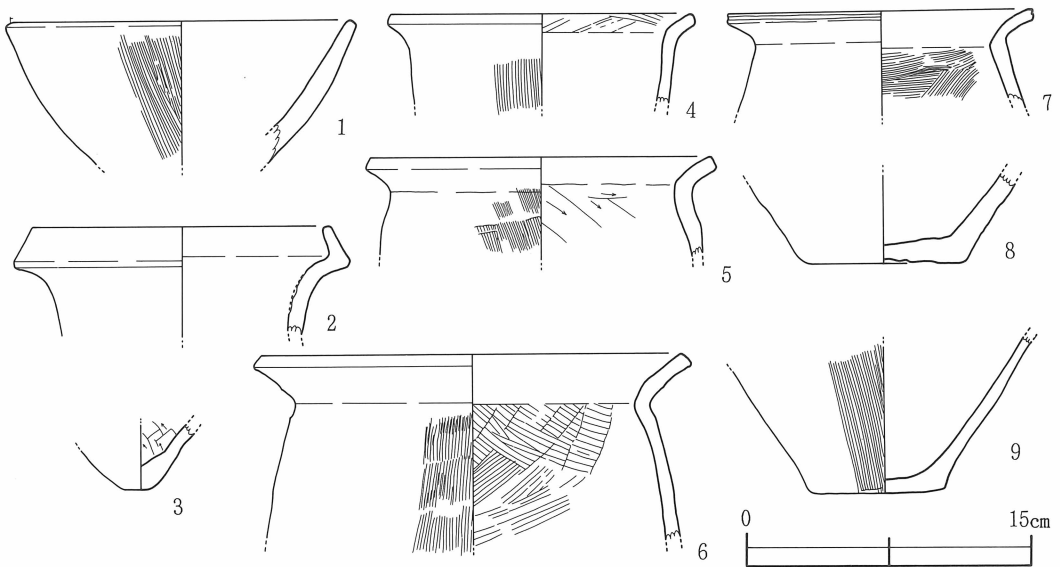
第14图 SB 11 出土土器 [1/4]



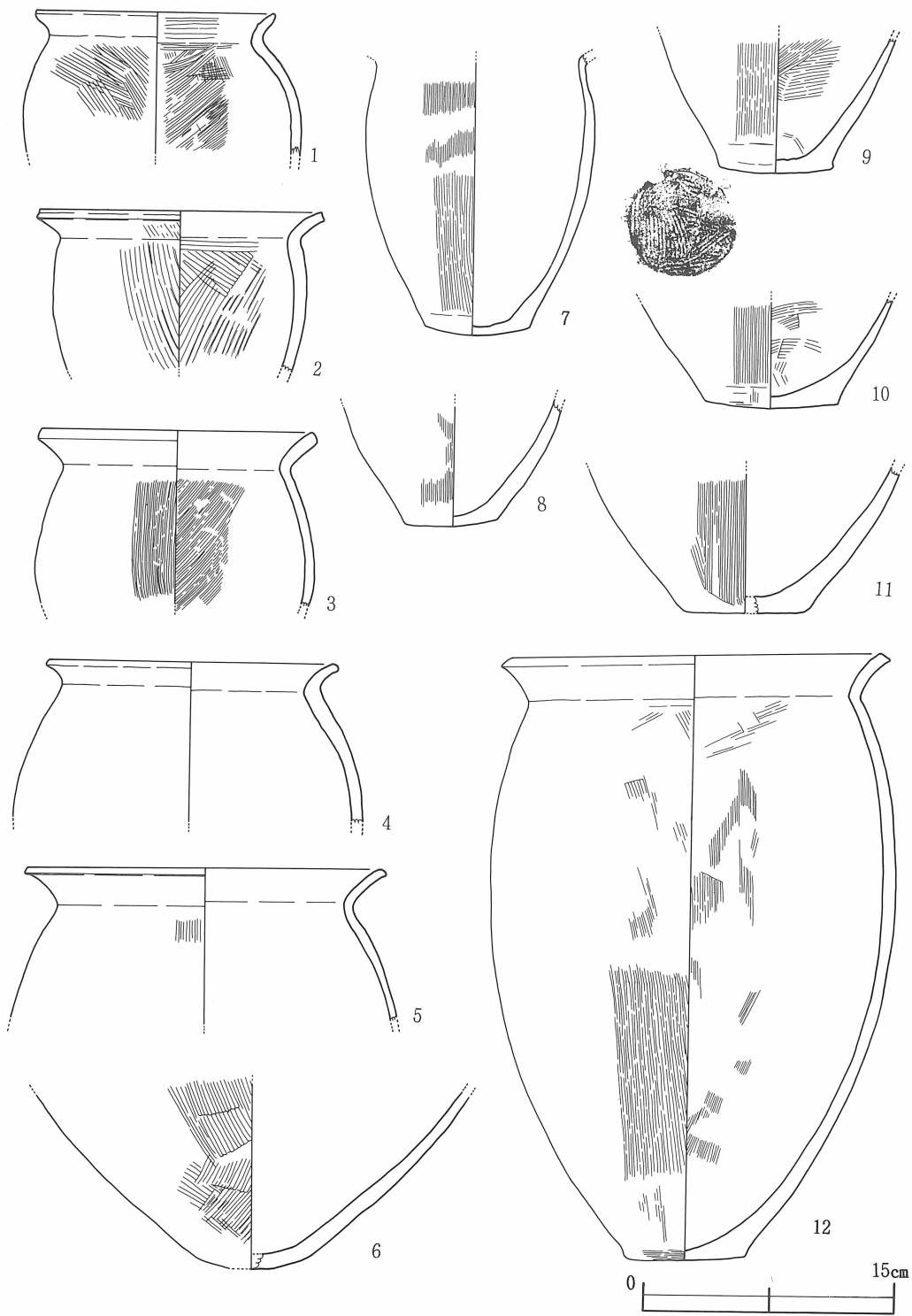
第15图 SB 14 出土土器 [1/4]



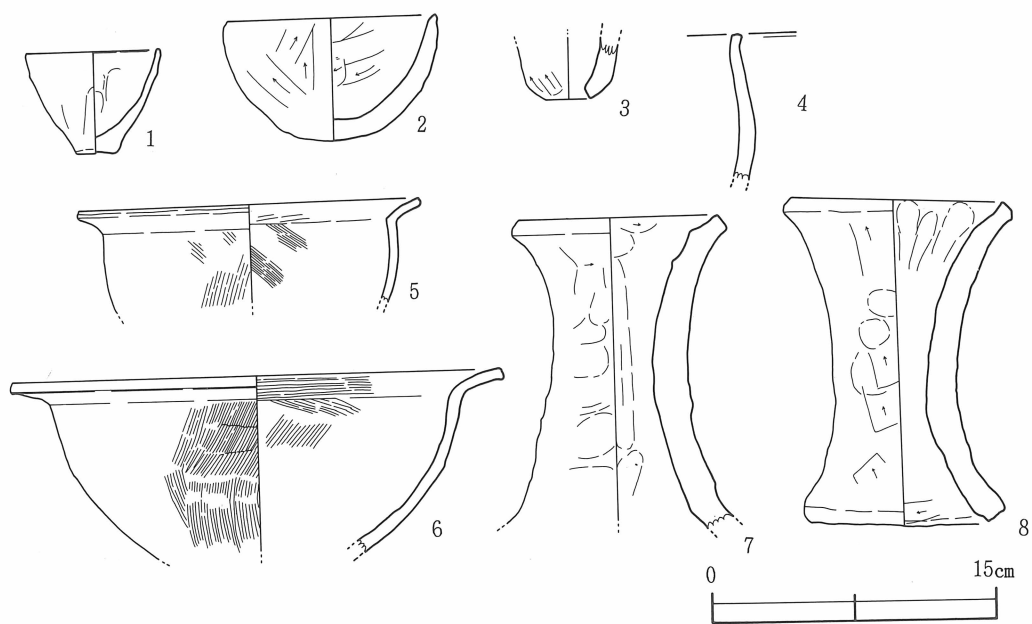
第16图 SB 14 出土土器 [1/4]



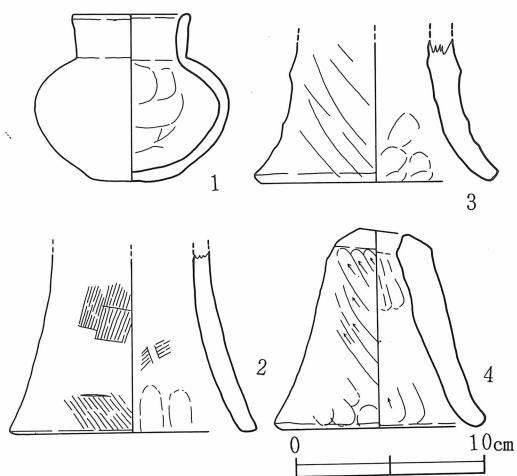
第17图 SB 15 出土土器 [1/4]



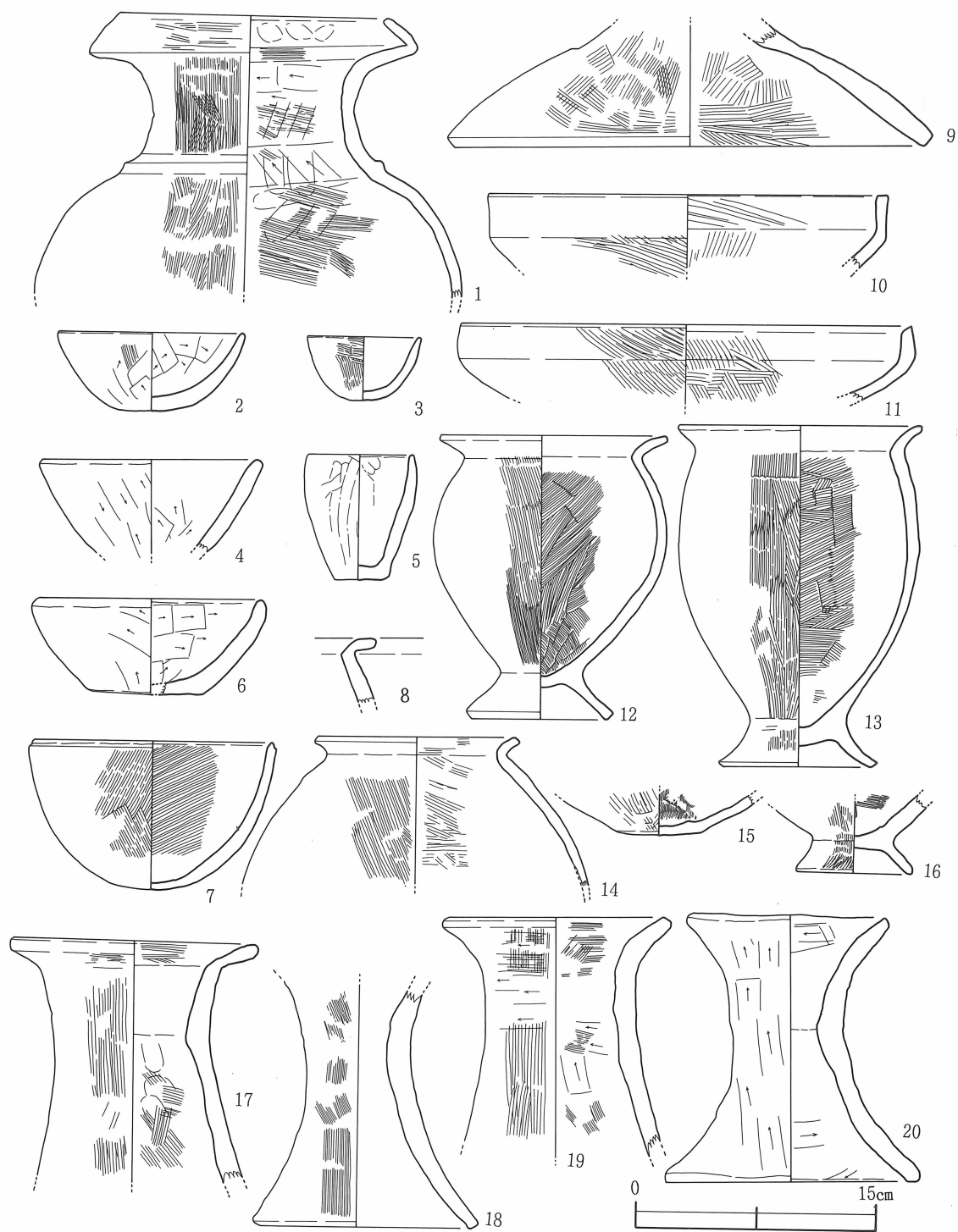
第18图 SB 51 出土土器 [1/4]



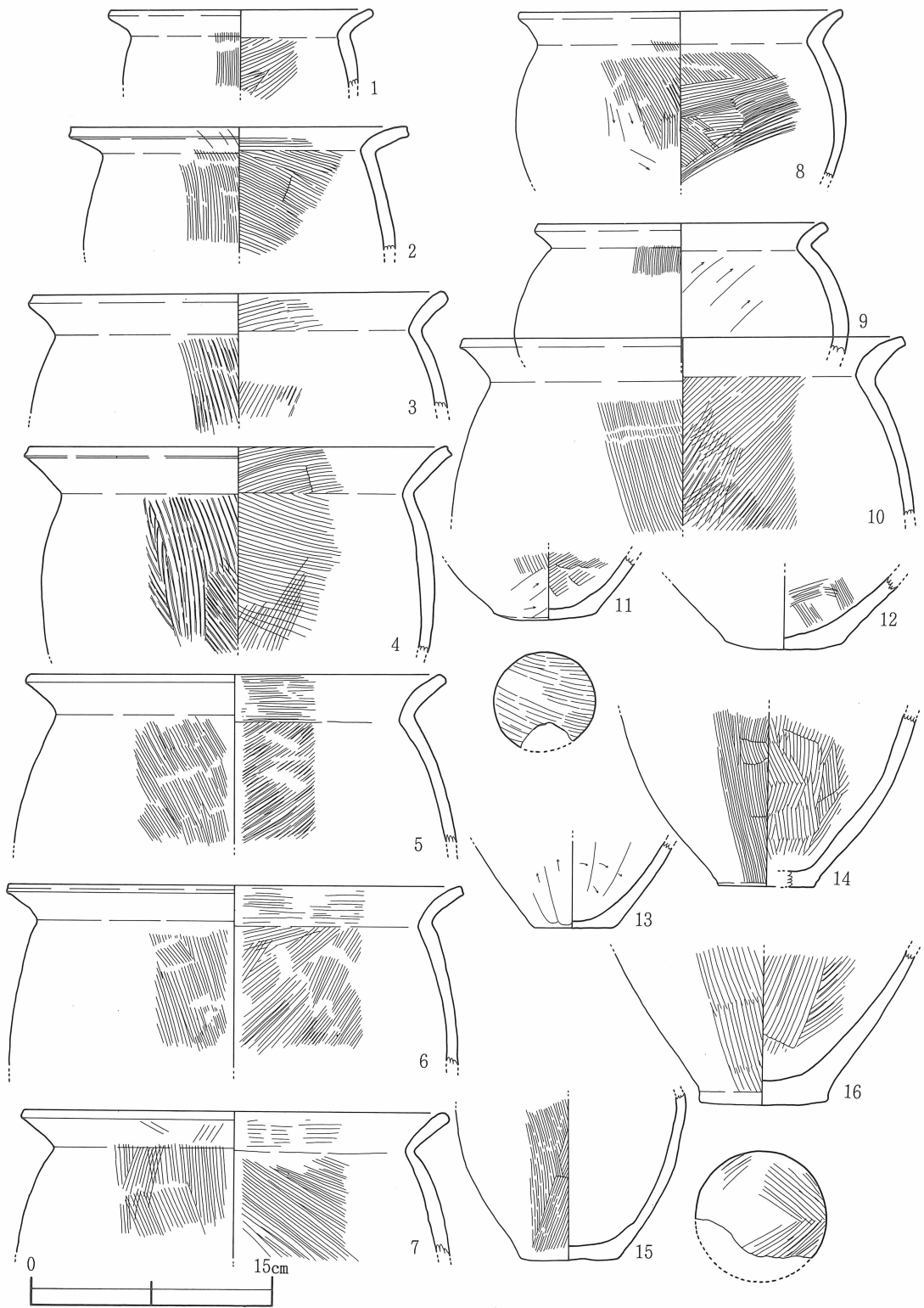
第19図 SB 51 出土土器 [1/4]



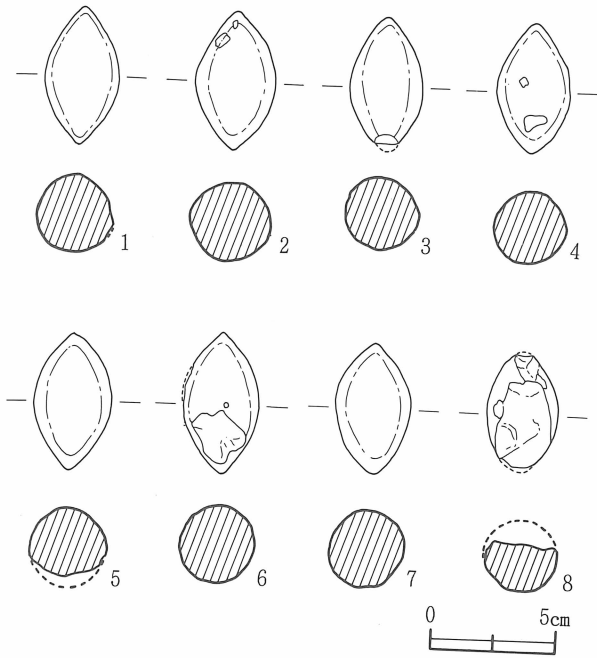
第20図 SB 54 出土土器 [1/4]



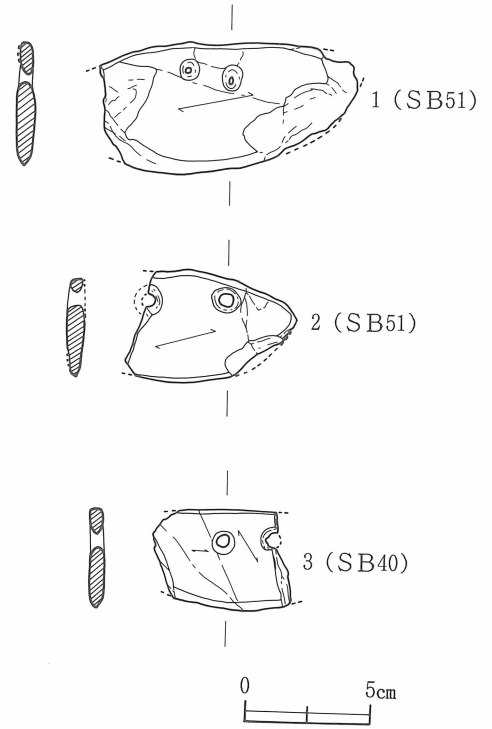
第21図 SB 54 出土土器 [1/4]



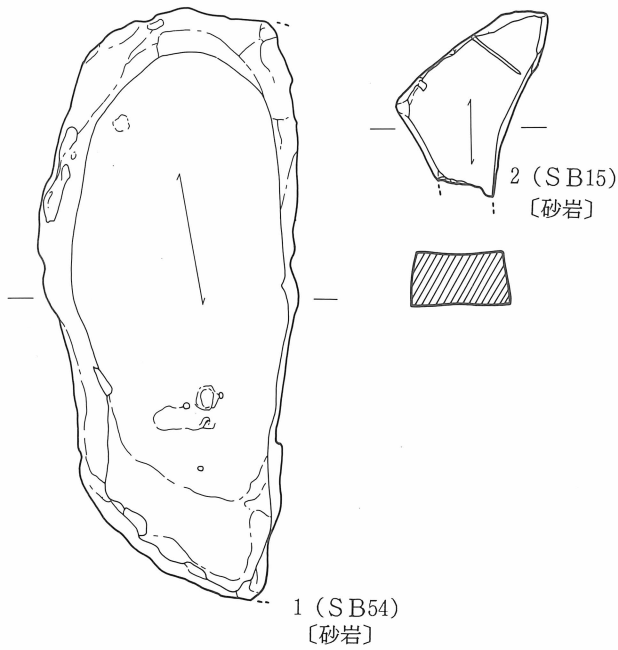
第22图 SB 54 出土土器 [1/4]



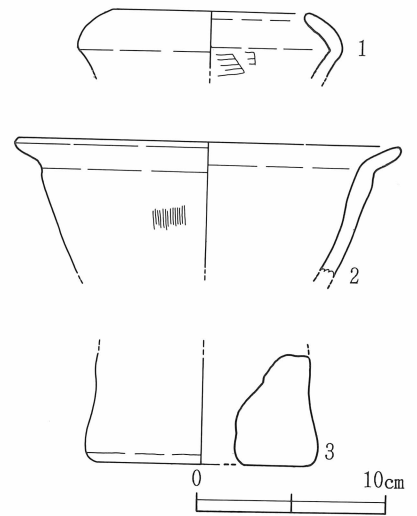
1~8 投弾  
第23図 SB 54 出土土製品 [1/3]



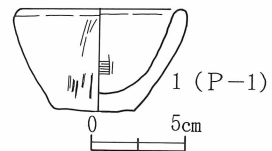
第24図 石庖丁 [1/3]



第25図 竪穴住居(SB)出土石製品 [1/3]



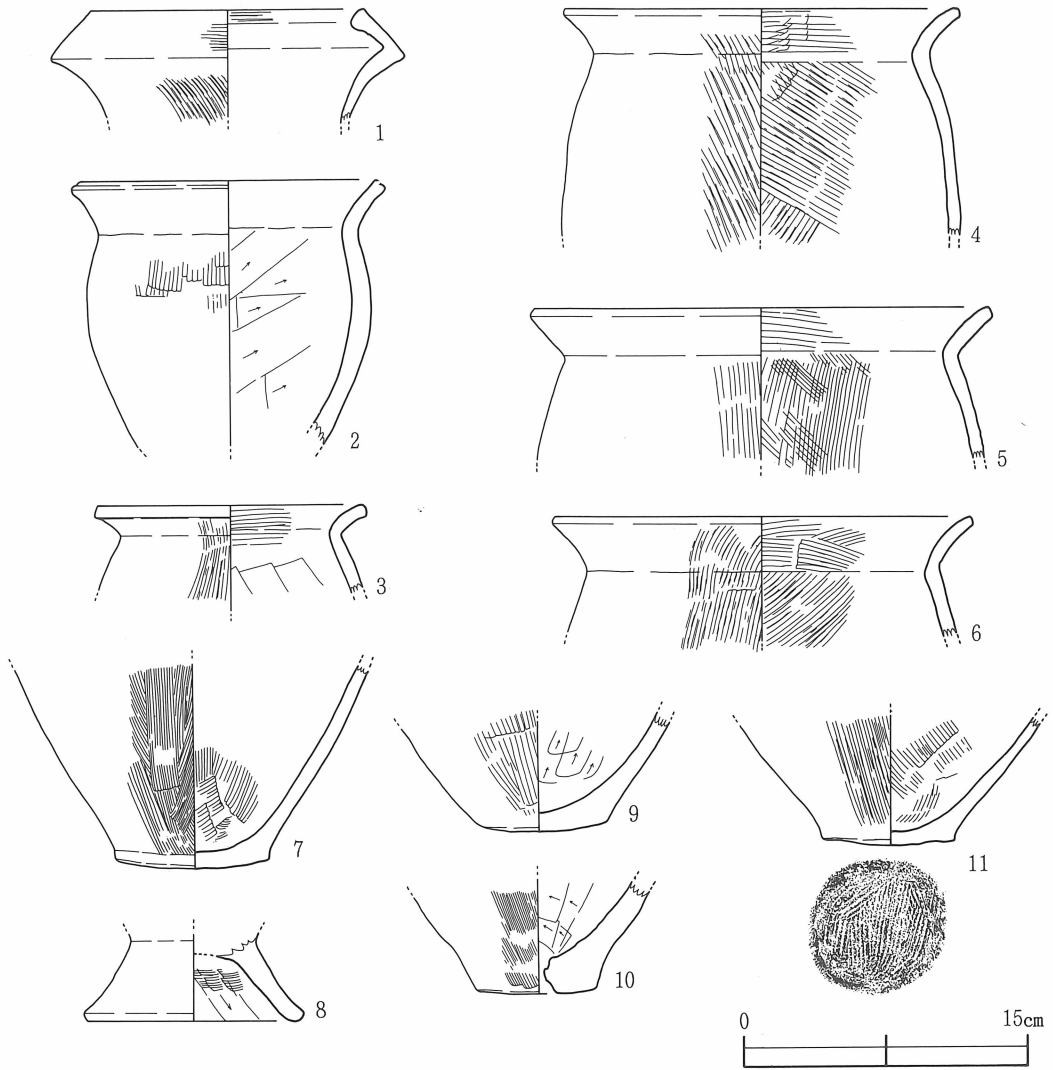
第26図 SB32 出土土器 [1/4]



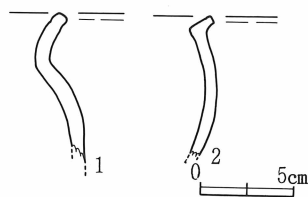
第27図 SB 42 出土土器 [1/4]



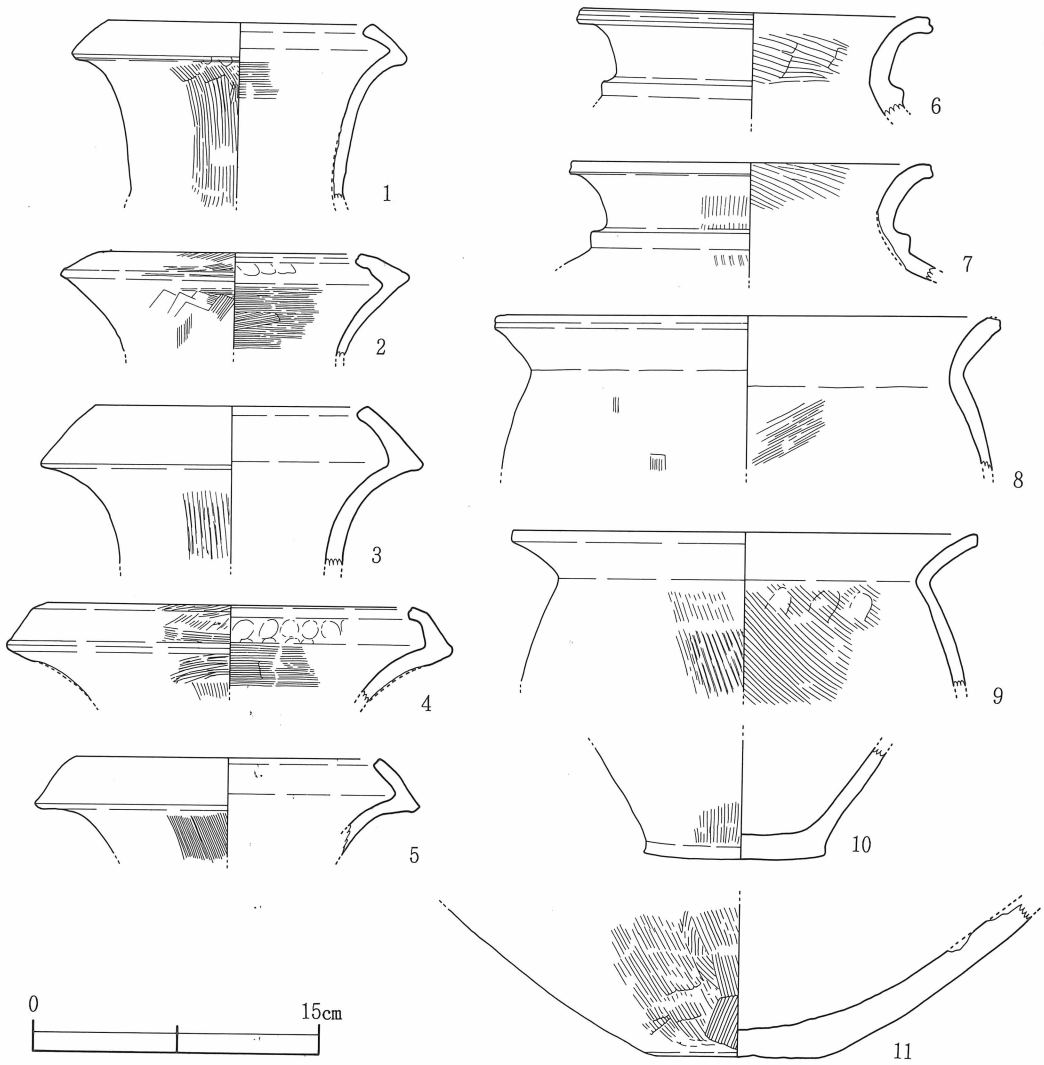
周溝状遺構出土品



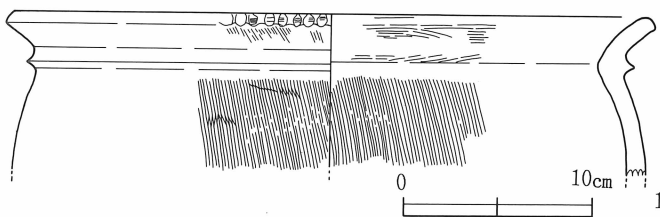
第28図 SX 02 出土土器 [1/4]



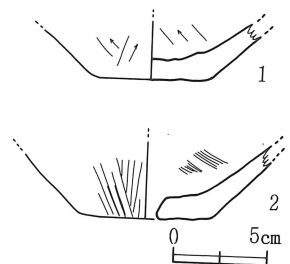
第29図 SX 03 出土土器 [1/4]



第30图 SX 04 出土土器 [1/4]



第31图 SX 05 出土土器 [1/4]



第32图 SD 02  
出土土器 [1/4]

## (2) 古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の遺構として中期の竪穴住居3軒、後期の竪穴住居16軒が発見されている。古墳時代の遺構は調査区のほぼ全域に分布し、中期の竪穴住居のみ東南部分に3軒集中する。

### 竪穴住居

S B 03 (第33、40図、図版7) 主軸を南-北にとり、南北の長さ4.32m、東西の長さ3.36mを測る。後世の削平が著しく、残存する壁の高さは3~6cmを測るにとどまる。遺物は土師器の甕、甑が出土した。

S B 04 (第33、39図、図版7) 主軸を東-西にとり、東西の長さ4.4m、南北の長さ4.32mを測る。壁高は8~15cmを測る。4本の支柱穴を検出し、規模は52~72cm、深さ52~70cmを測る。北側にカマドを持つが、両ソデ部が厚さ7cm、焼土堆積が厚さ12cm残るだけである。遺物は須恵器の坏身、坏、土師器の甕、坏、高坏、小型甕、長頸壺、甑が出土した。

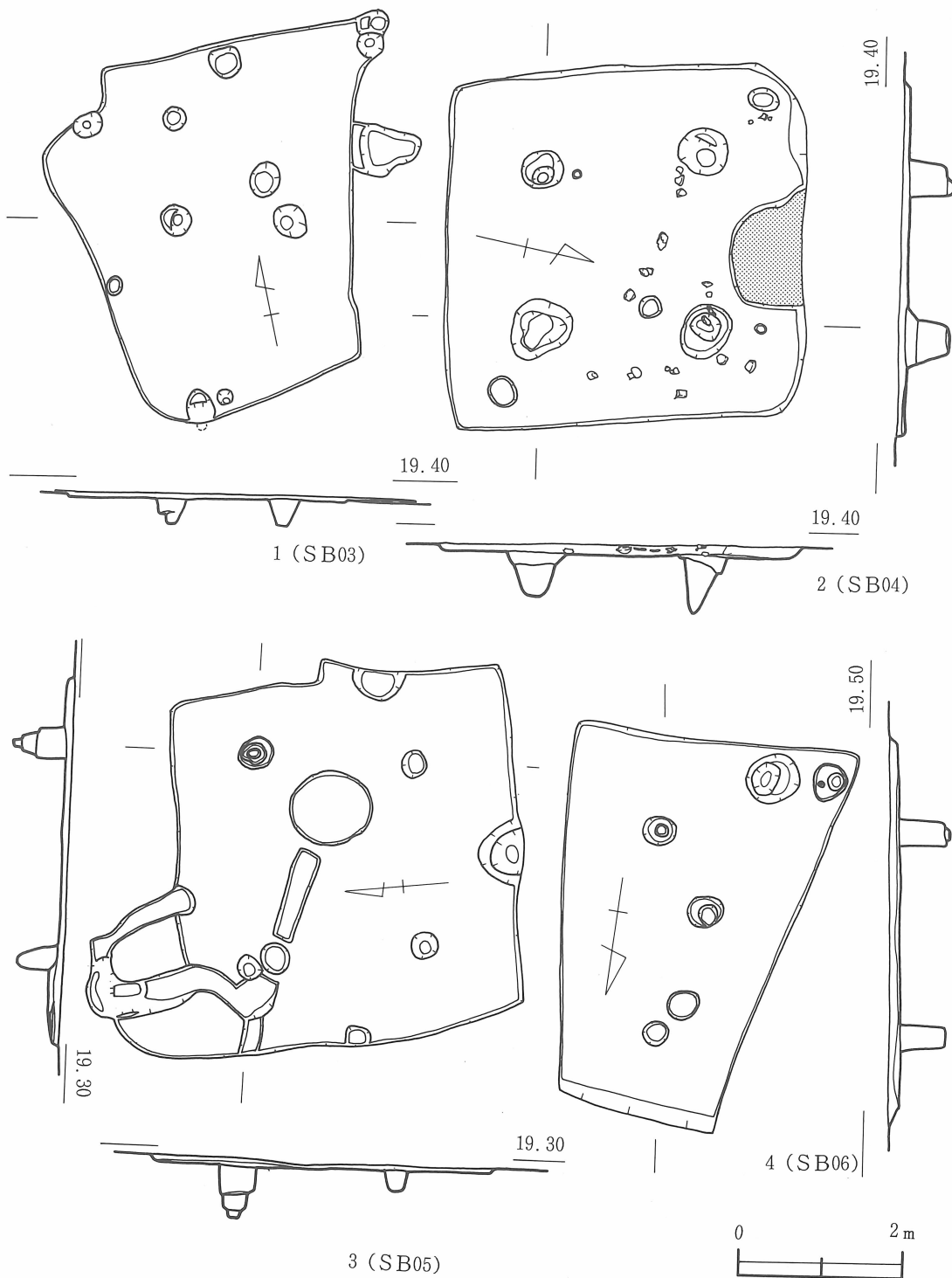
S B 05 (第33、41図、図版7) 主軸を東-西にとり、東西の長さ4.44m、南北の長さ4.08mを測る。残存する壁高は4~5cmと浅いが、4本の支柱穴跡を検出し、規模は52~72cm、深さ26~65cmを測る。遺物は古墳後期の須恵器の有蓋高坏脚部、高坏が出土した。

S B 06 (第33、42図) 主軸を南-北にとり、南北の長さ4.68m、東西の長さ3.4+ $\alpha$ mを測る。壁高は8~12cmを測る。4本の支柱穴跡のうち2本を検出し、規模は28~36cm、深さ54~62cmを測る。遺物は土師器の高坏、甕、弥生時代後期の甑把手片が出土した。

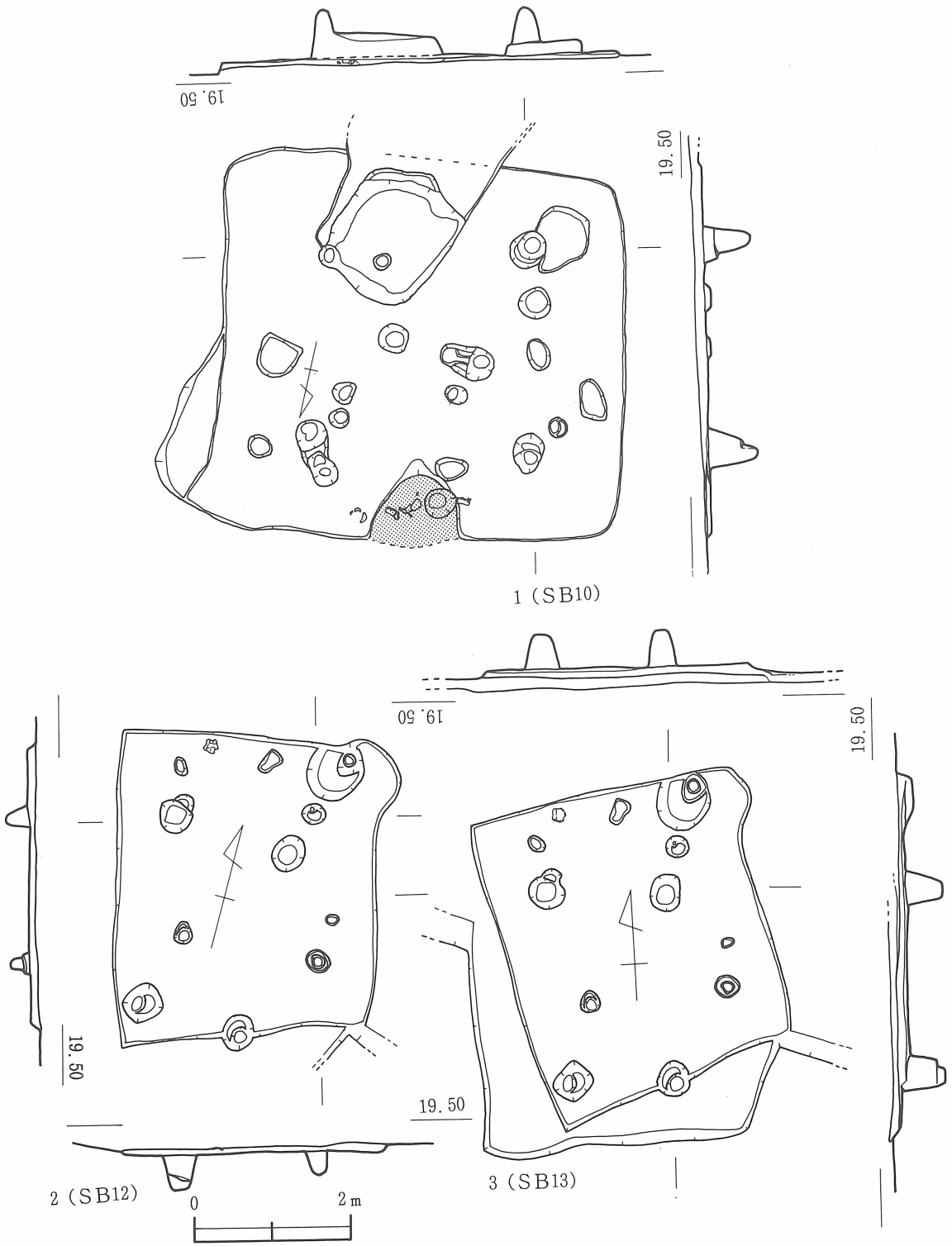
S B 10 (第34、43図、図版8) 主軸を東-西にとり、東西の長さ5.30m、南北の長さ4.96mを測る。壁高は5~12cmを測る。4つの支柱穴跡を検出し、規模は28~50cm、深さ61~63cmを測る。柱は粘土で固定されていた。北側に土師器の甑を含むカマドをもつが、原形はとどめていない。遺物は古墳時代後期の須恵器の坏身、土師器の坏身、高坏、甕、壺、弥生時代後期の甑が出土した。

S B 12 (第34、44図、図版8) 主軸を南-北にとり、南北の長さ3.6m、東西の長さ3.32mを測る。壁高は10cm前後を測る。4本の支柱穴跡を検出し、規模は25~40cm、深さ23~44cmを測る。遺物は古墳時代後期(Ⅲb)の須恵器の坏身、壺、土師器の坏、坏身、高坏、丸底壺、甑把手片、弥生時代後期の甕片が出土した。

S B 13 (第34、45図、図版8) 主軸を南-北にとり、南北の長さ3.84+ $\alpha$ m、東西の長さ3.36mを測る。S B 12に切られている。壁高は8~17cmを測る。4本の支柱穴跡を検出し、規模は40~48cm、深さ44~49cmを測る。遺物は古墳時代後期の土師器の坏、碗、甕が出土した。



第33図 SB 03.04.05.06 実測図 [1/80]



第34図 SB 10. 12. 13 実測図 [1/80]

S B 17 (第35、46図、図版7) 主軸を南—北にとり、南北の長さ5.32 m、東西の長さ4.0 mを測る。北西側をS B 07に切られている。残存壁高は3~5 cmとかなり浅い。関連柱穴は不明である。遺物は10世紀~11世紀の須恵器の甕、細片が出土した。

S B 18 (第35、47図、図版8) 主軸を南—北にとる。南北の長さ4.2 m、東西の長さ4.1 mを測る。東側にカマドを持つが原形はとどめていない。遺物は古墳時代後期(Ⅲb)の須恵器の蓋、瓶、土師器の坏、甕、器台、甑取手片、カマド内から弥生時代後期の甕が出土した。

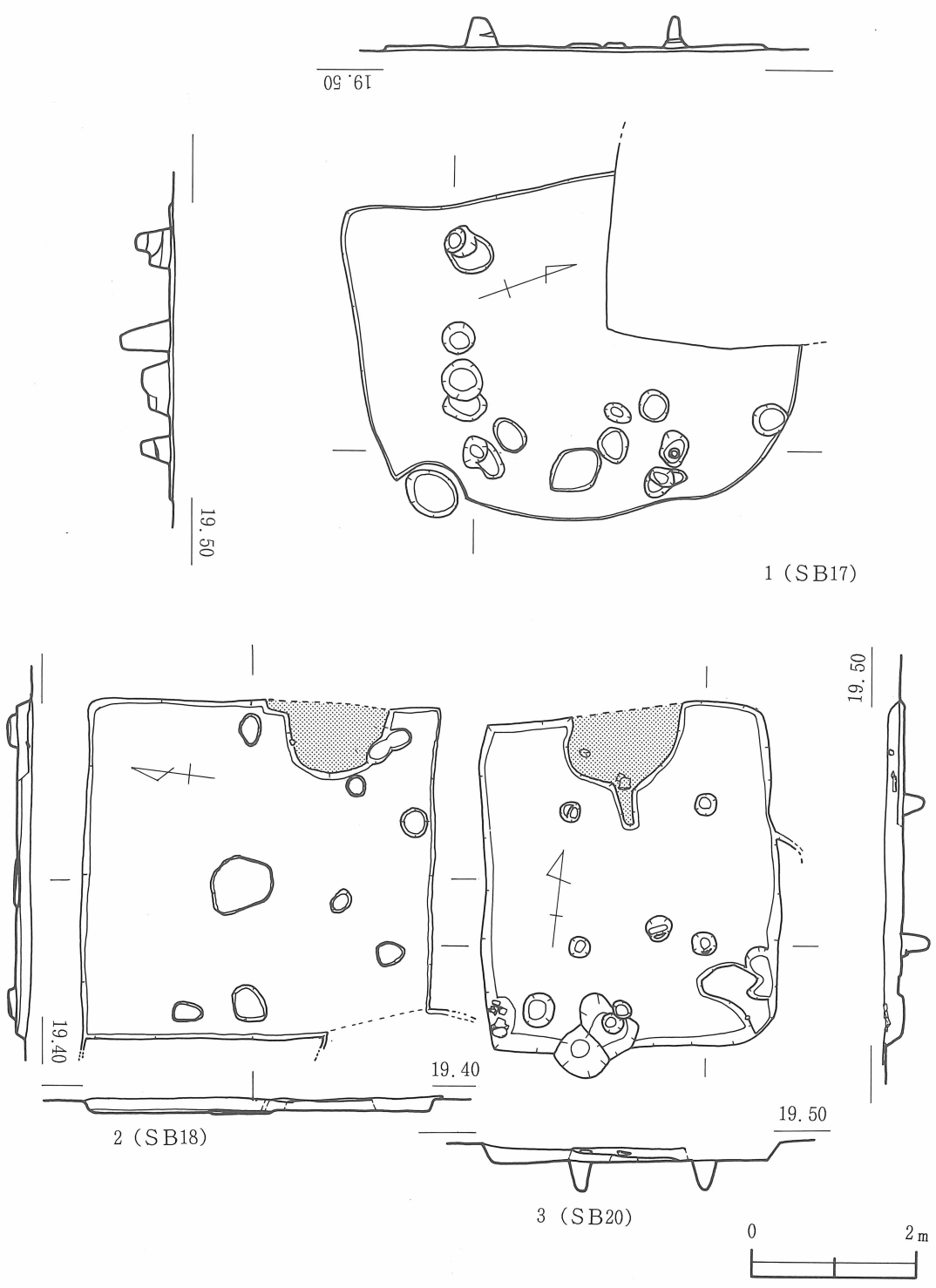
S B 20 (第35、48図、図版8) 主軸を東—西にとり、東西の長さ3.6 m、南北の長さ4.16 mを測る。残存壁高は24cm前後である。4本の支柱穴跡を検出し、規模は24~28cm、深さ23~33 cmを測る。北側にカマドを持ち、片側のソデ部が残る。遺物は古墳時代後期(Ⅲb)の須恵器の坏、蓋、高坏、壺、土師器の坏身、甕、甑、土錘、陶器の鉢、カマド付近から土師器の甕、甑が出土した。

S B 21 (第36、49、50、63、92図、図版9) 主軸を北西—南東にとり、北西の長さ5.4 m、南西の長さ4.88 mを測る。残存壁高は21~32cmを測る。床面でコの字型に一段低くなる部分がある。4本の支柱穴跡を検出し、規模は48~64cm、深さ60~70cmを測る。北側に支脚の残るカマドを持つ。カマド付近に多数の土器が散乱していた。遺物は古墳時代後期(Ⅲb)の須恵器の坏、高坏、甕、土師器の坏、坏身、高坏、甕、壺、鉢、甑、球形土錘、弥生時代後期の甑、甕、甑把手片、泥岩製砥石が出土した。

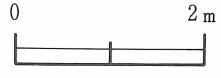
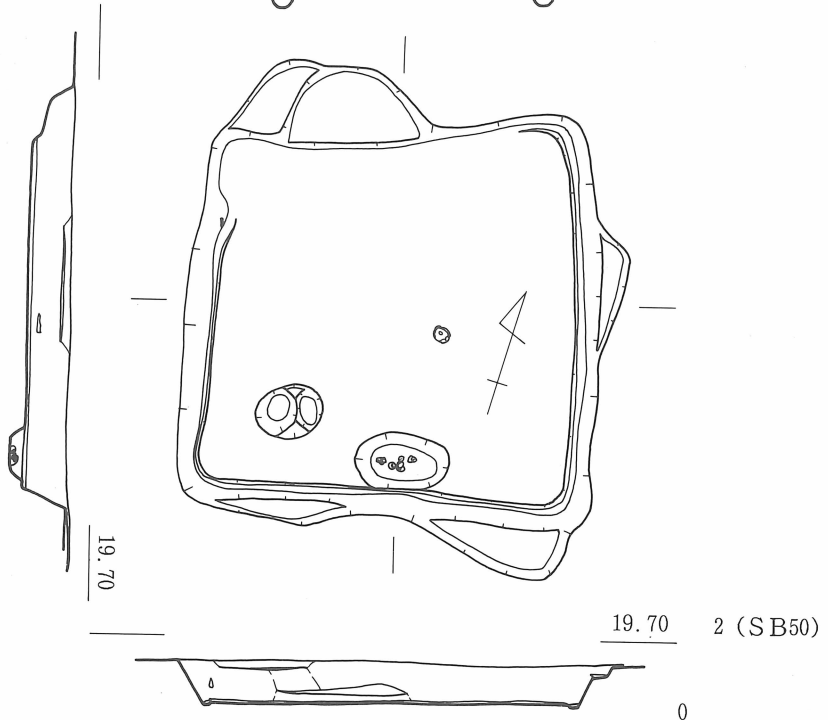
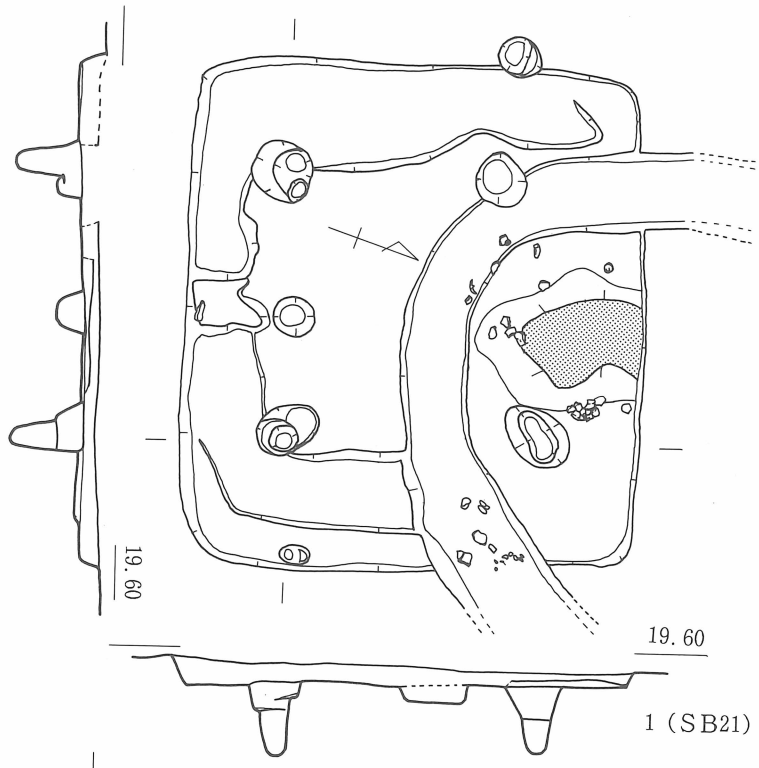
S B 50 (第36、51、62図、図版9) 主軸を東—西にとり、東西の長さ4.72 m、南北の長さ4.56 mを測る。残存壁高は38~44cmを測る。東西南側の壁にそって幅2~5 cm、深さ1~4 cmの溝がはしる。南側の壁中央部には96~58cm、深さ17cmの楕円形土壇があり、土師器の埴、無頸埴、手捏土器が数点出土した。他の遺物は古墳時代後期(Ⅲb)の土師器の壺、小型壺、弥生時代後期の高坏、鉄鎌が出土した。

S B 52 (第37、52、53、54、61図、図版9) 主軸を北東—南西にとり、北西の長さ7.64 m、南西の長さ6.84 mを測る大型のものである。残存壁高は49~58cmを測る。4本の支柱穴跡を検出し、規模は20~32cm、深さ55~65cmを測る。4壁にそって幅6~24 cm、深さ2~9 cmの溝がはしる。南東の壁側中央部には1.04×0.73 m、深さ28cmの楕円形土壇をもつ。遺物は古墳時代後期(Ⅲb)の須恵器の坏、蓋、椀、鉢、深鉢、土師器の坏身、壺、丸底甕、埴、椀、甑、器台、高坏(ミニチュア)、土錘、弥生時代後期の蓋、手捏土器、ガラス玉が出土した。

S B 55 (第37、55図、図版9) 主軸を北東—南西にとり、北西の長さ3.2 m以上、南西の長さ3.16 m以上を測る。残存壁高は10~12cmを測る。遺物は古墳時代後期(Ⅲb)の土師器の埴、壺が出土した。

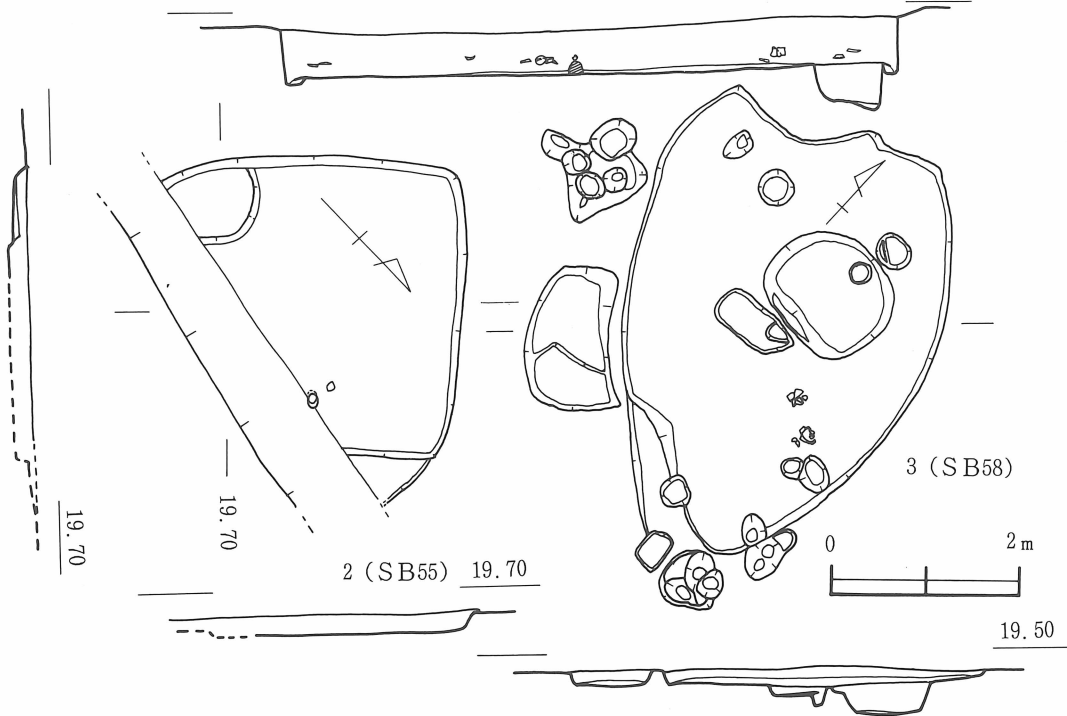
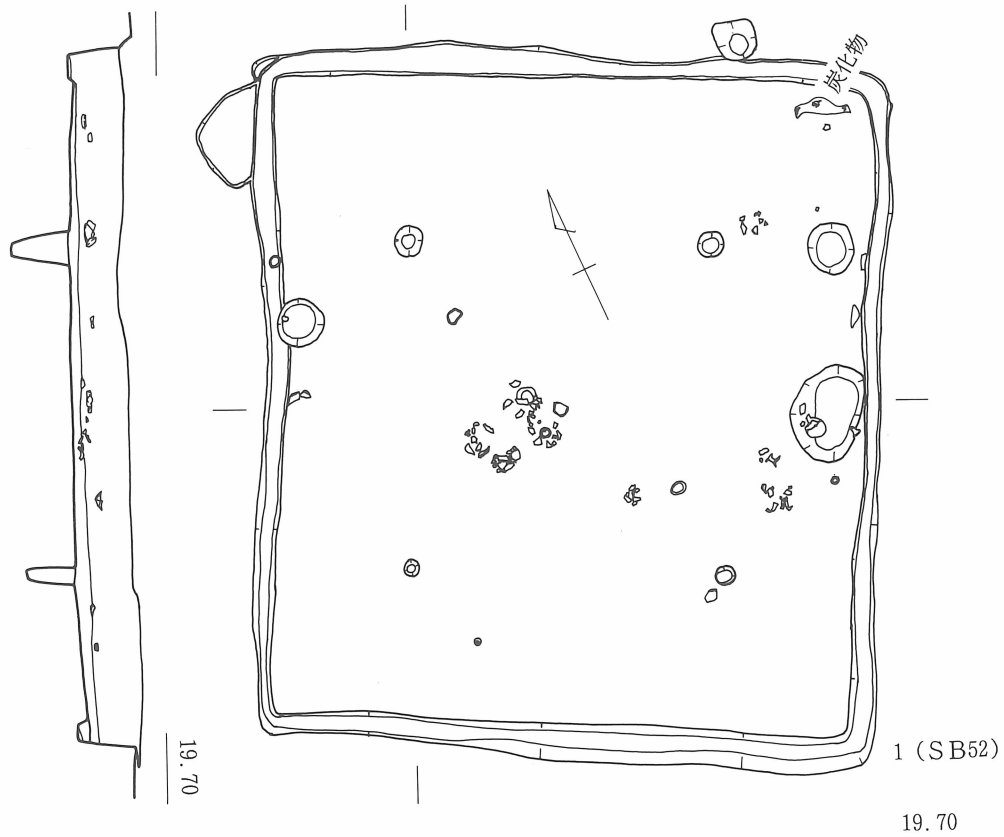


第35図 SB 17. 18. 20 実測図 [1/80]

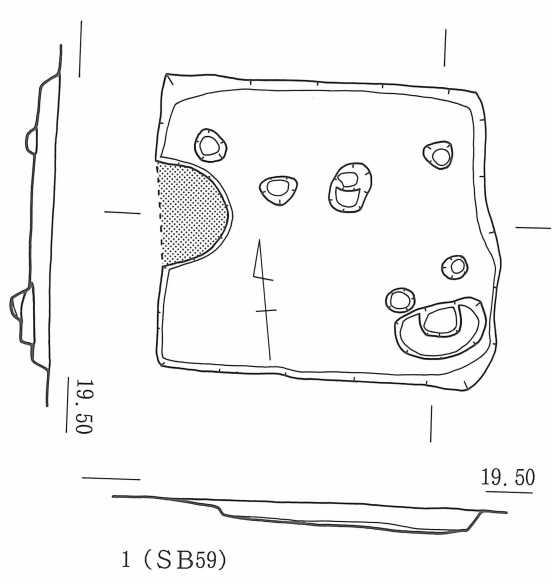


第36図 SB 21.50 実測図 [1/80]

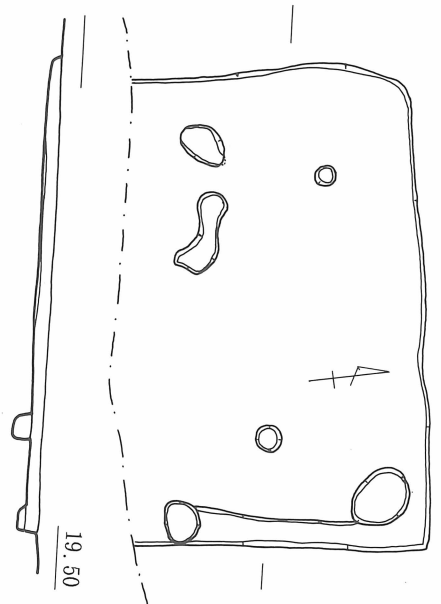




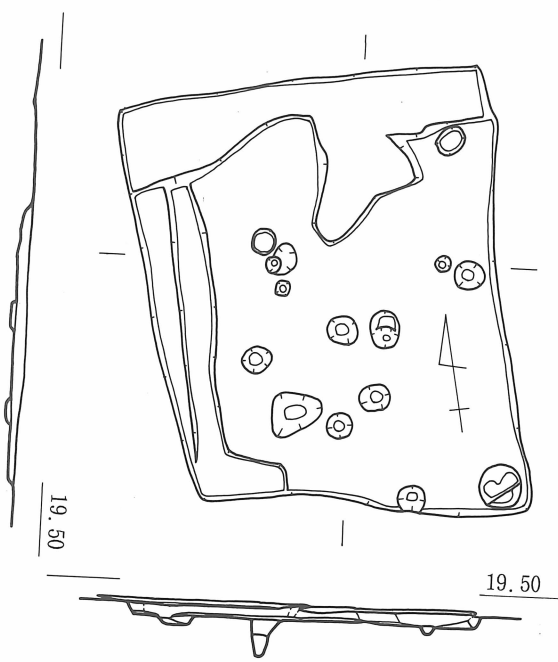
第37図 SB 52.55.58 実測図 [1/80]



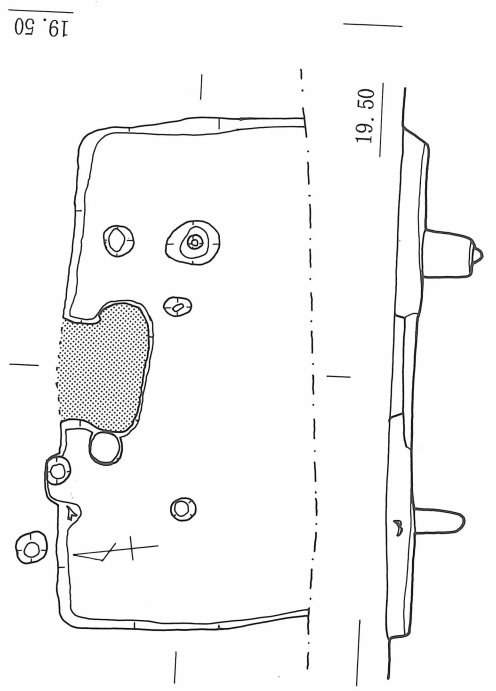
1 (SB59)



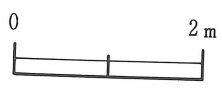
2 (SB60)



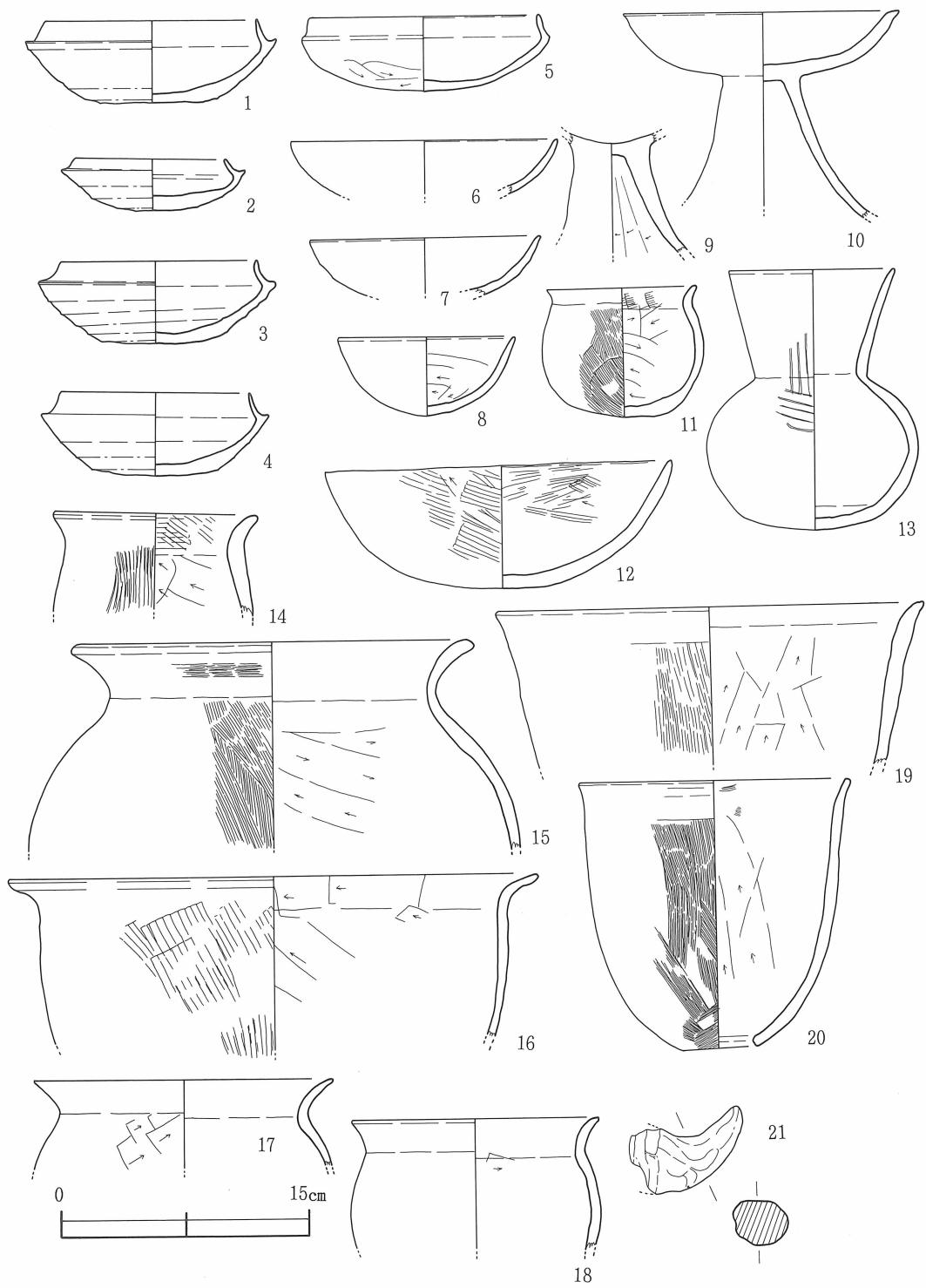
3 (SB61)



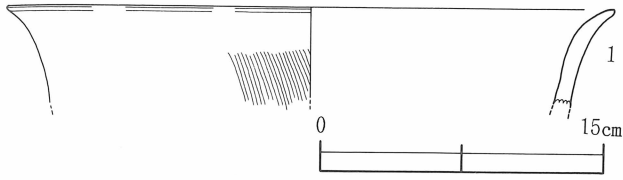
4 (SB62)



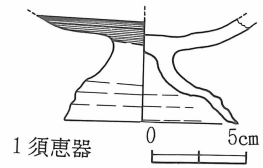
第38圖 S B 59.60.61.62 [1/80]



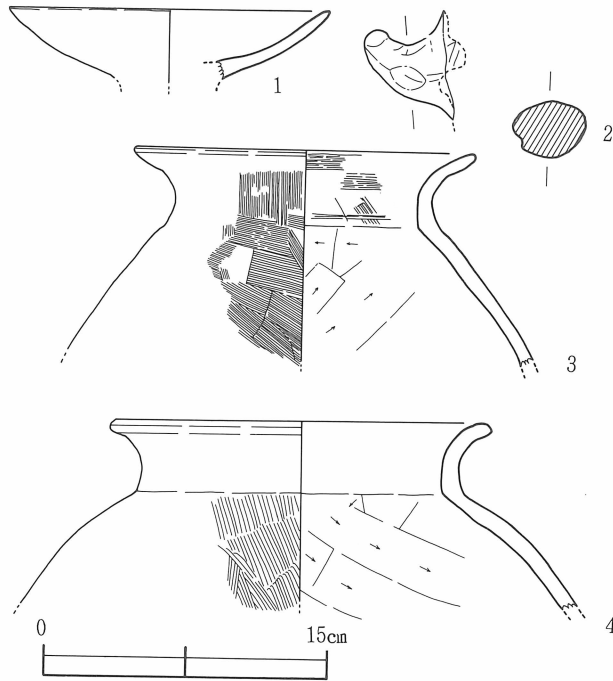
第39图 SB 04 出土土器 [1/4]



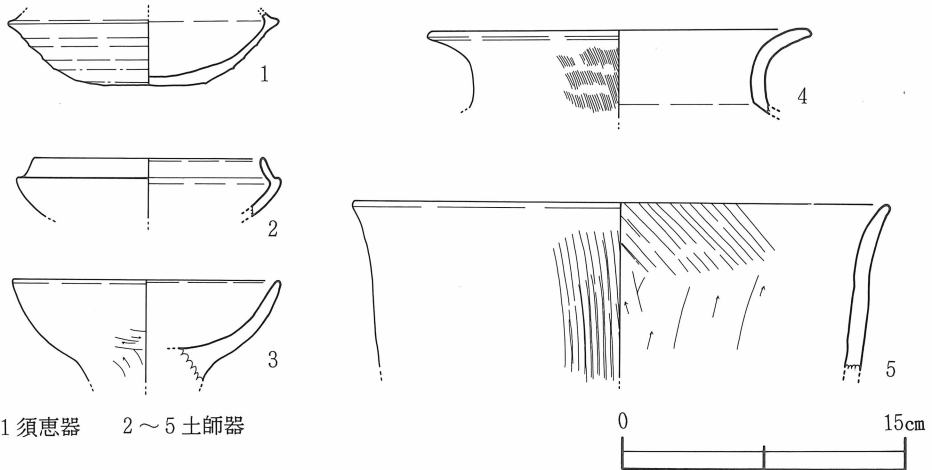
第40図 SB 03 出土土器 [1/4]



第41図 SB 05 出土土器 [1/4]

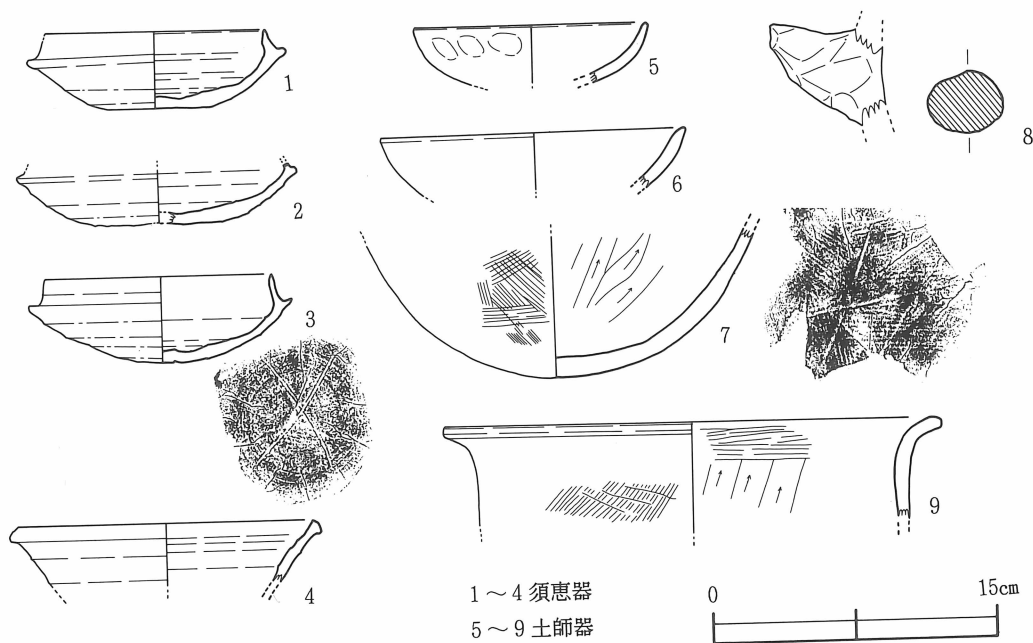


第42図 SB 06 出土土器 [1/4]

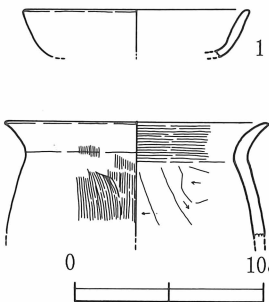


1 須恵器 2~5 土師器

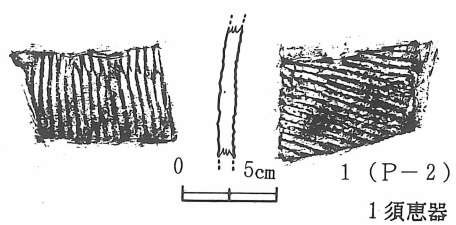
第43図 SB 10 出土土器 [1/4]



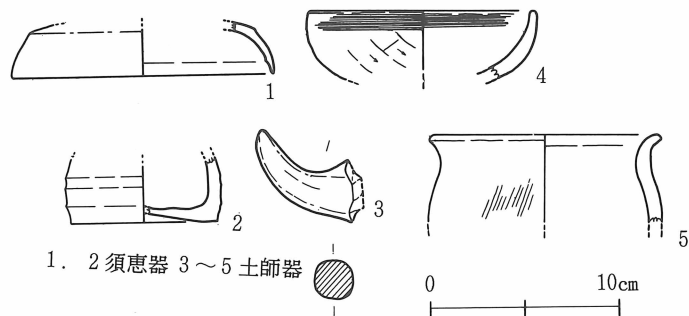
第44図 SB 12 出土土器 [1/4]



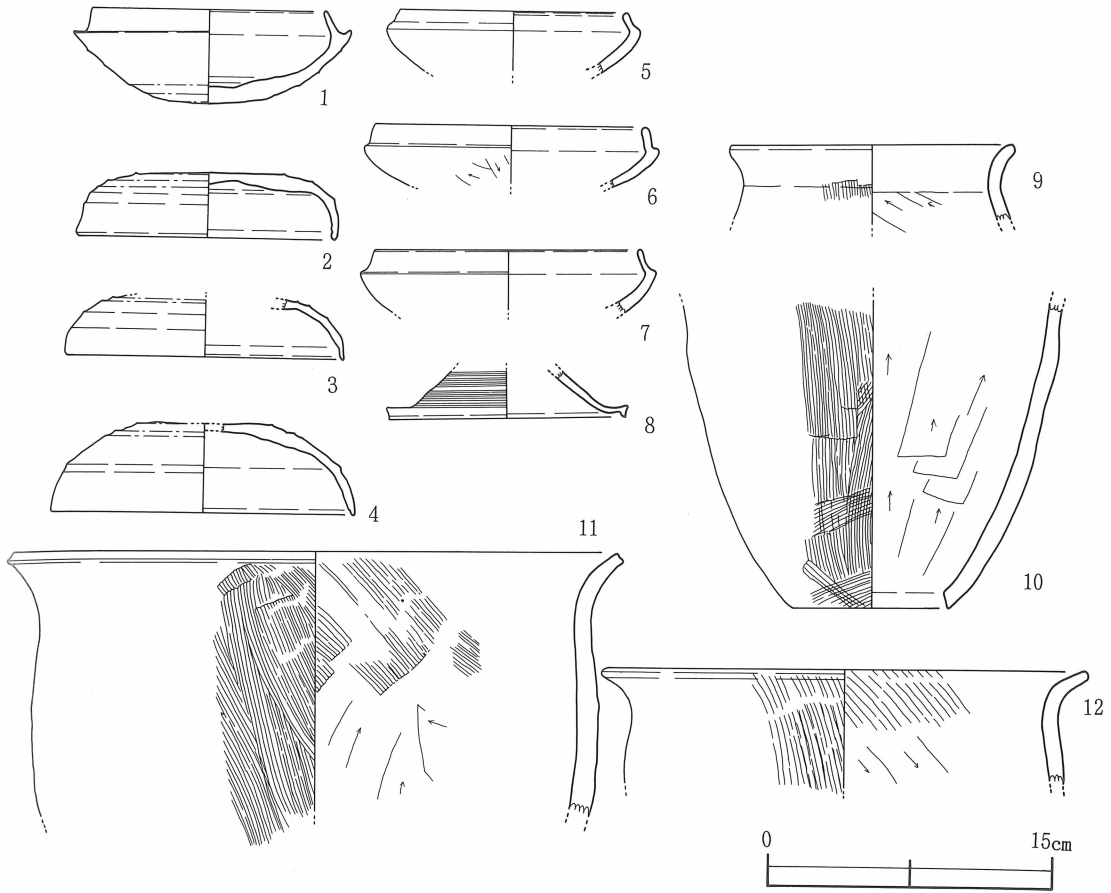
第45図 SB 13 出土土器 [1/4]



第46図 SB 17 出土土器 [1/4]



第47図 SB 18 出土土器 [1/4]



1～4 須恵器 5～12 土師器

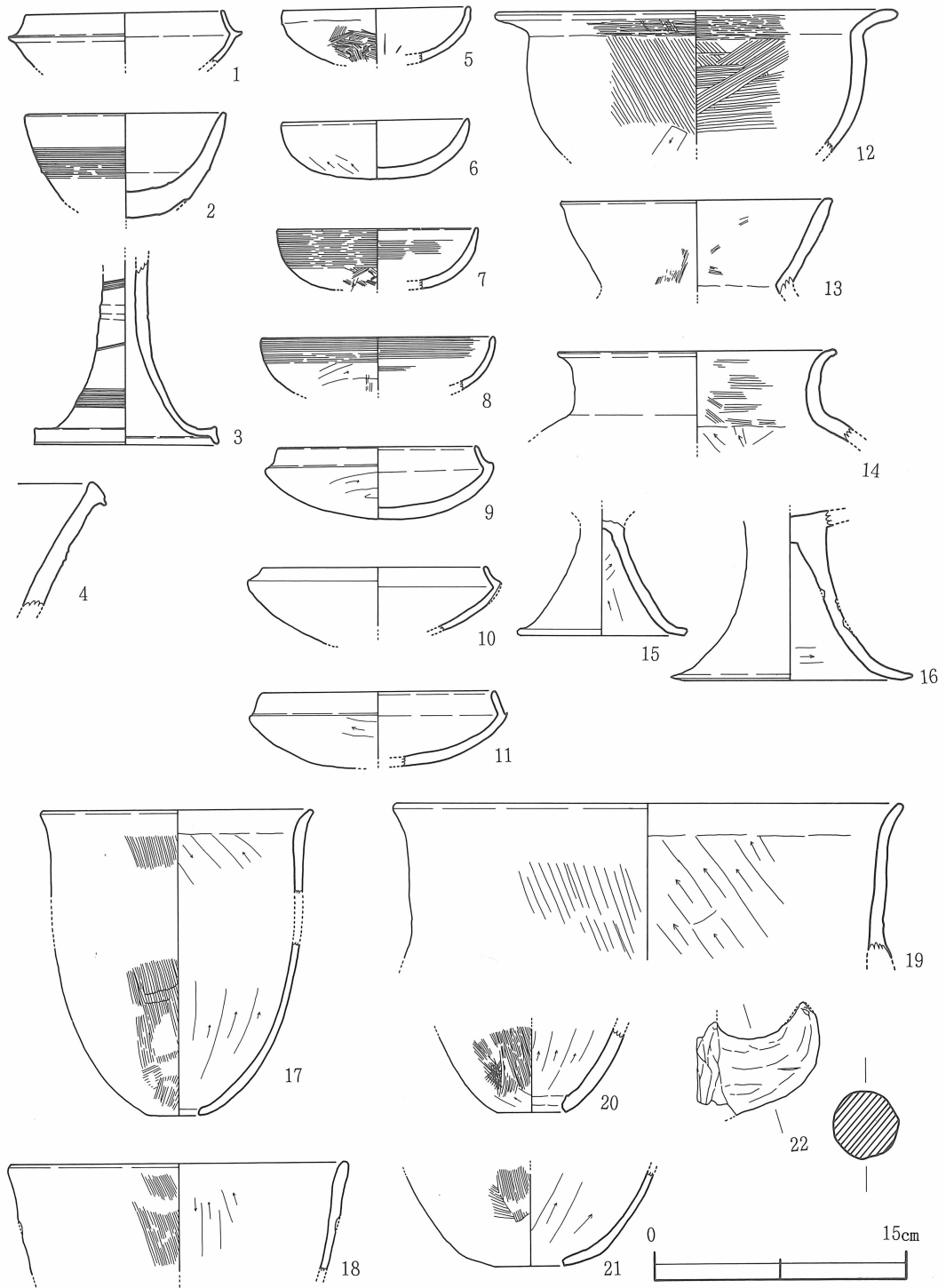
第48図 SB 20 出土土器 [1/4]

SB58 (第37、56図) 残存状態がかなり悪く、主軸は不明。北西の長さ3.36m、南西の長さ4.76mを測る。壁高は6～12cmを測るにとどまる。遺物は古墳時代後期の須恵器の坏身、土師器の椀、甕、壺、弥生式土器の甕が出土した。

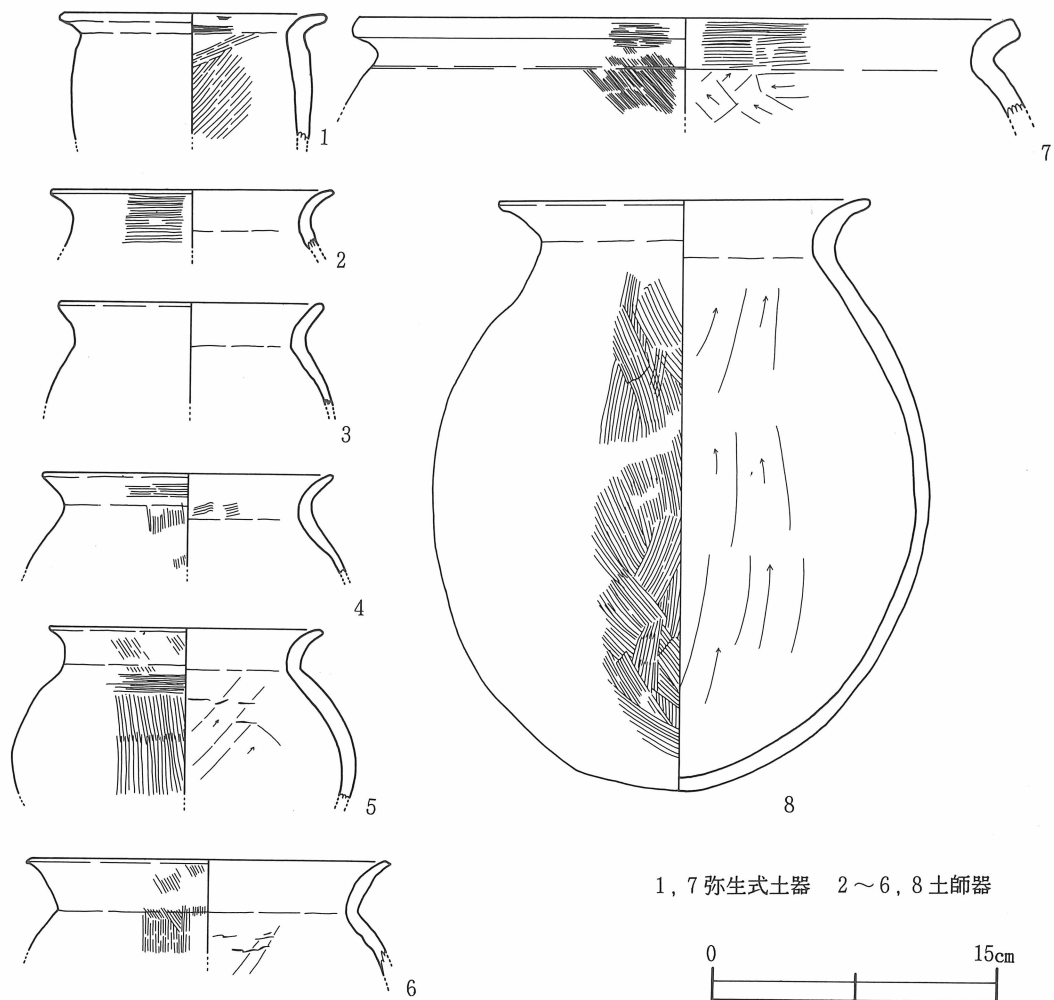
SB59 (第38、57図) 主軸を南-北にとり、南北の長さ3.16m、東西の長さ3.6mを測る。残存壁高は13～20cmを測る。西側にカマドを持つが、原形はとどめていない。遺物は古墳時代後期(Ⅲb)の須恵器の坏身、土師器の坏、甕、椀が出土した。

SB60 (第38、58図) 南側を後世の溝に切られているため主軸は不明。北の長さは5.08m、西の長さは3.08m以上を測る。残存壁高は7～12cm。遺物は古墳時代後期(Ⅲb)の須恵器の坏身、小型甕が出土した。

SB61 (第38、59図) 主軸を南-北にとり南北の長さ4.6m、東西の長さ3.88mを測る。残存壁高は6～13cm。遺物は古墳時代後期(Ⅲb)の土師器の甕が出土した。

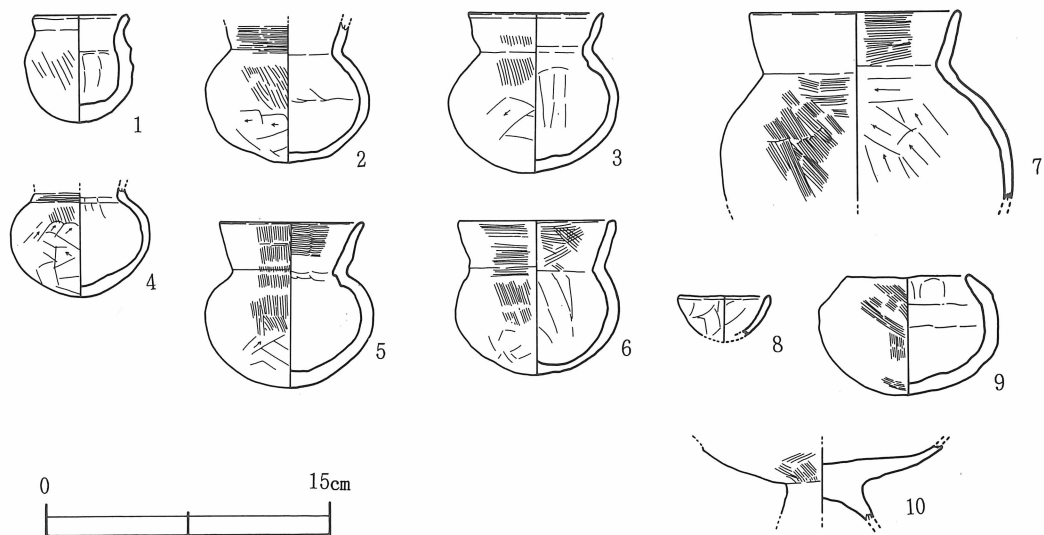


第49图 SB 21 出土土器 [1/4]



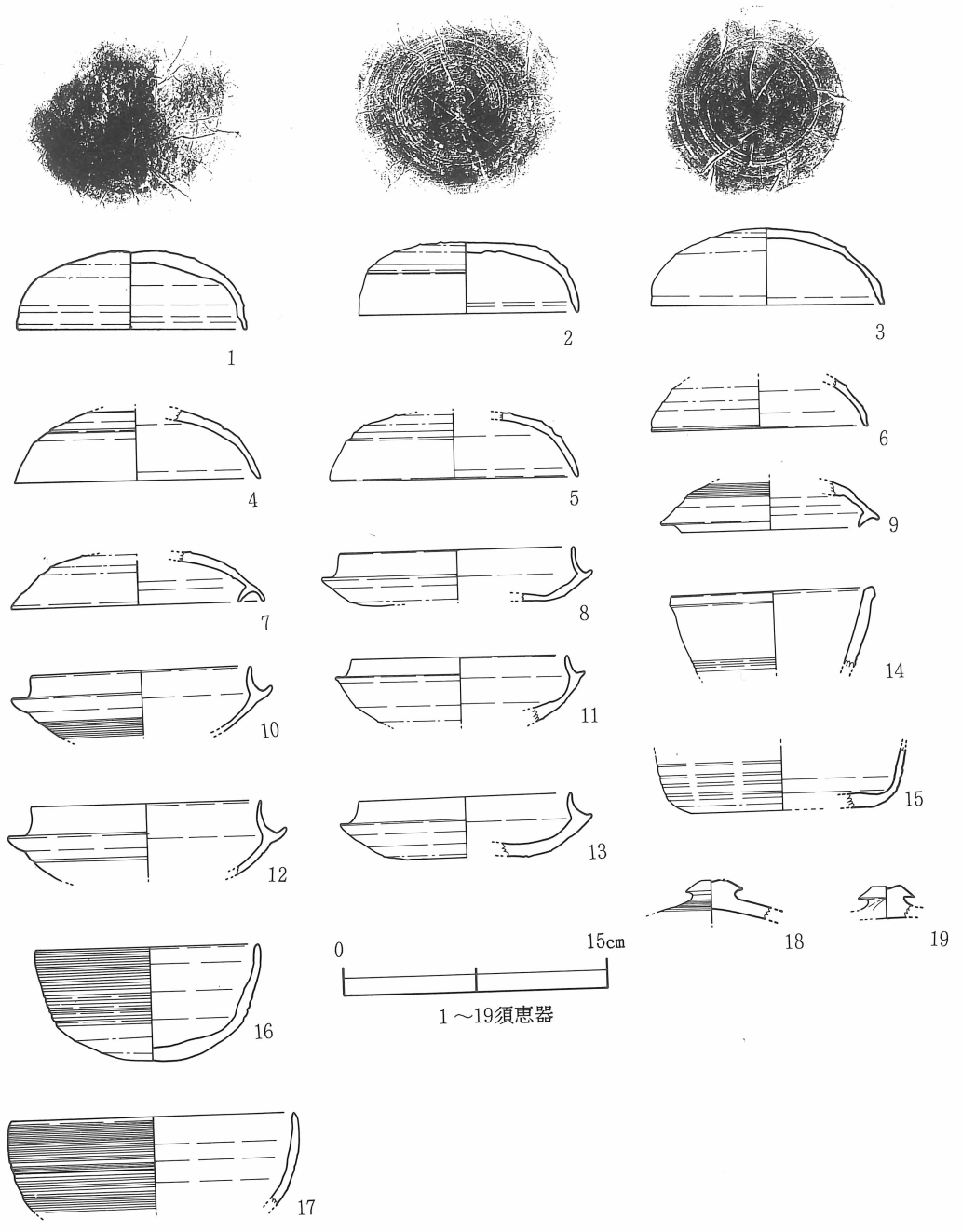
1, 7 弥生式土器 2~6, 8 土師器

第50图 SB 21 出土土器 [1/4]

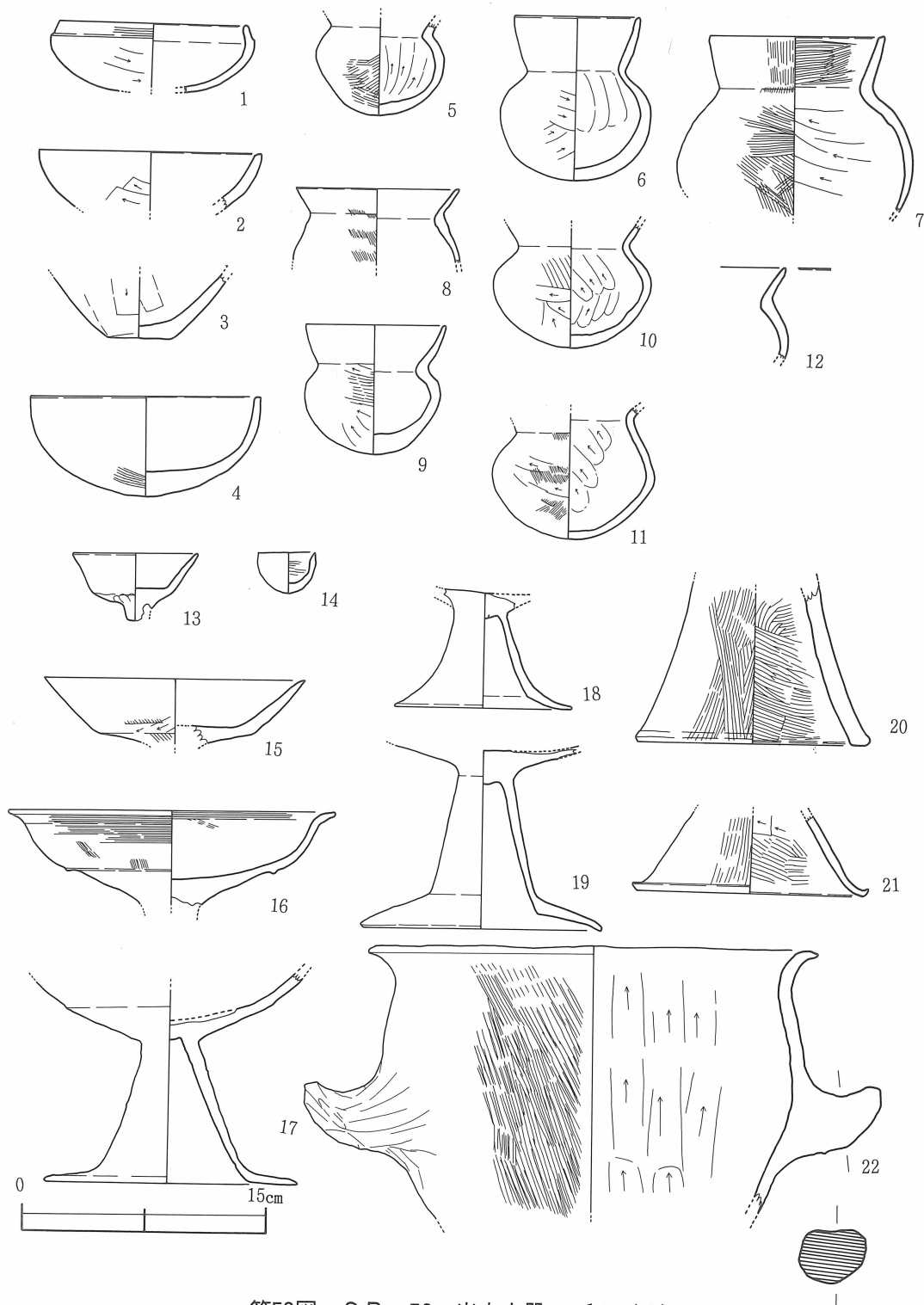


第51图 SB 50 出土土器 [1/4]

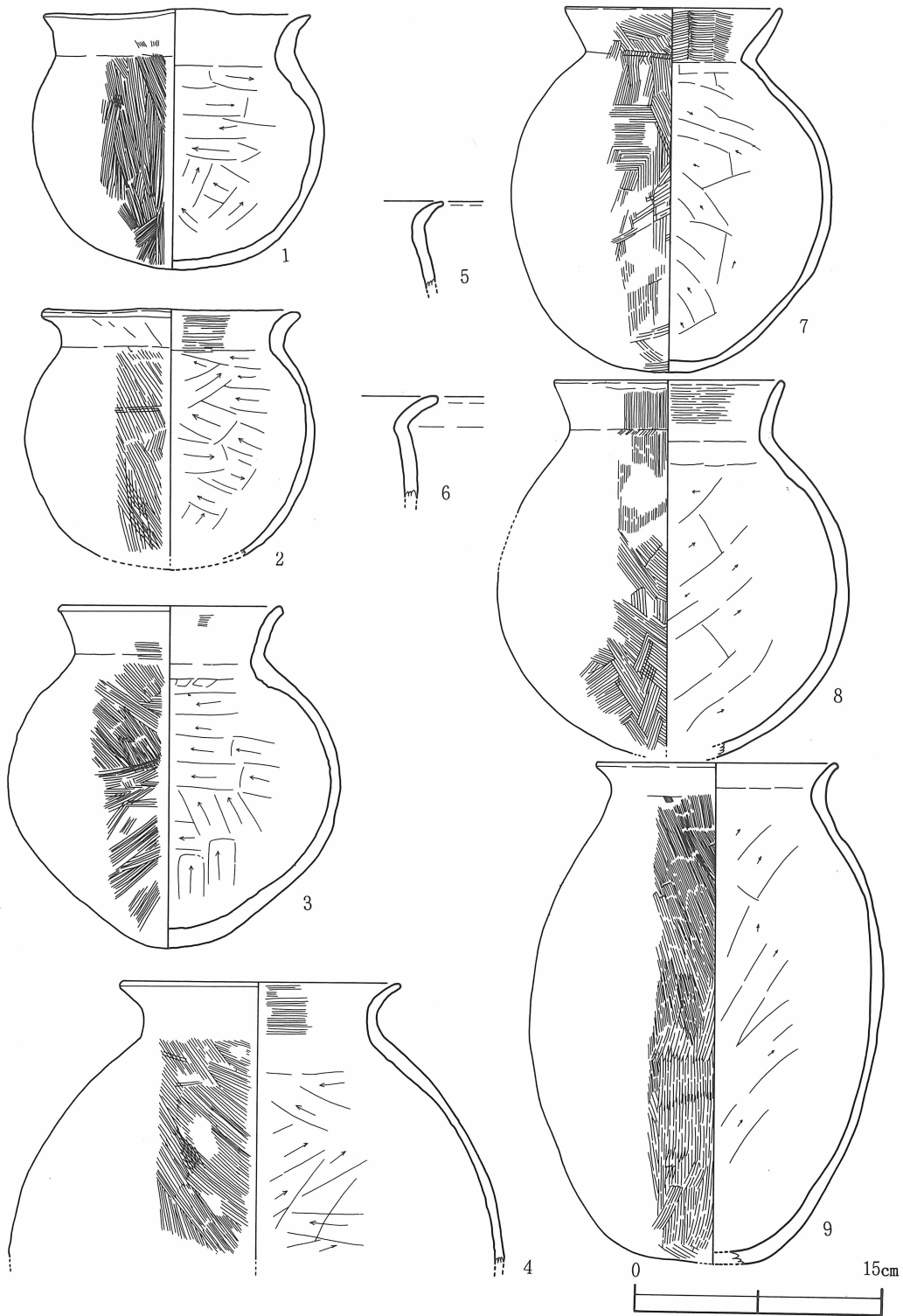




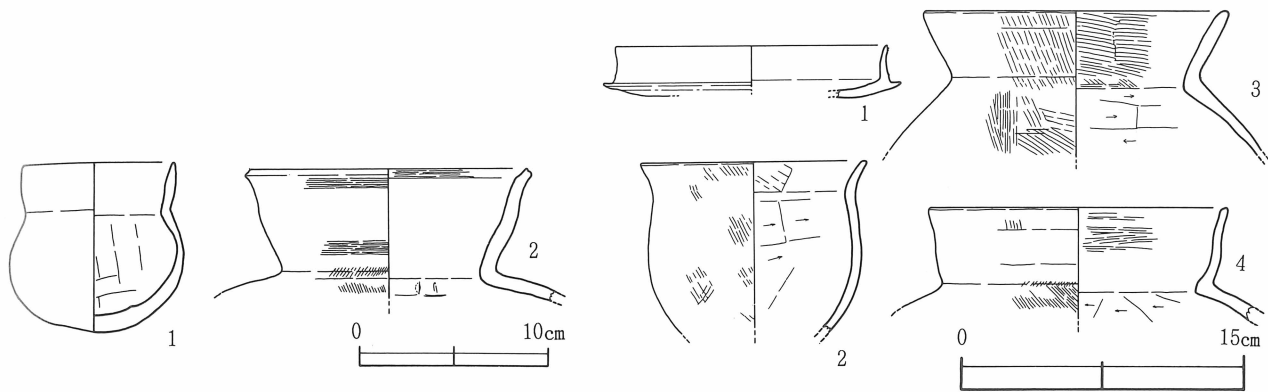
第52図 SB 52 出土土器 [1/4]



第53图 SB 52 出土土器 [1/4]



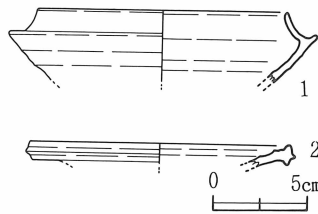
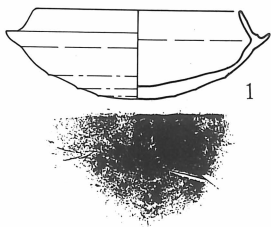
第54図 SB 52 出土土器 [1/4]



1 須恵器 2~4 土師器

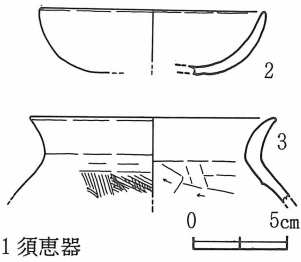
第55図 SB 55 出土土器 [1/4]

第56図 SB 58 出土土器 [1/4]

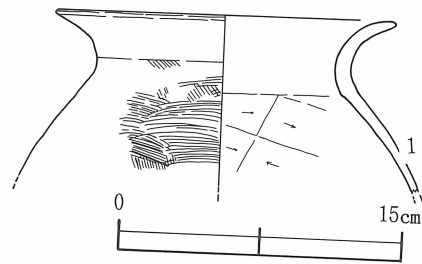


1. 2 須恵器

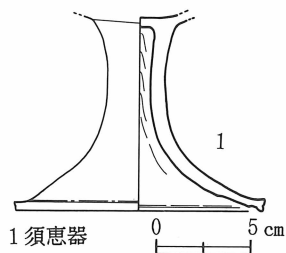
第58図 SB 60 出土土器 [1/4]



第57図 SB 59 出土土器 [1/4]



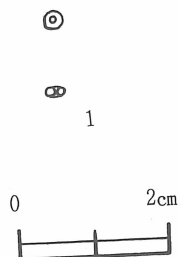
第59図 SB 61 カマド出土土器 [1/4]



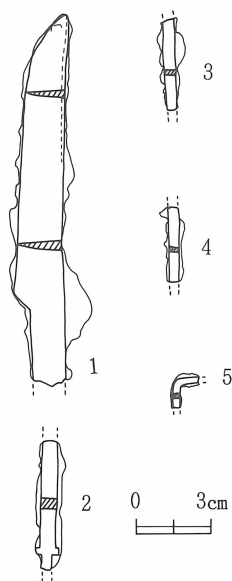
第60図 SB 62 出土土器 [1/4]

装身具

石製品

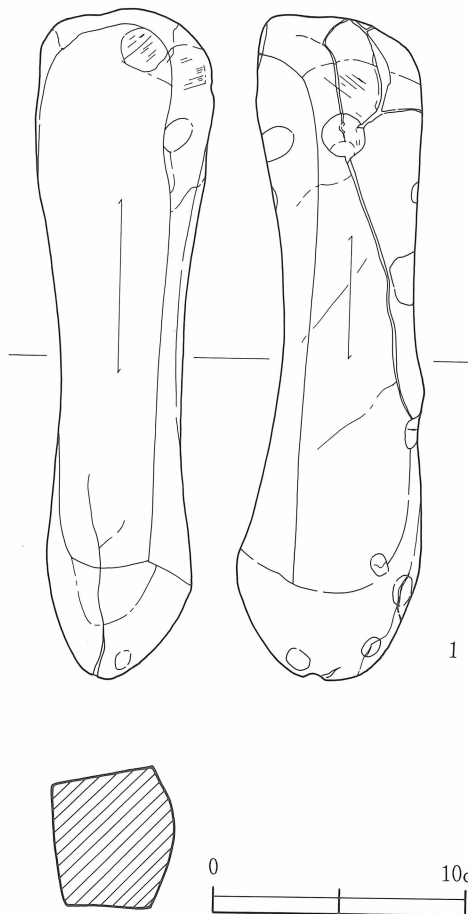


第61図 SB 52 出土ガラス玉  
鉄製品



第62図 SB 50 出土鉄製品  
〔1/3〕

- 1 小刀
- 2~4 鉄鏃
- 5 不明



第63図 SB 21 出土石製品 〔1/3〕

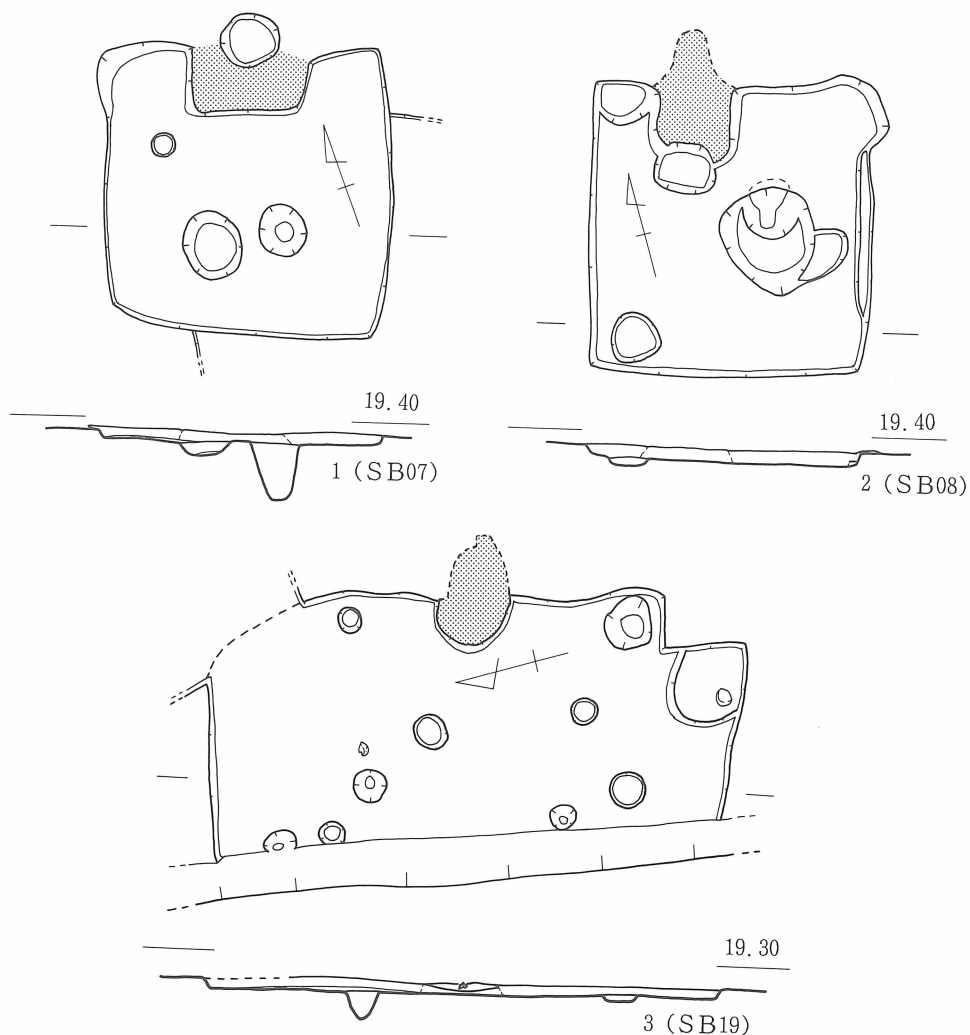
SB62 (第38、60図) 主軸を東一西にとり、東西の長さ5.4m、南北の長さ1.8m以上を測る。残存壁高は15~23cm。4本の主柱穴のうち2本を検出し、規模は28~56cm、深さ51~62cmを測る。北側にカマドを持つが、原形はとどめていない。遺物は須恵器の高坏が出土した。

### (3) 平安時代の遺構と遺物

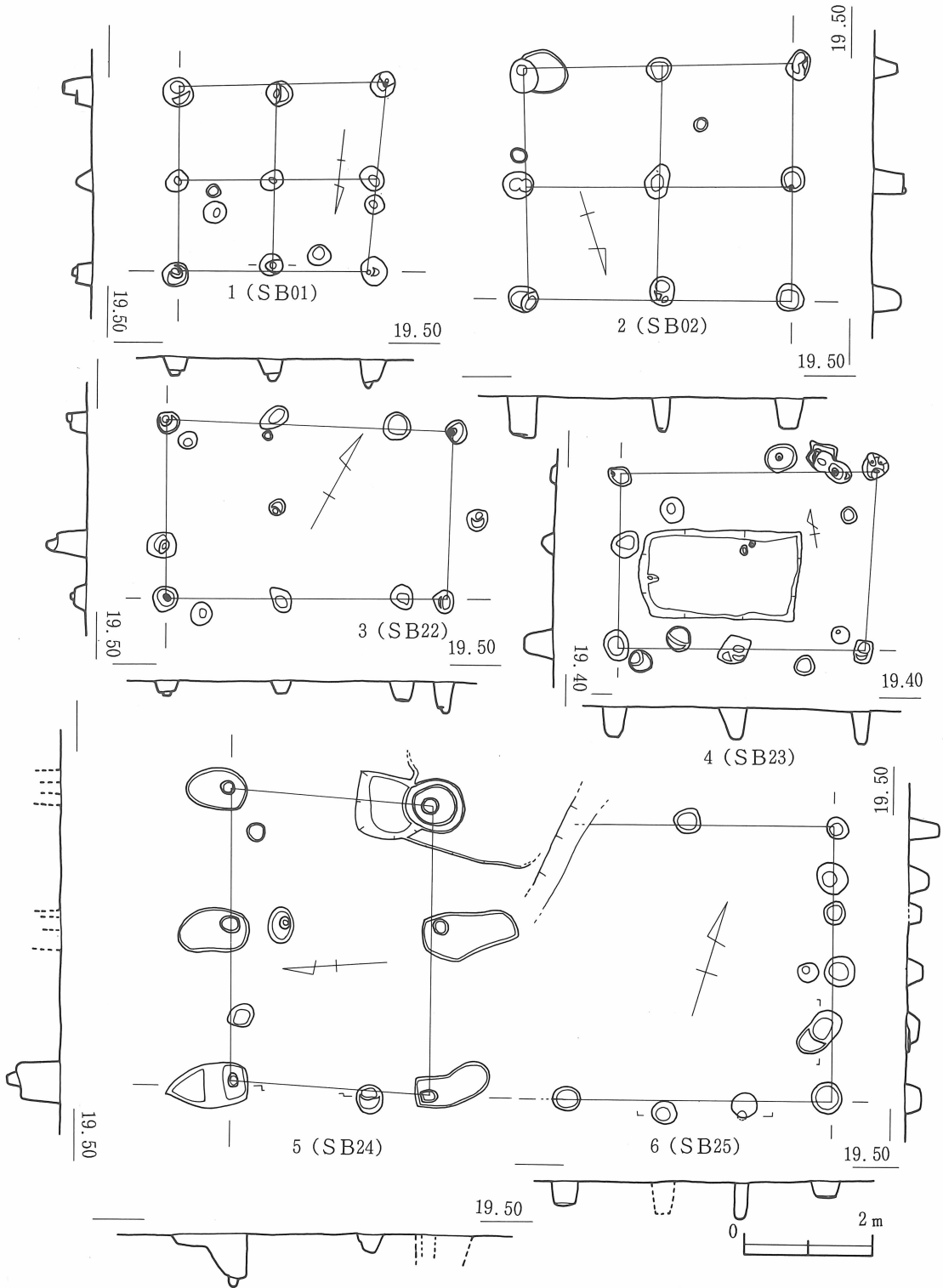
平安時代の遺構として、竪穴住居3軒、掘立柱建物34棟、柵列2条、土壇6基、溝2条と多くの柱穴が発見されている。平安時代の遺構の中心は掘立柱建物で、大型の建物は真南北に主軸を取り、調査区のほぼ中央に集中している。高庫倉庫と思われる総柱建物や小型の建物は、ほぼ全域に分布している。柵列は大型建物の近くに存在し、土壇は建物周辺に散布する。

#### 竪穴住居

SB07（第64図、図版7） 主軸を東-西にとり、東西の長さ3.04m、南北の長さ3.12mを測る。壁高は10cm前後を測る。住居跡に関する柱穴は検出されなかった。北側にカマドをもつが、焼土が少量残るだけであった。



第64図 SB 07. 08. 19 [1/80]



第70图 SB 01. 02. 22. 23. 24. 25 实测图 [1/100]

S B 08 (第64、80図) 主軸は東—西にとり、東西の長さ2.96 m、南北の長さ3.16 mを測る。壁高は13~17cmを測る。住居跡に係る柱穴は検出されなかった。北側に煙道のあるカマドをもつ。遺物は10~11世紀の土師器の坏、甕、甑が出土した。

S B 19 (第64、81図) 主軸を南—北にとり、南北の長さ5.44 m、東西の長さ2.68 m以上を測る。関連柱穴は不明である。東側にカマドを持つが原形はとどめていない。遺物は10~11世紀の土師器の坏、甕、蓋、鉢が出土した。

### 掘立柱建物

S B 01 (第70図、図版10) 2×2間(総柱)の建物で、棟方向は東—西である。桁行3.2 m、梁間2.88 mを測る。柱穴掘り方はほぼ円形で、規模は32~46cm、深さ34~44cmを測る。中央の柱穴は浅めであった。

S B 02 (第70図、図版10) 2×2間(総柱)の建物で、棟方向は東西である。桁行4.08 m、梁行3.72 mを測る。柱穴掘り方はほぼ円形で、規模は32~52cm、深さ40~65cmを測る。

S B 22 (第70図、図版10) 2×1間の北東側に廂を持つ建物で、棟方向は北東—南西である。桁行3.64 m、梁行2.76 mを測る。柱穴掘り方はほぼ円形で、規模は28~40cm、深さ18~29cmを測る。遺物はP 3より須恵器の坏片、土師器の坏細片が出土し、9世紀後半~10世紀前半のもの。

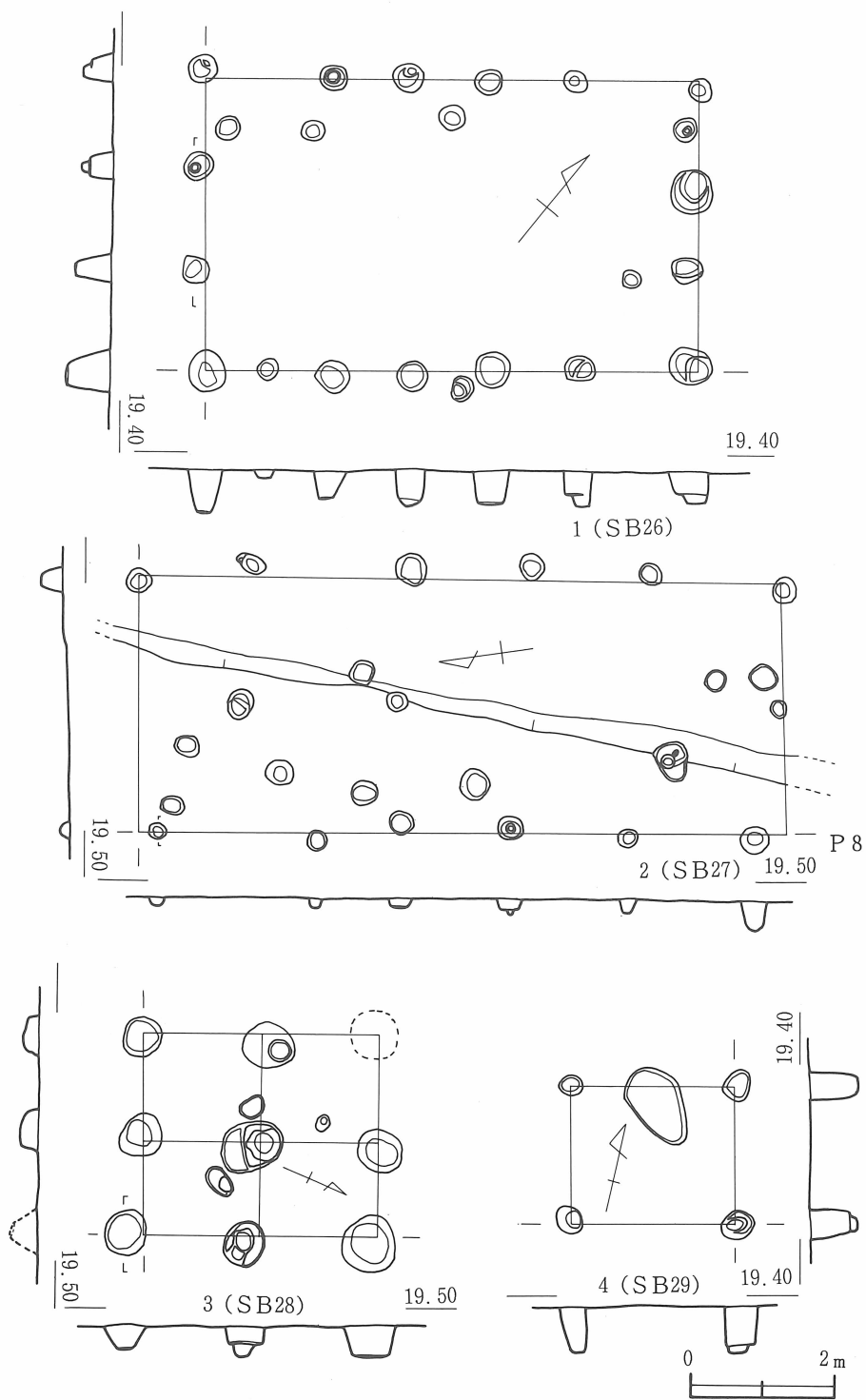
S B 23 (第70、94図) 1×1間の東側に廂を持つ建物で、棟方向は東—西である。桁行3.84 m、梁行2.6 mを測る。柱穴掘り方はほぼ円形で、規模は27~45cm、深さ42~53cmを測る。遺物はP 9、P 15、P 26より9世紀後半~10世紀前半の土師器の坏片、甕片が出土した。

S B 24 (第70図) 2×1間の建物で、棟方向は東—西である。桁行4.38 m、梁行3.06 mを測る。柱穴掘り方は楕円形で1つしか完掘していないので確かではないが、1辺95cm程で深さ81cmを測る。柱穴内には径20.6~25cmの柱痕を確認した。

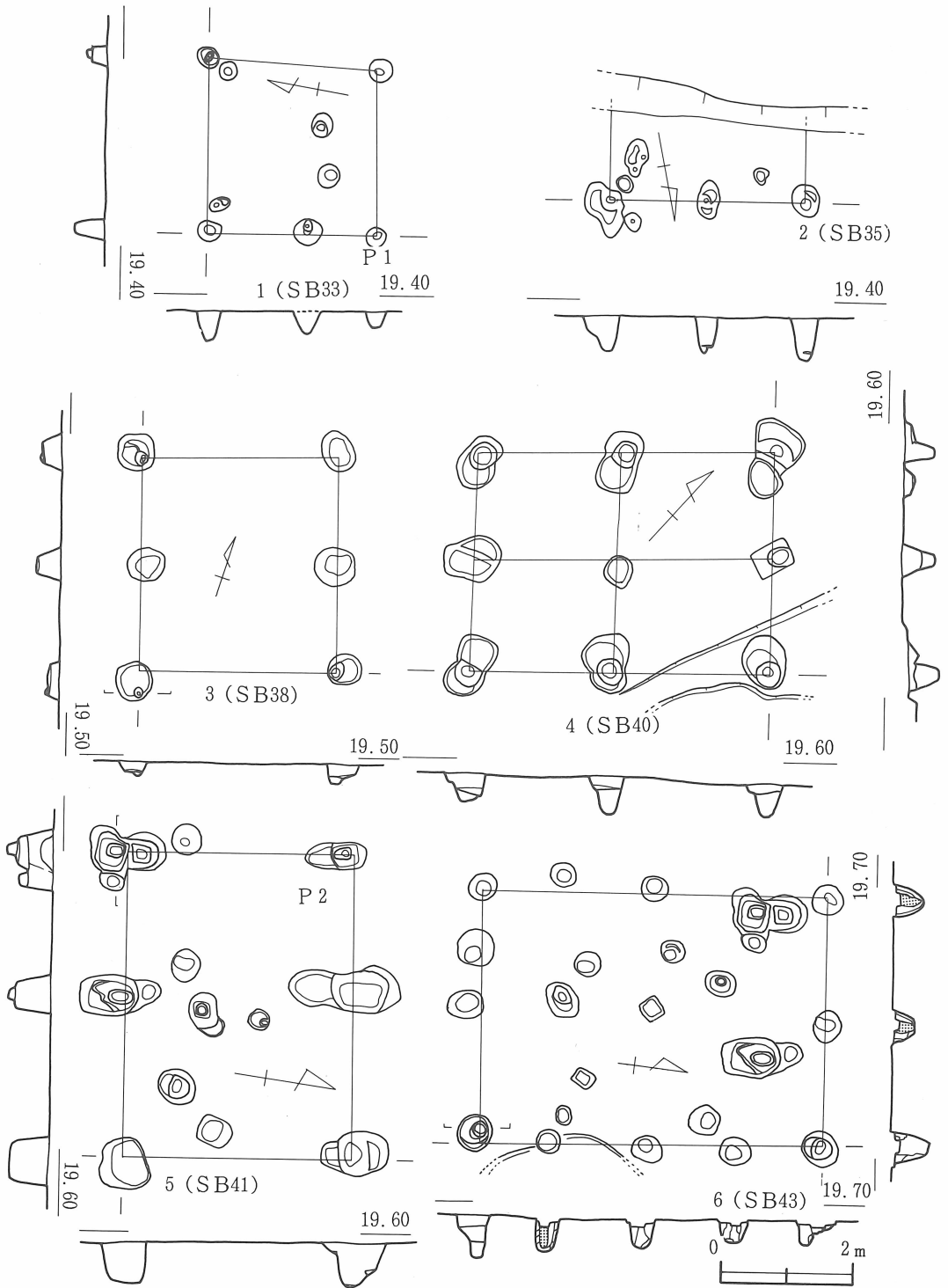
S B 25 (第70図、図版10) 2×2間以上の建物で棟方向は北東—南西である。桁行4.16 m以上、梁行4.08 mを測る。柱穴掘り方はほぼ円形で、規模は約32~42cm、深さ25~51cmを測る。

S B 26 (第71図、図版11) 5×3間の建物で棟方向は北東である。桁行6.88 m、梁行4.28 m





第71図 SB 26. 27. 28. 29 実測図 [1/100]



第72図 SB 33. 35. 38. 40. 41. 43 実測図 [1/100]

を測る。柱穴掘り方はほぼ円形で、規模は32～60cm、深さ27～63cmを測る。遺物はP 4より9世紀後半～10世紀前半土師器の椀口縁部片が出土した。

S B 27 (第71図) 5 × 1間の建物で棟方向は南一北である。桁行9.46 m、梁行3.4 mを測る。柱穴掘り方はほぼ円形で、規模は22～44cm、深さ12～41cmを測る。遺物はP 8より須恵器の坏(底部へラ切り)、土師器の坏片、甕片が出土した。

S B 28 (第71、82図、図版11、13) 2 × 2間の建物で棟方向は南一北である。桁行3.4 m、梁行2.68 mを測る。柱穴掘り方はほぼ円形で、規模は76cm、深さは36～69cmを測る。遺物はP 16より須恵器の高坏片、土師器の甕片が出土した。

S B 29 (第71図、図版11) 1 × 1間の建物で、棟方向は東一西である。桁行2.24 m、梁行1.84 mを測る。柱穴掘り方はほぼ円形で、規模は28～48cm、深さ62～68cmを測る。

S B 33 (第72図、図版10) 1 × 1間の建物で、棟方向は東一西である。桁行2.64 m、梁行2.56 mを測る。柱穴掘り方はほぼ円形で、規模は28～32cm、深さ24～45cmを測る。遺物はP 1より土師器の坏細片が出土した。

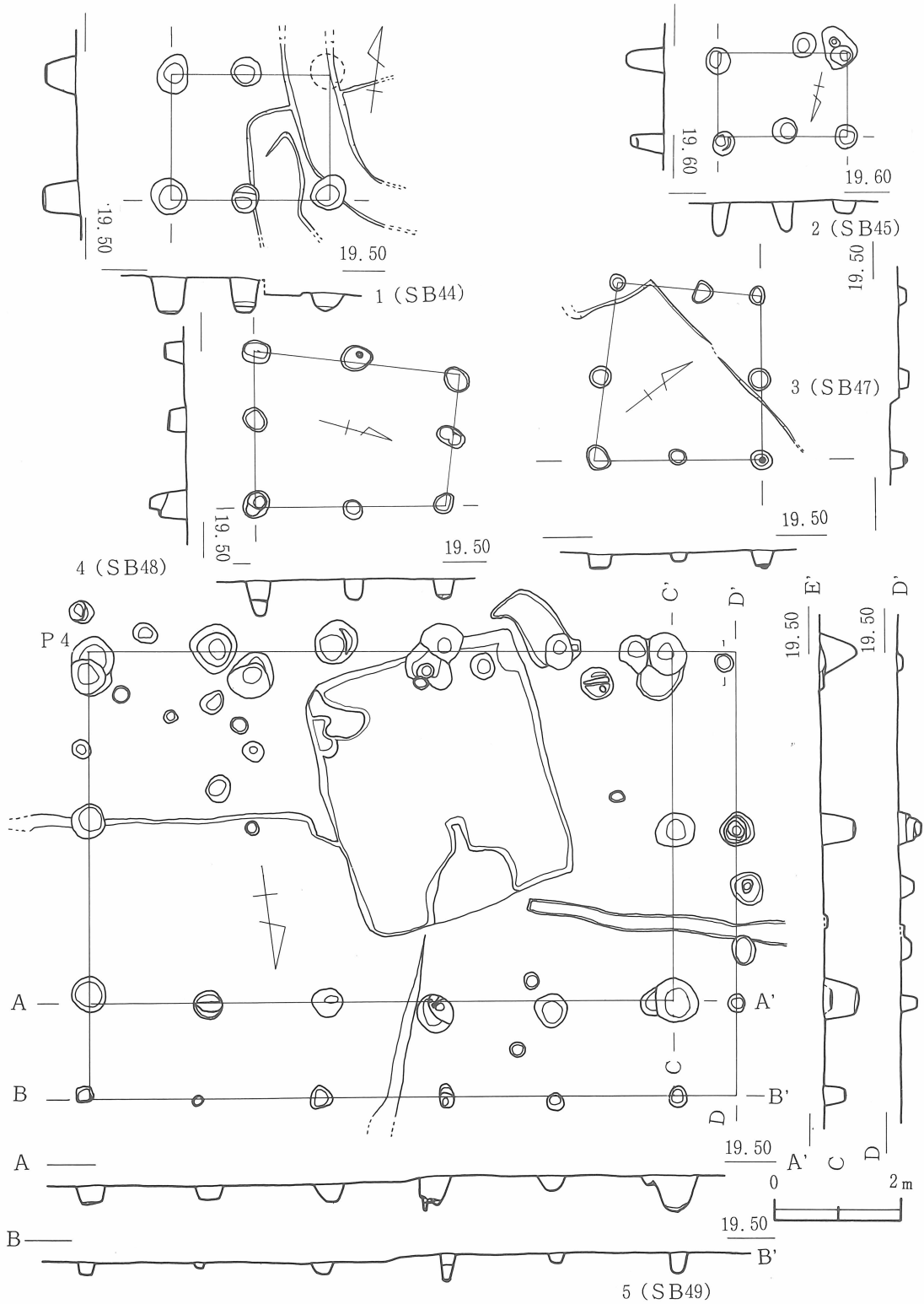
S B 35 (第72図) 2 × 1間以上の建物で棟方向は東一西である。桁行1.34 m以上、梁行3.0 mを測る。柱穴掘り方はほぼ円形で、規模は40～46cm、深さ53～62cmを測る。遺物は柱穴より白磁片が出土している。

S B 38 (第72図、図版12) 2 × 1間の建物で、棟方向は北東一南西である。桁行3.5 m、梁行2.96 mを測る。柱穴掘り方はほぼ円形で、規模は54～64cm、深さ20～40cmを測る。

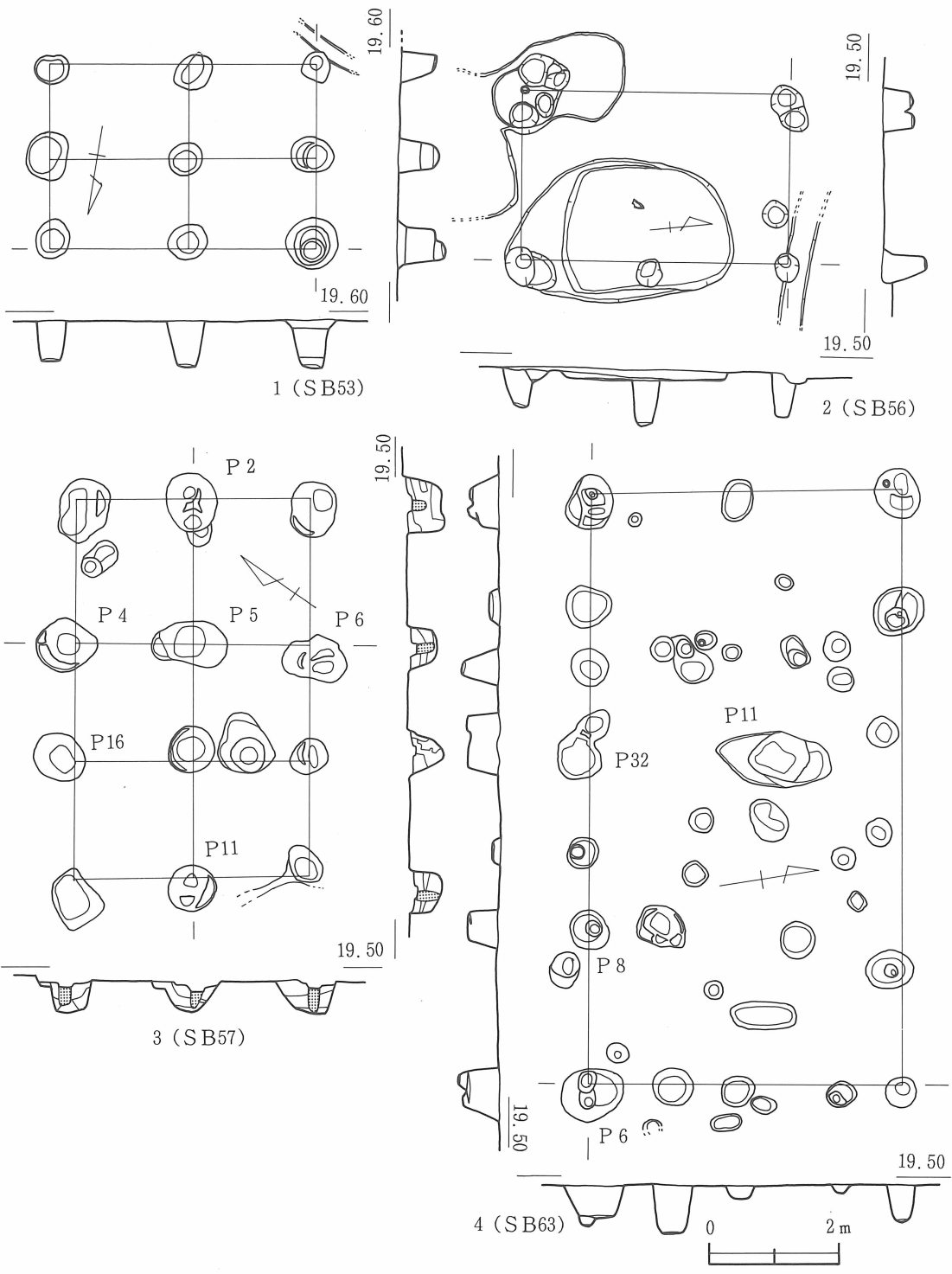
S B 40 (第72、83図、図版12) 2 × 2間の建物で、棟方向は北東である。桁行4.56 m、梁行3.36 mを測る。柱穴掘り方は楕円形で、規模は44～92cm、深さ24～57cmを測る。遺物は古墳時代後期の土師器の底部片が出土した。

S B 41 (第72、84図、図版12) 2 × 1間の建物で、棟方向は南一北である。桁行3.12 m、梁行2.8 mを測る。柱穴掘り方はやや楕円形で、規模は37～84cm、深さ64～73cmを測る。遺物はP 1より土師器の小型鉢、P 2より弥生時代の甕片が出土した。

S B 43 (第72図、図版12) 4 × 2間の建物で棟方向は南一北である。桁行5.2 m、梁行3.68 m



第73图 SB 44. 45. 47. 48. 49 实测图 [1/100]



第74図 SB 53. 56. 57. 63 [1/100]

を測る。柱穴掘り方はほぼ円形で、規模は36～60cm、深さ38～66cmを測る。柱痕跡はP 1、P 2、P 6で検出し、径14～19cmの柱使用が想定される。遺物はP 1、P 3より弥生時代の甕片、9世紀後半～10世紀前半の土師器甕片、坏細片が出土した。

S B 44 (第73、85図) 2 × 1間の建物で、棟方向は東—西である。桁行2.48 m、梁行1.92 mを測る。柱穴掘り方はほぼ円形で、規模は48～72cm、深さ26～57cmを測る。遺物はP 1より土師器の甕片が出土した。

S B 45 (第73図、図版12) 1 × 1間の建物で、棟方向は東—西である。桁行2.64 m、梁行1.30 mを測る。柱穴掘り方はほぼ円形で、規模は30～41cm、深さ52～61cmを測る。

S B 47 (第73図、図版13) 2 × 2間の建物で、棟方向は北東である。桁行2.6 m、梁行2.56 mを測る。柱穴掘り方はほぼ円形で、規模は24～36cm、深さ13～28cmを測る。

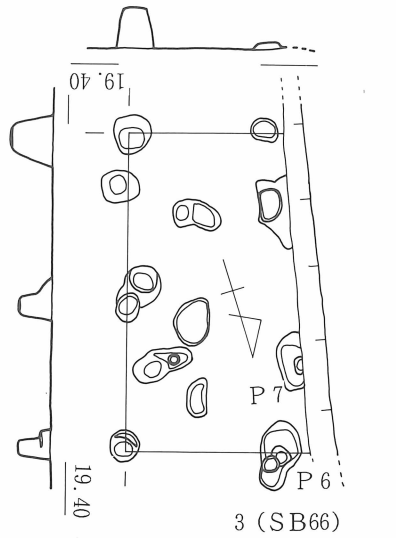
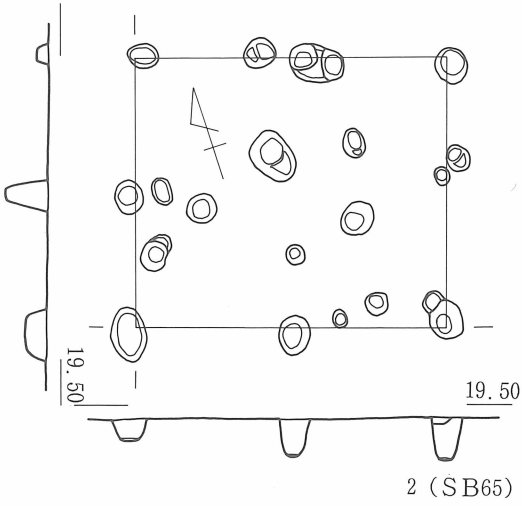
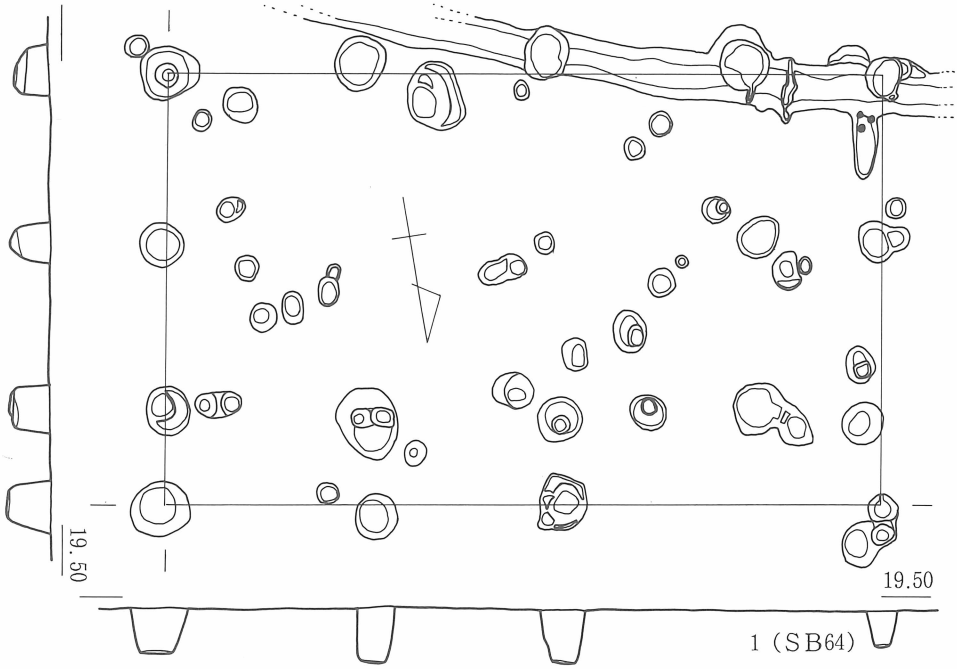
S B 48 (第73、86図、図版13) 2 × 2間の建物で、棟方向は北東である。桁行2.92 m、梁行2.4 mを測る。柱穴掘り方はほぼ円形で、規模は28～52cm、深さ29～56cmを測る。遺物は古墳時代後期の土師器甕取手が出土した。

S B 49 (第73、87図、図版13) 5 × 2間の北側と西側に廂を持つ大型の建物で、棟方向は東—西である。桁行9.14 m、梁行5.4 mを測る。柱穴掘り方はほぼ円形で、規模は42～72cm、深さ61～88cmを測る。遺物はP 4より須恵器の甕口縁部片、土師器甕片、坏片（底部へう切り）、P 9より須恵器坏片、甕片多数、土師器坏片、甕片、高台付椀他が出土し、P 4、P 7、P 10の遺物は9世紀後半～10世紀前半のもの。

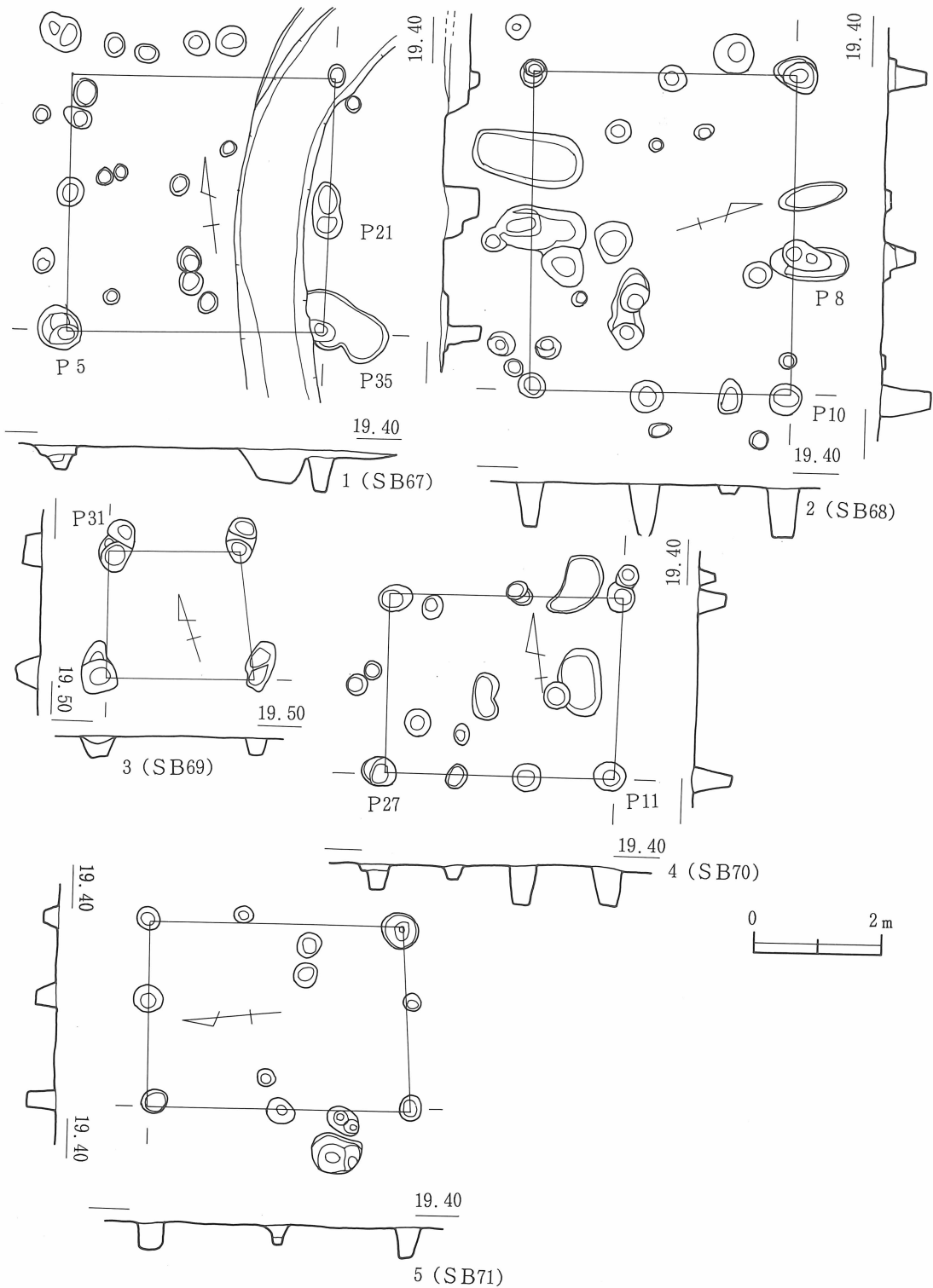
S B 53 (第74図、図版13) 2 × 2間の建物で、棟方向は東—西である。桁行4.0 m、梁行2.4 mを測る。柱穴掘り方はほぼ円形で、規模は44～80cm、深さ53～73cmを測る。

S B 56 (第74図) 1 × 2間の建物で、棟方向は南—北である。桁行4.04 m、梁行2.28 mを測る。柱穴掘り方はほぼ円形で、規模は36～60cm、深さ47～71cmを測る。

S B 57 (第74図) 2 × 3間の建物で、棟方向は北東—南西である。桁行5.92 m、梁行3.8 mを測る。柱穴掘り方はほぼ円形で、規模は60～88cm、深さ42～65cmを測る。柱痕跡はP 2、P 4～P 6、P 11で検出し、径15～19cmの柱使用が想定される。遺物はP 16より土師器甕片が出土した。



第75図 SB 64. 65. 66 [1/100]



第76図 SB 67. 68. 69. 70. 71 実測図 [1/100]



S B 63 (第74、87、91図) 5×2間の大型の建物で、棟方向は東—西である。桁行9.24 m、梁行46.8 mを測る。柱穴掘り方はほぼ円形で、規模は38~98cm、深さ32~54cmを測る。遺物は7ヶ所のPitより須恵器の甕片、瓶片、坏片(底部へラ切り)、皿、壺、土師器の甕片、坏片(底部へラ切り)が出土し、P 8、P 11、P 32の遺物は9世紀後半~10世紀前半のもの。

S B 64 (第75、87、94図) 4×2間の大型の建物で、棟方向は東—西である。桁行9.76 m、梁行5.74 mを測る。柱穴掘り方はほぼ円形で、規模は36~84cm、深さ55~73cmを測る。遺物は5ヶ所のPitより須恵器の甕片、坏片、蓋片、土師器の甕片、坏片(底部へラ切り)、土錘が出土し、P 15の遺物は9世紀後半~10世紀前半のもの。

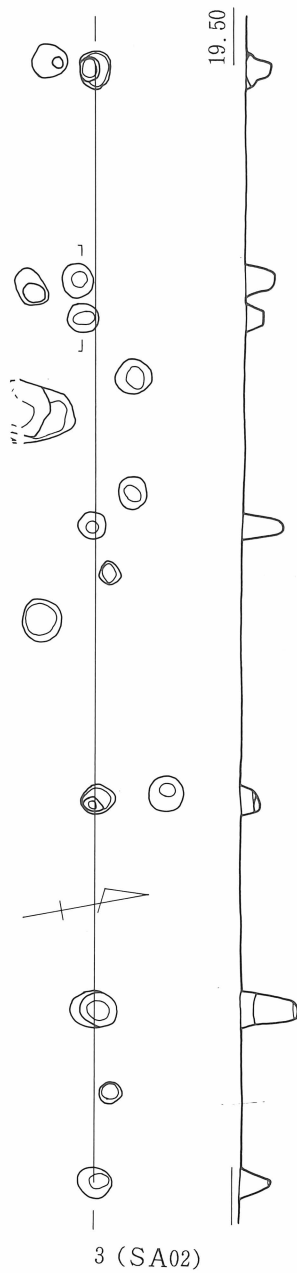
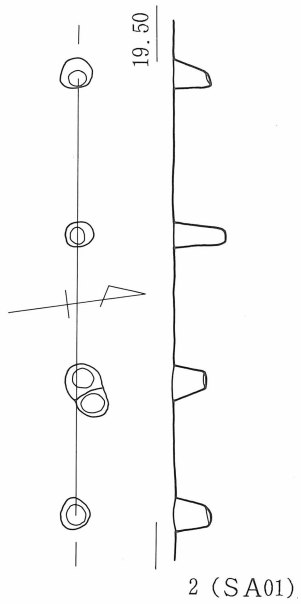
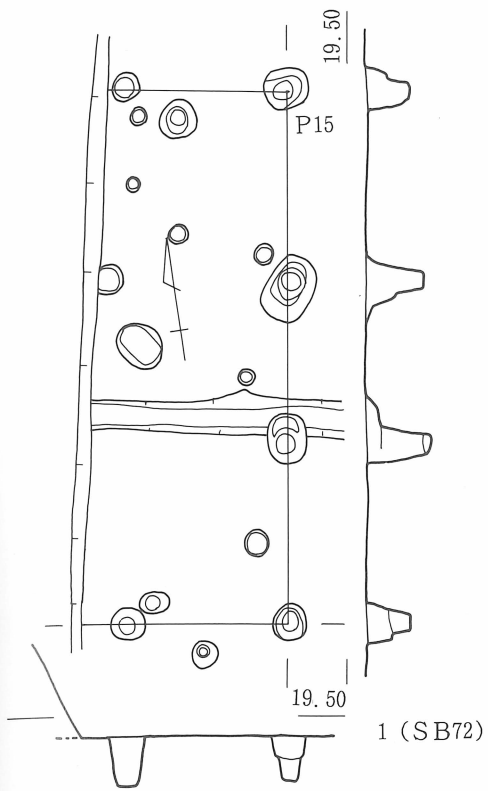
S B 65 (第75図) 2×2間の建物で、棟方向は東—西である。桁行4.14 m、梁行3.48 mを測る。柱穴掘り方はほぼ円形で、規模は30~74cm、深さ15~61cmを測る。遺物はP 23より須恵器の甕片、坏片、土師器の甕片、坏片が出土した。

S B 66 (第75図) 1×2間以上の建物で、棟方向は南—北である。梁行は4.22 m、桁行は2.1 m以上を測る。柱穴掘り方はほぼ円形で、規模は27~52cm、深さ28~53cmを測る。遺物は4ヶ所のPitより須恵器の甕片、大甕片口縁部、坏片、土師器の甕片、坏片(底部へラ切り)が出土し、P 6、P 7の遺物は9世紀後半~10世紀初頭のもの。

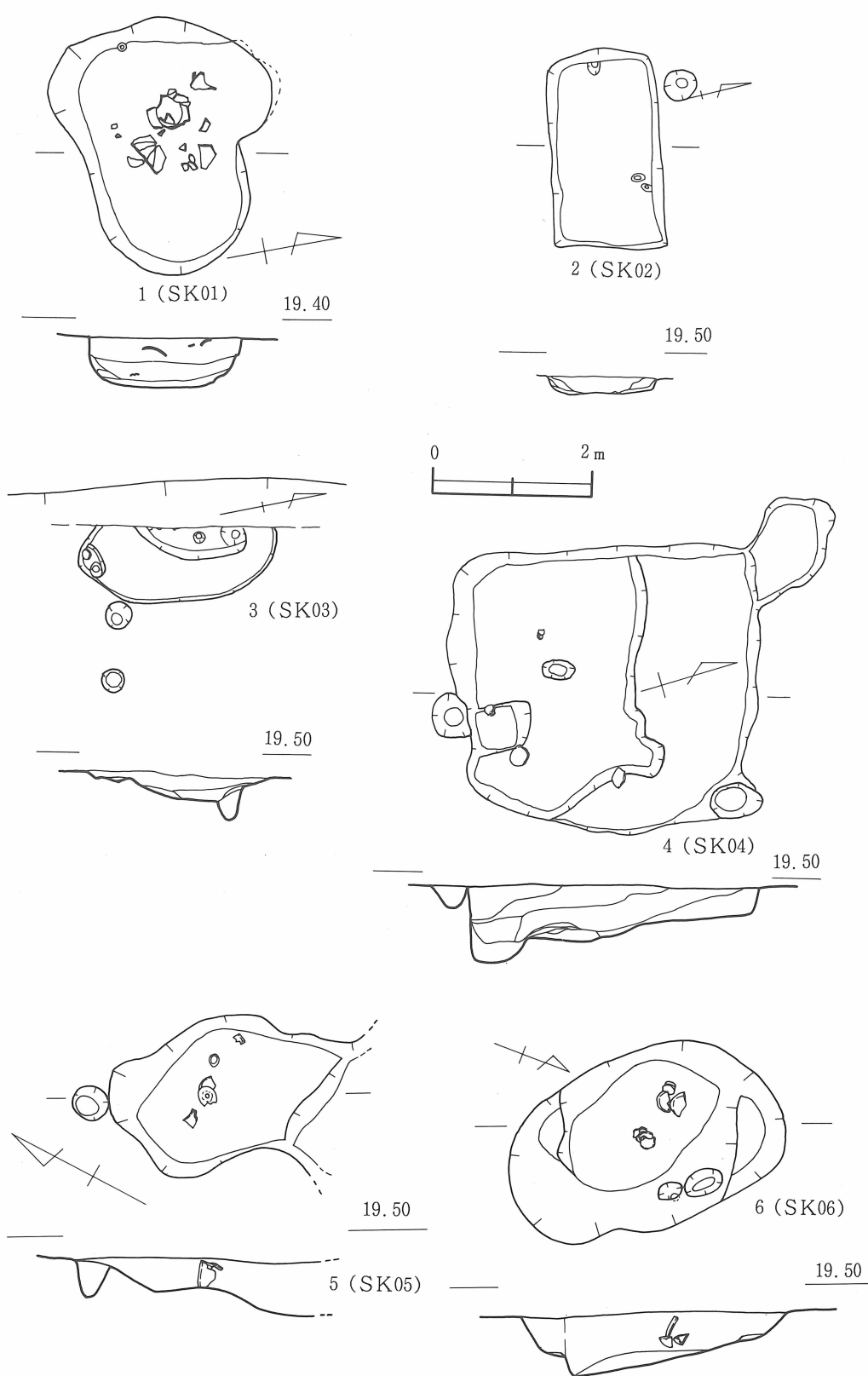
S B 67 (第76図) 2×1間の建物で、棟方向は南北である。桁行4.4 m、梁行4.0 mを測る。柱穴掘り方はほぼ円形で、規模は26~50cm、深さ37~58cmを測る。遺物はP 5より須恵器大甕片、土師器甕細片、坏片、P 21より須恵器甕小片、坏片、土師器甕、などが出土し、P 35の遺物は9世紀後半~10世紀前半のもの。またP 21からは、柱を固定するための粘土魂も確認した。

S B 68 (第76図、図版14) 2×2間の建物で、棟方向は東—西である。桁行5.98 m、梁行3.94 mを測る。柱穴掘り方はほぼ円形で、規模は40~56cm、深さ63~81cmを測る。遺物は4ヶ所(P 8、P 10、P 11、P 15)のPitより須恵器甕片、大甕片、坏片、土師器甕片、坏片が出土し、P 8、P 10の遺物は9世紀後半~10世紀前半のもの。

S B 69 (第76図、図版14) 1×1間の建物で、棟方向は東—西である。桁行2.12 m、梁行1.96 mを測る。柱穴掘り方はほぼ円形で、規模は31~50cm、深さ30~35.5を測る。遺物はP 31より須恵器の坏底部片(へラ切り)、土師器の甕片、坏片が出土し、P 31の遺物は9世紀後半~10世紀前半のもの。



第77図 SB 72. SA 01. 02 実測図 [1/100]



第78図 SK 01. 02. 03. 04. 05. 06 実測図 [1/80]

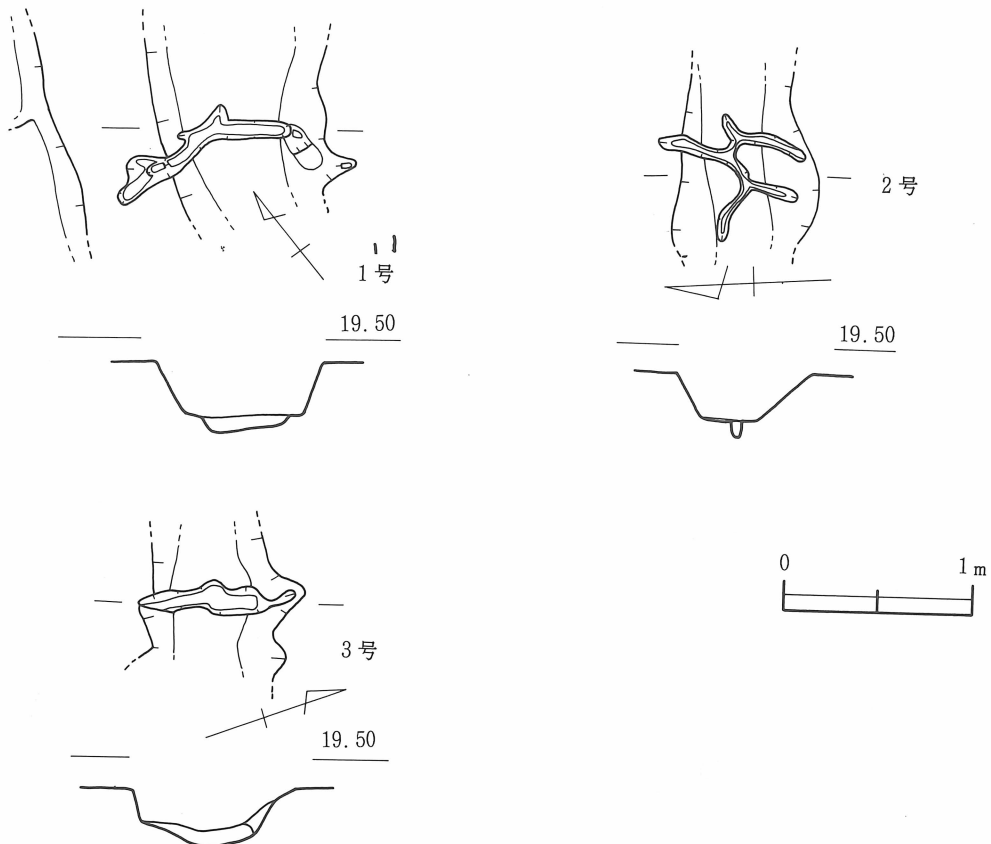
S B 70 (第76、94図、図版14) 2×1間の建物で、棟方向は東—西である。桁行3.68 m、梁行2.82 mを測る。柱穴掘り方はほぼ円形で、規模は35~76cm、深さ43~62cmを測る。遺物はP11より須恵器の坏口縁部片、土師器の皿片、甕片、坏細片、P27より須恵器と土師器の甕片が出土し、P11の遺物は9世紀後半~10世紀前半のもの。

S B 71 (第76図) 2×2間の建物で、棟方向は南—北である。桁行3.96 m、梁行2.85 mを測る。柱穴掘り方はほぼ円形で、規模は31~55cm、深さ24~49cmを測る。

S B 72 (第77図) 3×1間以上の建物で、棟方向は南—北である。桁行6.98 m、梁行2.1 mを測る。柱穴掘り方はほぼ円形で、規模は37~86cm、深さ60~79cmを測る。遺物はP15より土師器の甕片、坏片が出土した。

### 柵 列

S A 01 (第77図) 大型の掘立柱建物群の西側で確認された。東西方向に延び、西側は調査区外に延びる可能性がある。調査区内での全長は5.8 m、各柱穴間はほぼ1.9 m前後を測る。柱



第79図 SD 01 1. 2. 3号堰 実測図 [1/40]

穴掘り方は円形で、規模は32～48cm、深さは45～69cmを測る。

S A 02 (第77図) 大型の掘立柱建物群中央部で確認された。東西方向に延びる。全長14.9 m、各柱穴間は2.71～3.86 mを測る。柱穴掘り方は円形で、規模は36～61cm、深さは25～52 cmを測る。

## 土 墳

S K 01 (第78、95、96、97、103図、図版15) 調査区北西部にて検出。計測値は長軸3.18 m、短軸2.69 m、深さ55～68cmを測る。長軸方向は東一西をさす。平面プランは、楕円形だったものを2次的に広げたため瓢形になったと思われる。用途は廃棄用。遺物は須恵器の坏、大型甕、壺、脚付椀、瓶、土師器の坏、甕、脚付椀、皿、土錘、弥生式土器の甕、内黒土器の壺、椀、脚付椀、白磁の高台付椀が出土した。

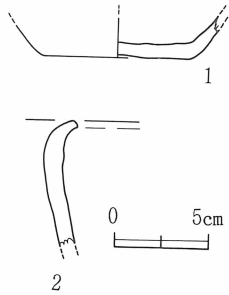
S K 02 (第78、98、105図) 調査区北西部にて検出。計測値は長軸長2.4 m、短軸長1.37 m、深さ19cmを測る。長軸方向は東一西をさす。平面プランは長方形である。遺物は土師器の坏、鉄釘、鏝が出土した。

S K 03 (第78、99図、図版15) 調査区北西部にて検出。半分は調査区外にのびる。計測値は長軸長2.44 m、短軸長0.92 m以上、深さ30cmを測る。長軸方向は南一北をさす。遺物は須恵器の椀、脚付椀、土師器の杯、皿、脚付椀、蓋が出土した。

S K 04 (第78、100、101、104図、図版15) 当初竪穴住居と思っていたが、埋土の大半が灰であったため土墳として取り扱う。調査区中央部にて検出。計測値は長軸長3.71 m、短軸長3.39 m、深さ70cmである。長軸方向は南一北をさす。底部は北から南へ傾斜している。平面プランはほぼ方形である。遺物は須恵器の杯、高杯、高台付杯、高台付椀、脚付椀、皿、壺、瓶、土師器の杯、高台付椀、脚付椀、皿、甕、鉢、甑、カマド細片、土錘、弥生式土器の甕が出土した。

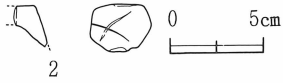
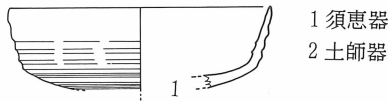
S K 05 (第78、102図、図版16) 当初Pitとしていたが、遺物が多量に出土したので土墳として取り扱う。S B 50の北西部より検出。計測値は長軸長1.4 m、短軸長0.86 m、深さ35cmを測る。長軸方向は北西一南東をさす。遺物は須恵器の杯、高台付杯、托、脚付皿、土師器の杯、甕、脚付椀、脚付皿が出土した。

S K 06 (第78図、図版16) S K 05同様、当初Pitとしていたが、S Kに変更。調査区中央部より検出。計測値は長軸長1.75 m、短軸長1.1 m、深さ38cmを測る。長軸方向は北西一南東

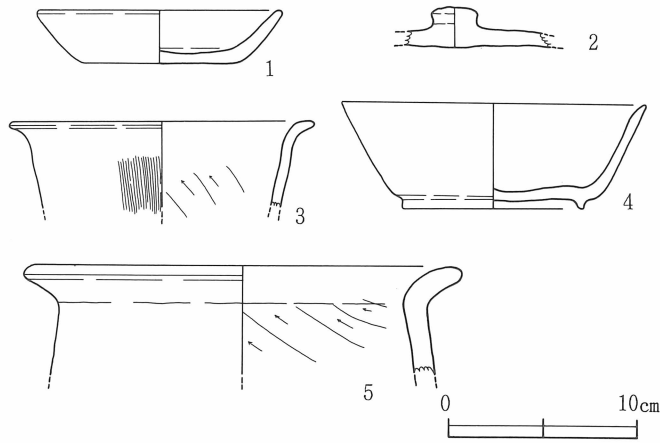


1. 2 土師器

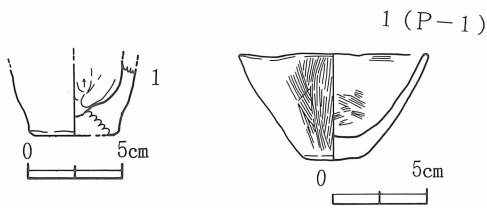
第80図 SB 08 出土土器 [1/4]



第82図 SB 28 出土土器 [1/4]

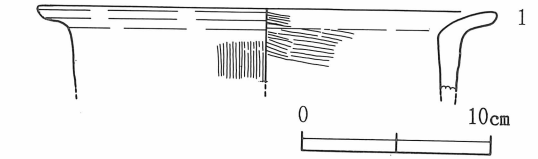


第81図 SB 19 出土土器 [1/4]

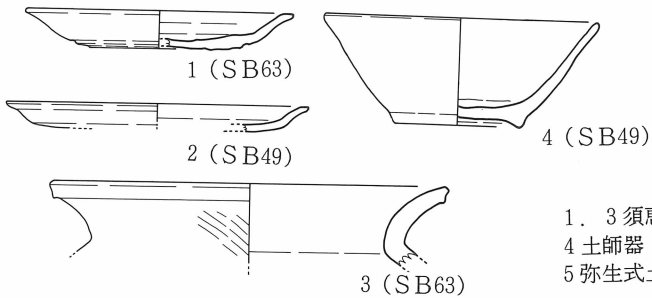


第83図 SB 40 出土土器 [1/4]

第84図 SB 41 出土土器 [1/4]

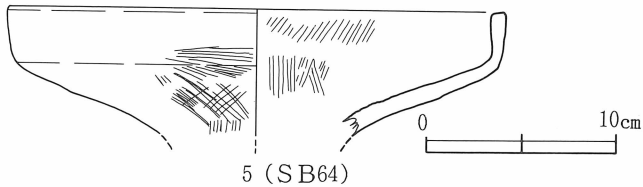


第85図 SB 44 出土土器 [1/4]

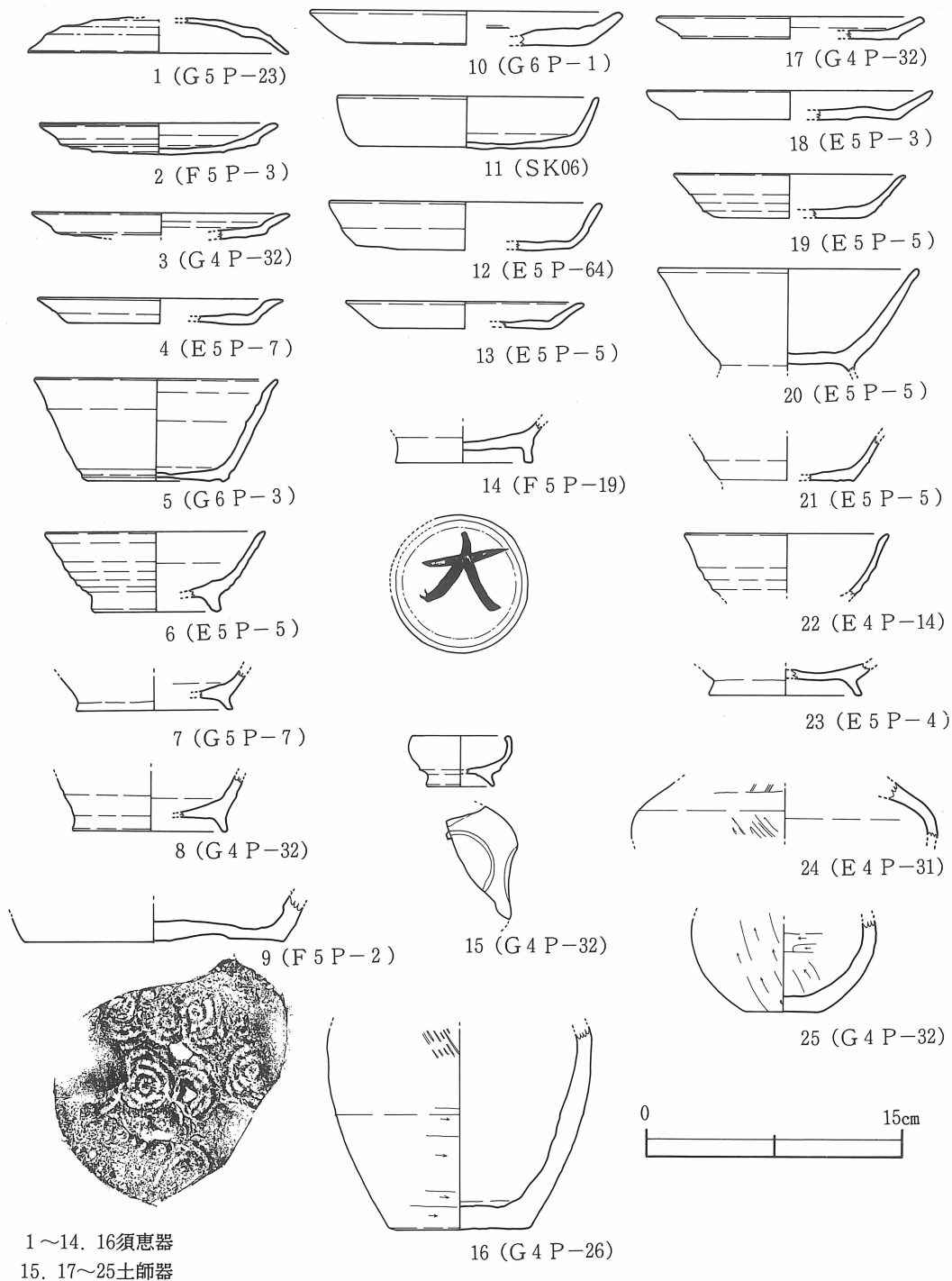


第86図 SB 48 出土土器 [1/4]

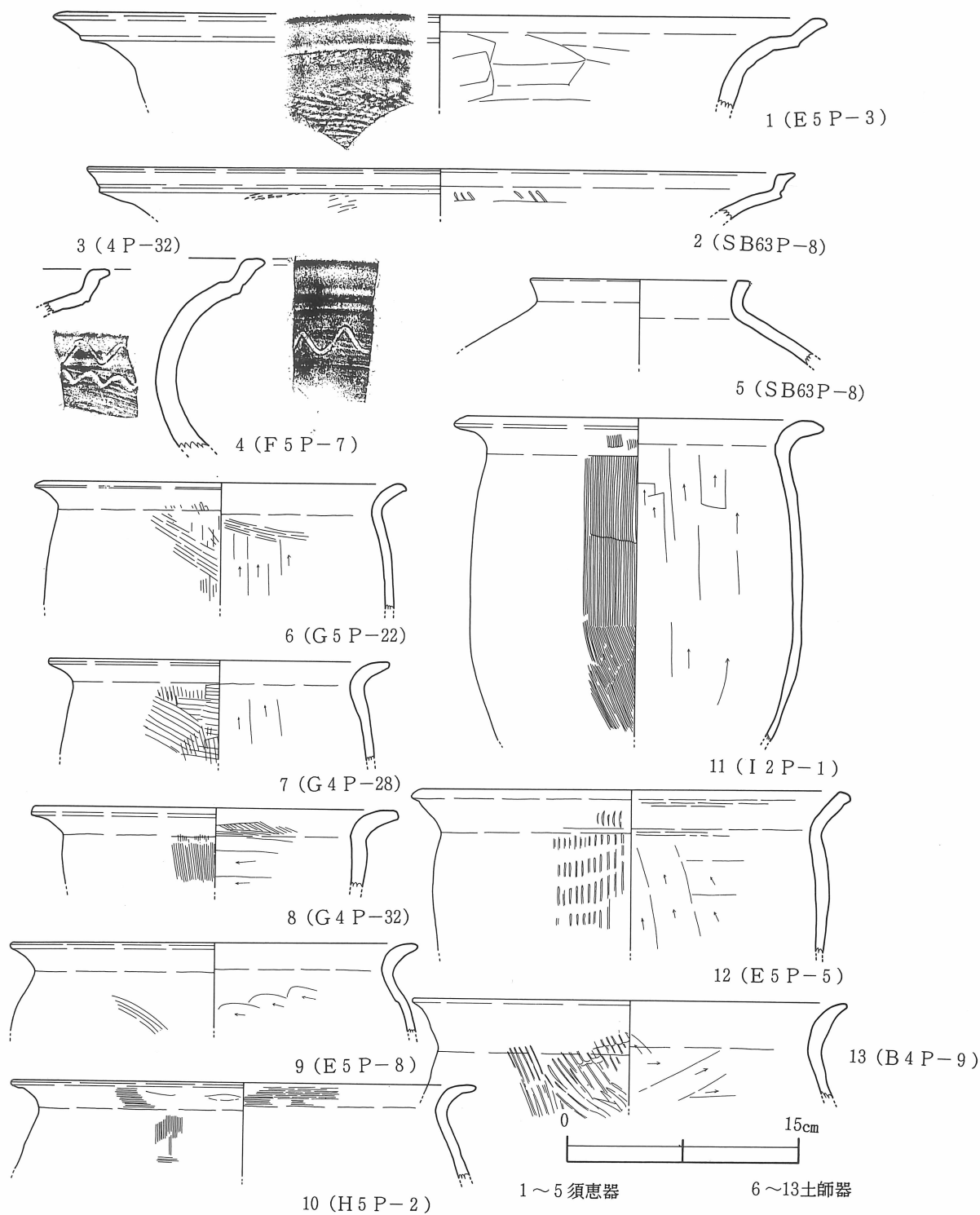
1. 3 須恵器  
4 土師器  
5 弥生式土器



第87図 SB 49. 63. 64 出土土器 [1/4]

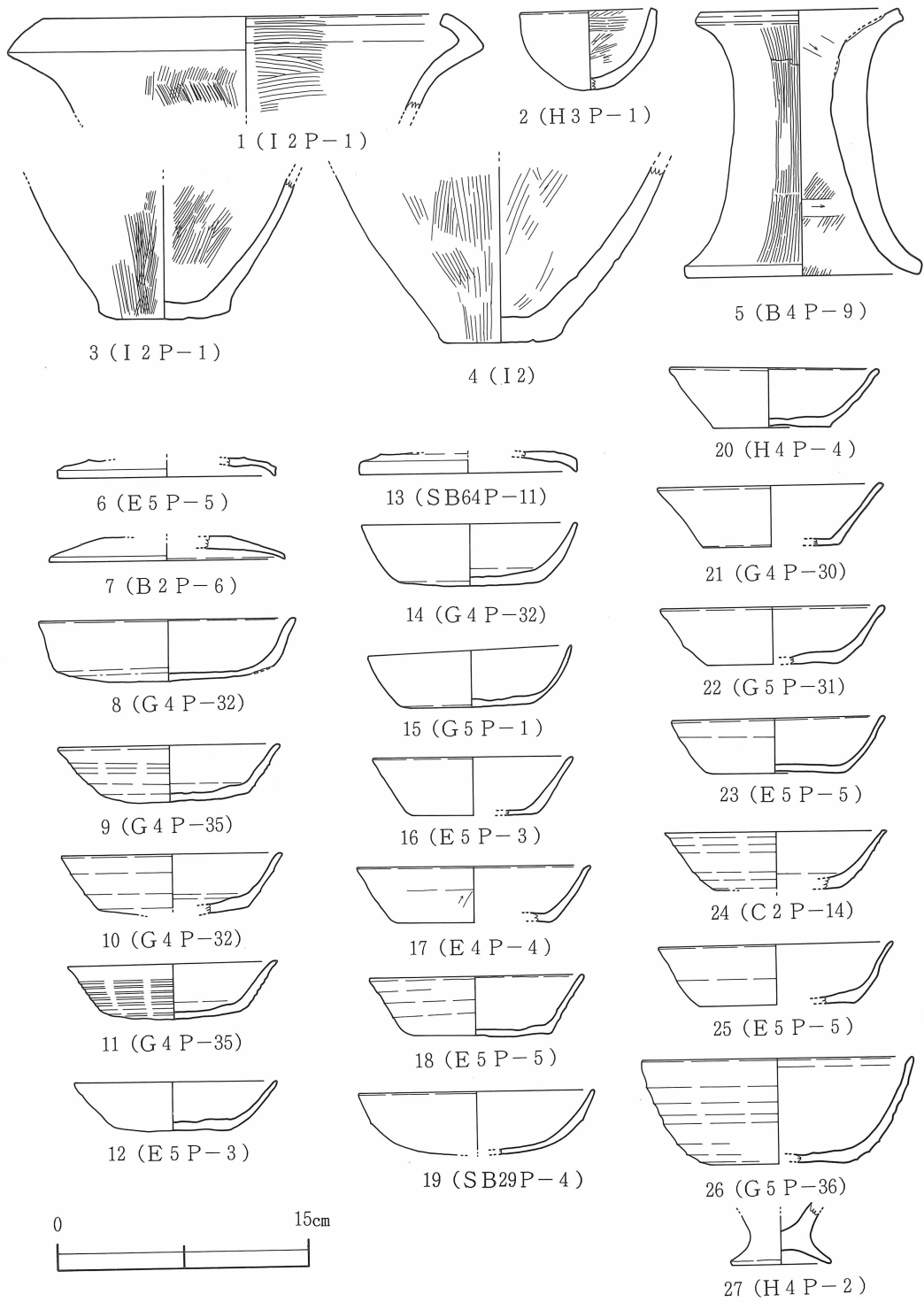


第88図 柱穴出土土器 [1/4]



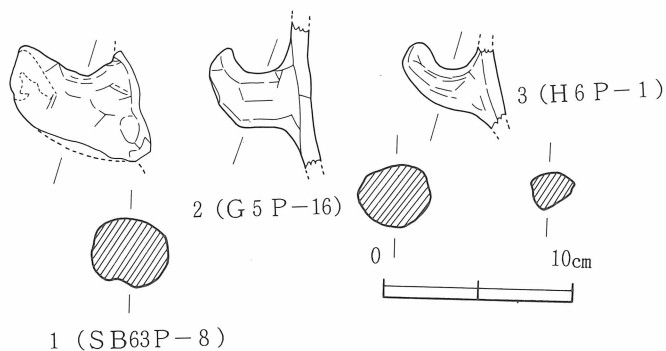
第89図 堀立柱建物 柱穴 出土土器 [1/4]



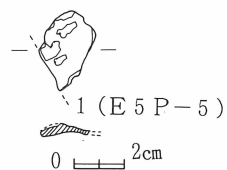
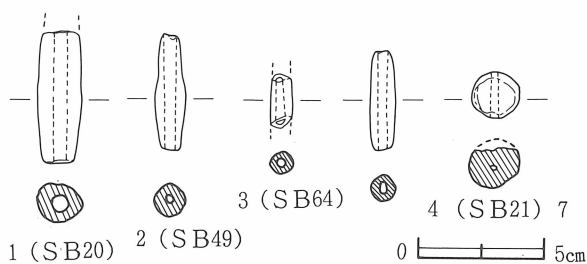


1~5 弥生式土器  
 6~12 須恵器  
 13~26 土師器

第90図 堀立柱建物 柱穴 出土土器 [1/4]

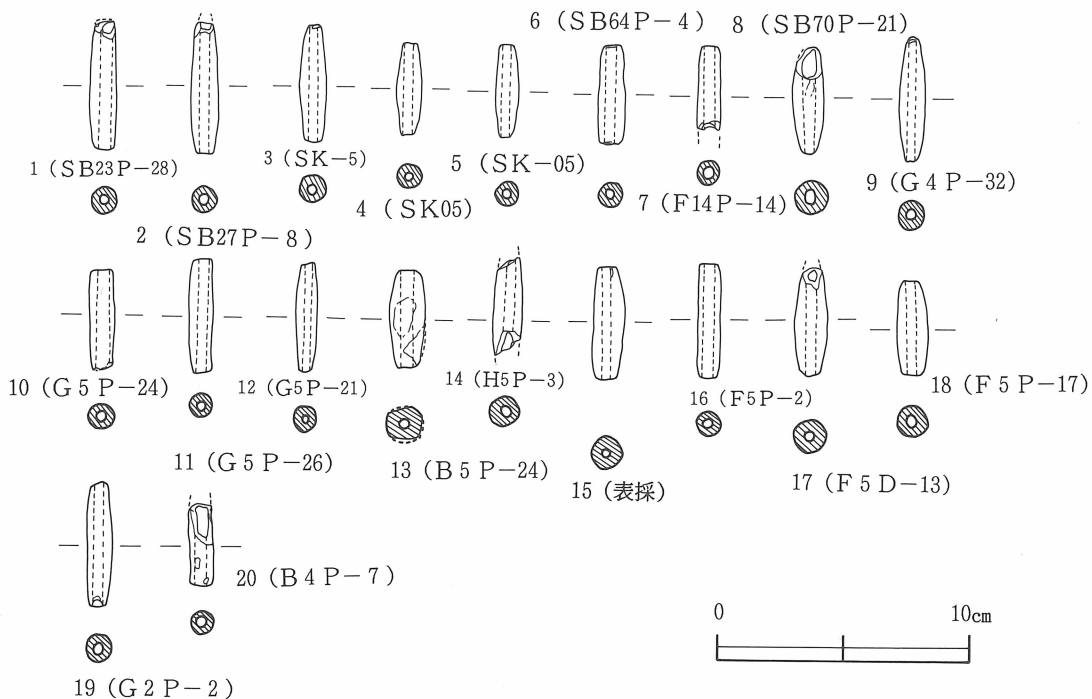


第91図 掘立柱建物 柱穴 出土土器 [1/4]

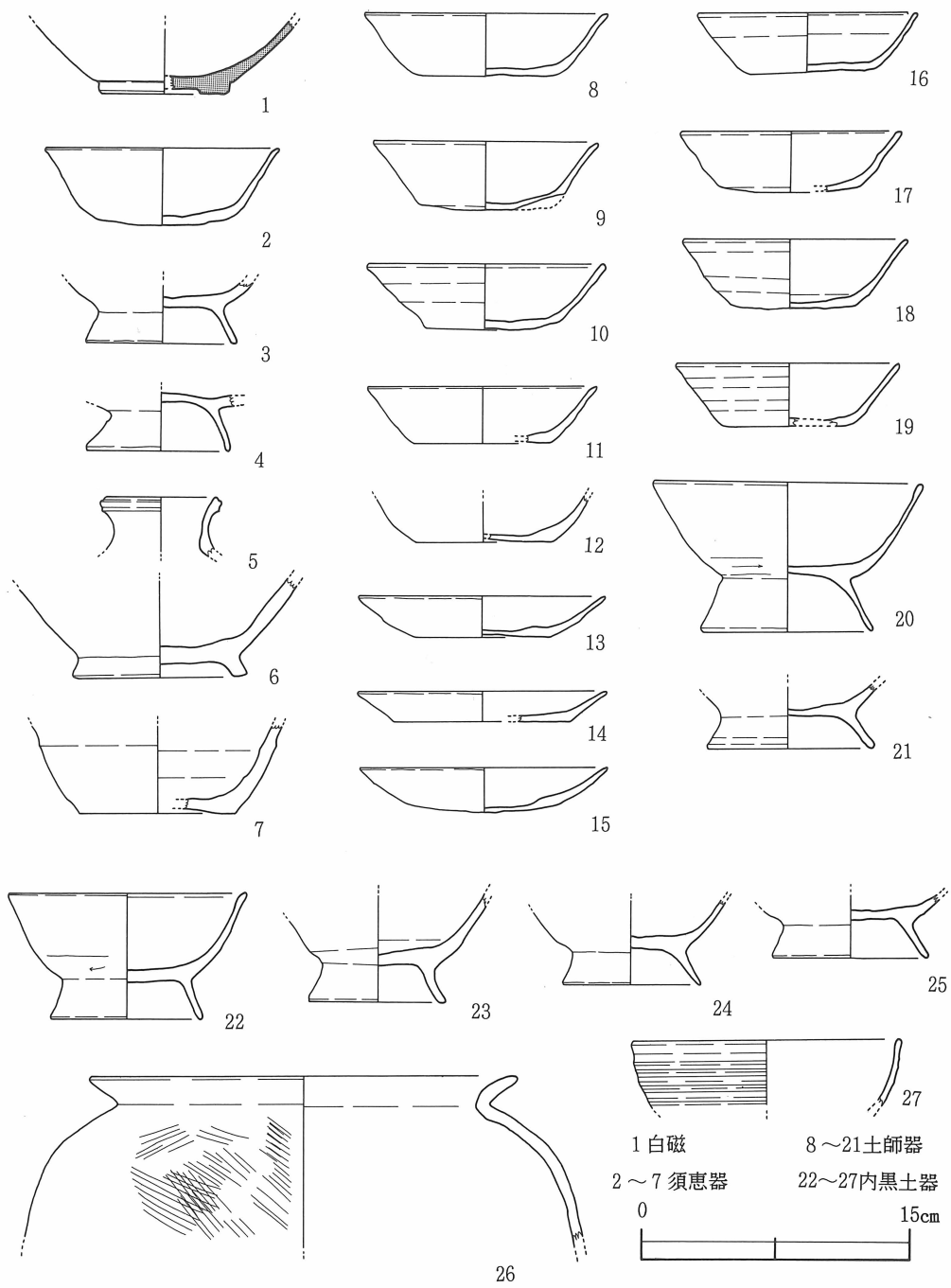


第93図 P5出土銅製品 [1/3]

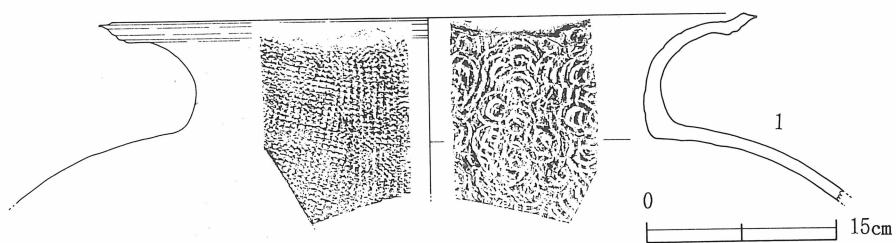
第92図 竪穴住居 (SB) 出土土製品 [1/3]



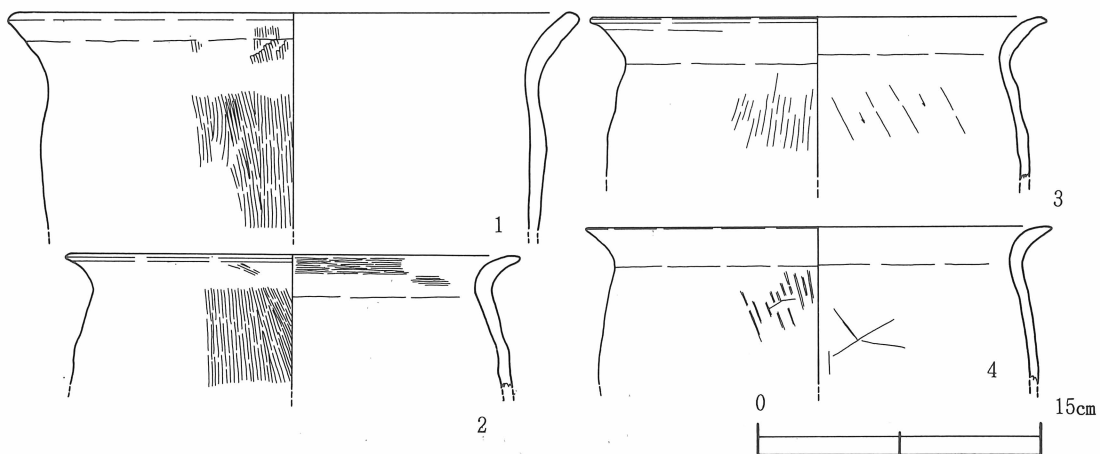
第94図 掘立柱建物 柱穴 土掘出土土製品 [1/3]



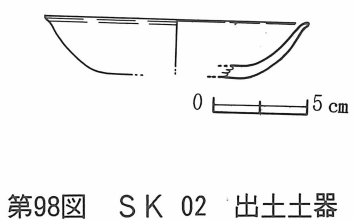
第95図 SK 01 出土土器 [1/4]



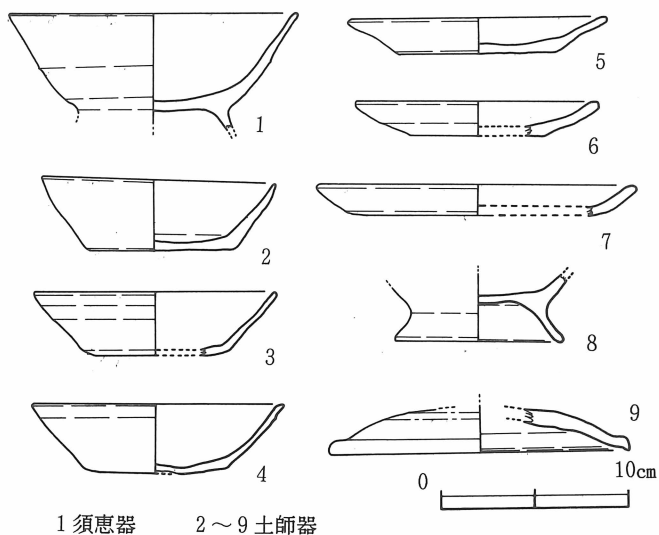
第96図 SK 01 出土土器 [1/6]



第97図 SK 01 出土土器 [1/4]

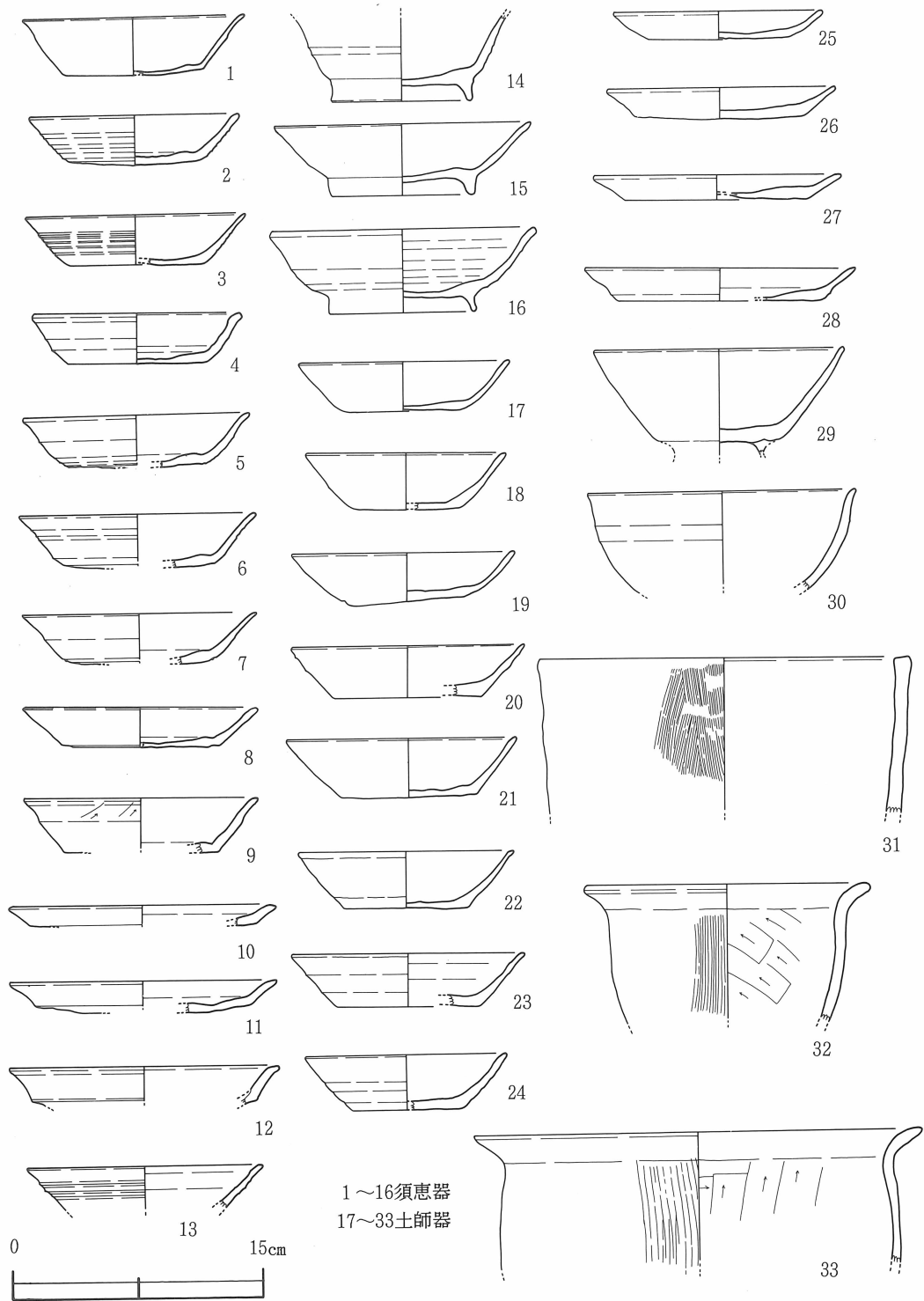


第98図 SK 02 出土土器

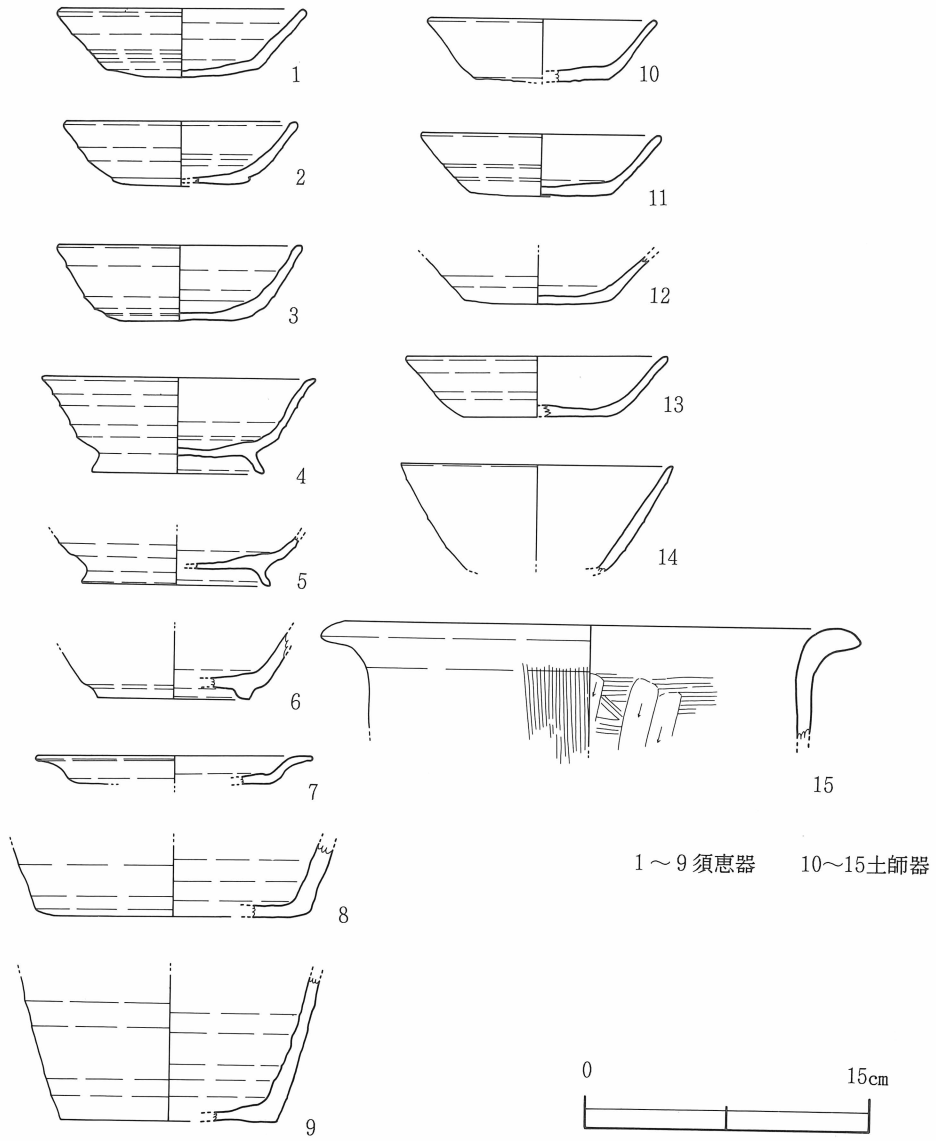


1 須恵器 2~9 土師器

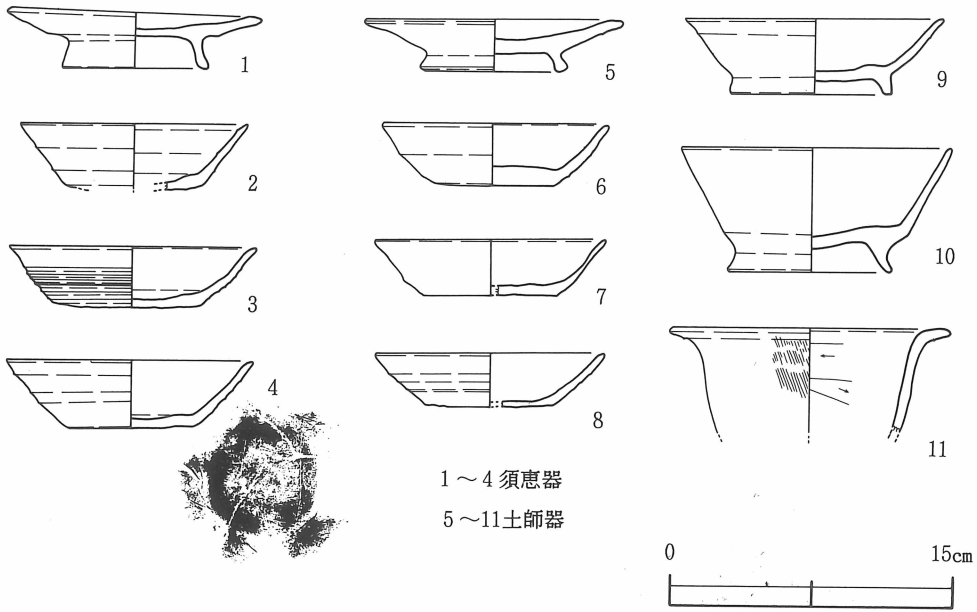
第99図 SK 03 出土土器 [1/4]



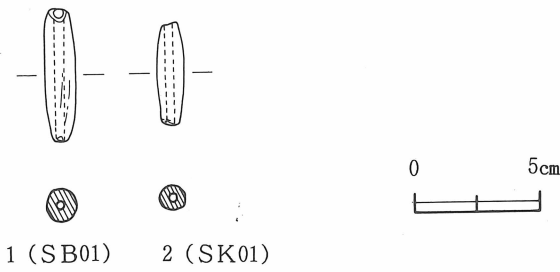
第100図 SK 04 出土土器 [1/4]



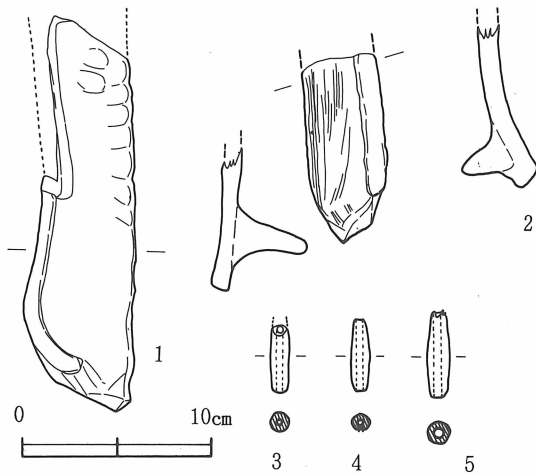
第101図 SK 04 出土土器 [1/4]



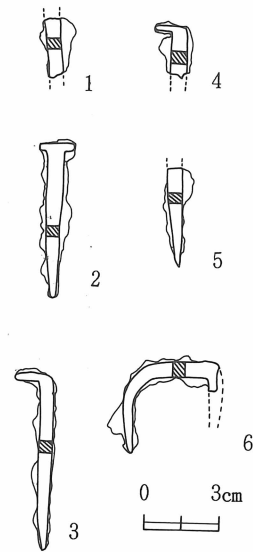
第102図 SK 05 出土土器 [1/4]



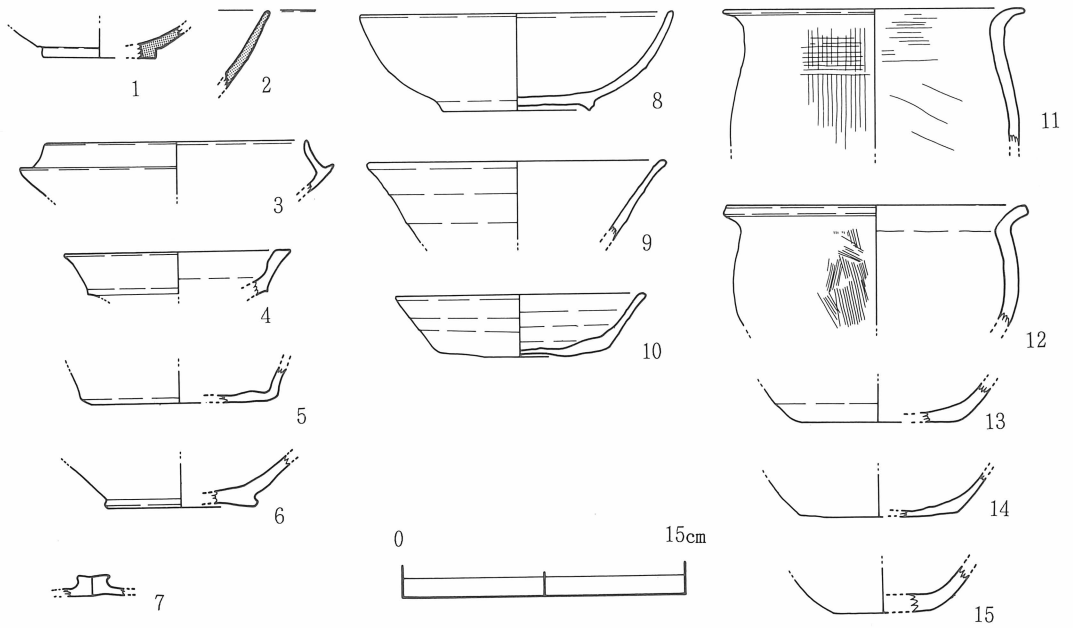
第103図 SK 01 出土土製品 [1/3]



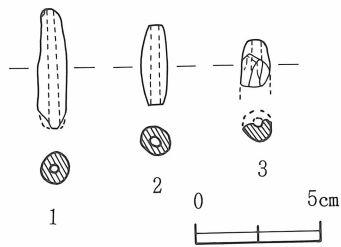
第104図 SK 04 出土土器 [1/4]



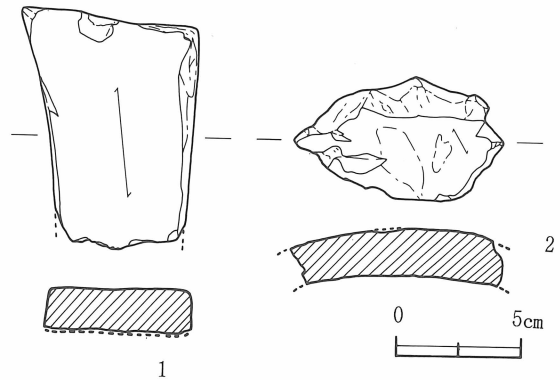
第105図 SK 02 出土鉄製品 [1/3]



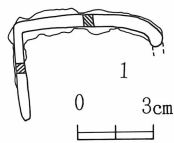
第106図 SD 01 出土土器 [1/4]



第107図 SD 01 出土土製品 [1/3]



第108図 SD 01 出土石製品 [1/3]



第109図 SD 01 出土鉄製品 [1/3]



をさす。遺物は須恵器の椀が出土した。

### 溝状遺構

S D 01 (第79、106、107、108、109図、図版6、16) 調査区東端から続き西方向へ約23 m延びた地点で南へほぼ直角に曲がり、約36.8 mの所でさらに西方向へほぼ直角に曲がり、約33.5 mの所で調査区外へ続くと思われる。溝の途中の屈曲地点に近接した2ヶ所と、西端部より約16 mの所で堰跡が検出された。堰跡は、溝の壁面と底面に数条の小溝があり、板を立てたと思われる。用途は農業用水路に使用されたと考えられる。溝幅は0.4~1 m、深さは14~32cmで、溝内の底の傾きより東から西に流れていたものと思われる。遺物は須恵器の坏、坏蓋、甕、土師器の甕、土錘、青磁片、白磁の高台付椀、石製品として石鍋、鉄製品として鋨がいが出土した。溝の時期は出土遺物より13~14世紀頃。

### 遺構一覧

#### ＝ 弥生時代 ＝

#### 建 物

遺構番号	種 類	平面プラン 間 数	長軸長 (m)	短軸長 (m)	棟 方 向	図	備 考
S B-09	竪穴住居	長方形	6.72	4.32	北東-南西	5, 13図 図版4	2本柱 東側・西側ベッド状遺構付設
11	〃	〃	6.92	5.16	〃	5, 14図 図版4	2本柱 東側・西側ベッド状遺構付設
14	〃	〃	5.60	3.68	北西-南東	6, 16図 図版4	2本柱
15	〃	〃	4.40	3.04	南 北	6, 17図 図版4	2本柱 砥石出土
16	〃	〃	2.44 以上	4.84	不 明	6 図	
30	掘立柱 建 物	1×1	3.20	2.80	東-西	8 図	
31	〃	〃	2.68	2.12	北東-南西	8 図	
32	〃	〃	3.20	2.44	南-北	8, 26図 図版5	
34	〃	〃	2.50	2.50	不 明	8 図 図版5	
36	〃	〃	3.00	2.76	北西-南東	8 図 図版6	
37	〃	〃	3.16	3.80	南-北	8 図 図版6	
39	〃	〃	2.68	2.68	不 明	9 図 図版6	
42	〃	1×1	4.54	3.40	東-西	9, 27図 図版12	
46	〃	1×1	2.44	2.32	北東-南西	9 図 図版5	
51	竪穴住居	長方形	6.32	3.94	東-西	7, 18, 19, 24図 図版6	2本柱 東側・西側ベッド状 遺構付設、石庖丁出土
54	〃	正方形	4.88	4.32	北東-南西	7, 20, 21, 22, 23図 図版6	2本柱、南東側ベッド状遺構付設、 石庖丁、砥石、投弾出土、壁溝全周

周溝状遺構

遺構番号	平面プラン	長軸長 (m)	溝幅 (cm)	深さ (cm)	長軸方向	図	備考
SX-01	円形	3.55	47~78	18~23		10図, 図版12	
02	"	3.76	52~70	13~17		10, 28図	
03	楕円形	6.68	62~112	26~38	北東-南西	10, 29図, 図版9	
04	"	13.98	74~142	35~81	"	11, 30図, 図版5	
05	"	6.91	58~100	47~59	"	12, 31図	

その他

遺構番号	溝幅 (cm)	深さ (cm)	図	備考
SD-02	25~48	12~23	32図	

= 古墳時代 =

建物

遺構番号	種類	平面プラン	長軸長 (m)	短軸長 (m)	棟方向	図	備考
SB-03	竪穴住居	長方形	4.32	3.36	南-北	33, 40図 図版7	
04	"	正方形	4.40	4.32	東-西	33, 39図 図版7	4本柱 北壁にカマド付設
05	"	"	4.44	4.08	"	33, 41図 図版7	4本柱
06	"	不明	4.68	4.40 +α	南-北	33, 42図	4本柱
10	"	正方形	5.30	4.96	東-西	34, 43図 図版8	4本柱 北壁にカマド付設
12	"	長方形	3.60	3.32	南-北	34, 44図 図版8	4本柱
13	"	不明	3.84 +α	3.36	"	34, 45図 図版8	4本柱
17	"	長方形	5.32	4.00	"	35, 46図 図版7	
18	"	正方形	4.20	4.10	"	35, 47図 図版8	東壁にカマド付設
20	"	長方形	4.16	3.60	東-西	35, 48図 図版8	4本柱 北壁にカマド付設
21	"	正方形	5.40	4.88	北西-南東	36, 49, 50, 63図 図版9	4本柱 北壁にカマド付設
50	"	"	4.72	4.56	東-西	36, 51, 62図 図版9	鉄鏃出土 東・西・南側に壁溝
52	"	"	7.64	6.84	北東-南西	37, 52, 53, 54, 61図 図版9	4本柱 ガラス玉1点出土 壁溝全周
55	"	不明	3.20	3.16	"	37, 55図 図版9	
58	"	不正形	4.76	3.36	不明	37, 56図	
59	"	正方形	3.60	3.16	南-北	38, 57図	西壁にカマド付設
60	"	不明	3.08 +α	5.08	不明	38, 58図	
61	"	長方形	4.60	3.88	南-北	38, 59図	
62	"	不明	1.80 +α	5.40	東-西	38, 60図	4本柱 北壁にカマド付設

＝ 平安時代 ＝

建 物

遺構番号	種 類	平面プラン 間 数	桁行・長 軸長(m)	梁行・短 軸長(m)	棟 方 向	図	備 考
SB-01	掘立柱物	2×2	3.20	2.88	東-西	70図 図版10	総柱
02	〃	〃	4.08	3.72	〃	70図 図版10	総柱
07	竪穴住居	正方形	3.12	3.04	〃	64図 図版7	北壁にカマド付設
08	〃	〃	3.16	2.96	〃	64, 80図	北壁にカマド付設
19	〃	不 明	5.44	2.68 +α	南-北	64, 81図	東壁にカマド付設
22	掘立柱物	2×1	3.64	2.76	北東-南西	70図 図版10	北東側に廂有
23	〃	1×1	3.84	2.60	東-西	70図	
24	〃	2×1	4.38	3.06	〃	70図	
25	〃	2×2 +α	4.16	4.08	北東-南西	70図 図版10	
26	〃	5×3	6.88	4.28	〃	71図 図版11	
27	〃	5×1	9.46	3.40	南-北	71図	
28	〃	2×2	3.40	2.68	〃	71, 82図 11, 13 図版	
29	〃	1×1	2.24	1.84	東-西	71図 図版11	
33	〃	1×1	2.64	2.56	〃	72図 図版10	
35	〃	2×1 +α	3.00	1.34 +α	〃	72図	
38	〃	2×1	3.50	2.96	北東-南西	72図 図版12	
40	〃	2×2	4.56	3.36	〃	72, 83図 図版12	
41	〃	2×1	3.12	2.80	南-北	72, 84図 図版12	
43	〃	4×2	5.20	3.68	〃	72図 図版12	
44	〃	2×1	2.48	1.92	東-西	73, 85図	
45	〃	1×1	2.64	1.30	〃	73図 図版12	
47	〃	2×2	2.44	2.32	北東-南西	73図 図版13	
48	〃	〃	2.92	2.40	〃	73, 86図 図版13	
49	〃	5×2	9.14	5.40	東-西	73, 87図 図版13	北側・西側に廂有
53	〃	2×2	4.00	2.40	〃	74図 図版13	
56	〃	1×2	4.04	2.28	南-北	74図	
57	〃	2×3	5.92	3.80	北東-南西	74図	
63	〃	5×2	9.24	4.68	東-西	74, 87図	
64	〃	4×2	9.76	5.74	〃	75, 87図	

遺構番号	種類	平面プラン 間数	桁行・長 軸長(m)	梁行・短 軸長(m)	棟方向	図	備考
SB-65	掘立柱物	2×1	4.14	3.48	東-西	75図	
66	〃	2×1 +α	2.1 +α	4.22	南-北	75図	
67	〃	2×1	4.40	4.00	〃	76図	
68	〃	2×2	5.98	3.74	東-西	76図 図版14	
69	〃	1×1	2.12	1.96	〃	76図 図版14	
70	〃	2×1	3.68	2.82	〃	76図 図版14	
71	〃	2×2	3.96	2.85	南-北	76図	
72	〃	3×1 +α	6.98	2.1 +α	〃	77図	

土 壌

遺構番号	平面プラン	長軸長 (m)	深 さ (m)	長軸方向	図	備考
SK-01	瓢形	3.18	55~68	東-西	78, 95, 96, 97, 103図 図版15	廃棄用
02	長方形	2.40	19	〃	78, 98, 105図	鉄釘、鋸出土
03	楕円	2.44	30	南-北	78, 99図 図版15	
04	方形	3.70	70	〃	78, 100, 101, 104図 図版15	
05	不正形	1.40	35	北西-南東	78, 102図 図版16	
06	楕円	1.75	38	〃	78図 図版16	

その他

遺構番号	横溝 (cm)	深 さ (cm)	全 長 (m)	方 向	図	備考
SD-01	40~99	14~32			79, 106, 107, 108, 109図 図版16	青磁、白磁出土
SA-01			5.80	東西	77図	
02			14.9	〃	77図	

圖 版



図版 1 室岡工業団地内遺跡第4次調査全景



(2) 室岡工業団地内遺跡第4次調査 北側部分



(1) 室岡工業団地内遺跡第4次調査 [北側より]



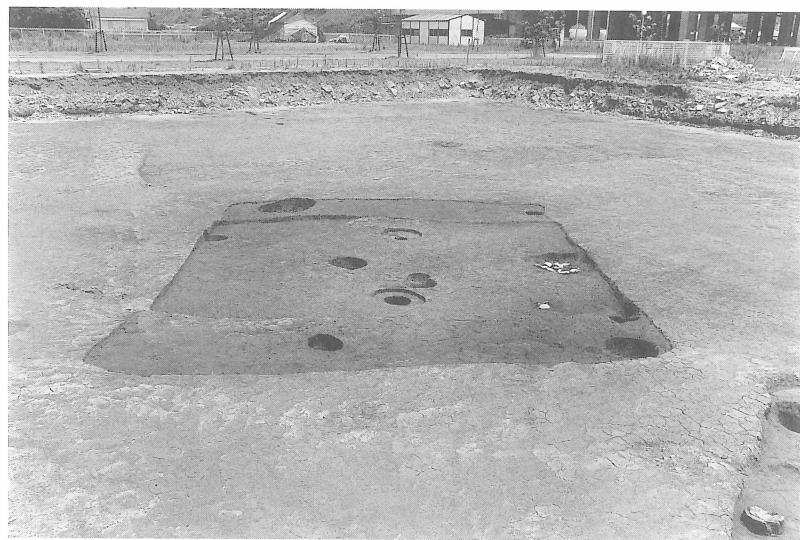


(2) 室岡工業団地内遺跡第4次調査 南側部分



(1) 室岡工業団地内遺跡第4次調査 [南側より]





(3) SB 14 (14号竖穴住居)  
 (4) SB 15 (15号竖穴住居)

(1) SB 09 (9号竖穴住居)  
 (2) SB 11 (11号竖穴住居)



(3) SB 46 (46号掘立柱建物)

(4) SX 04 (4号周溝状遺構)

(1) SB 32 (32号掘立柱建物)

(2) SB 34 (34号掘立柱建物)



(3) S B 39 (39号掘立柱建物)  
 (4) S B 36・37・38 [36号(左)・37号(右)・38号(中央)掘立柱建物]

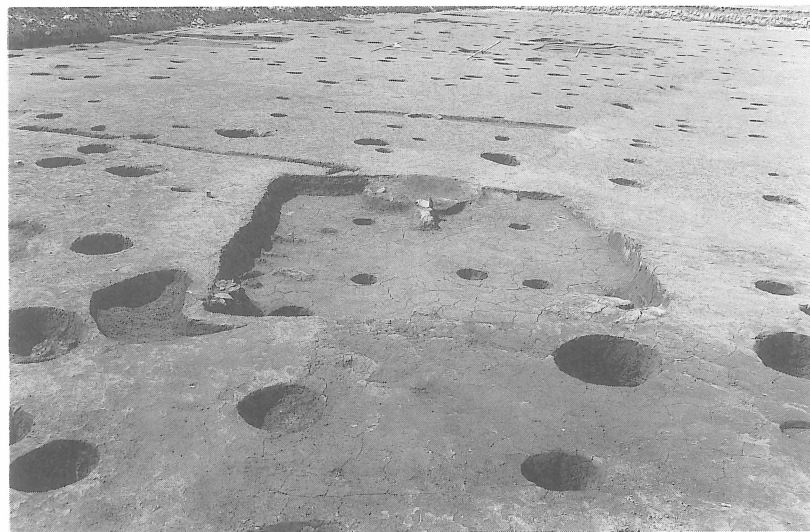
(1) S B 51 (51号竖穴住居)  
 (2) S B 54 (54号竖穴住居)



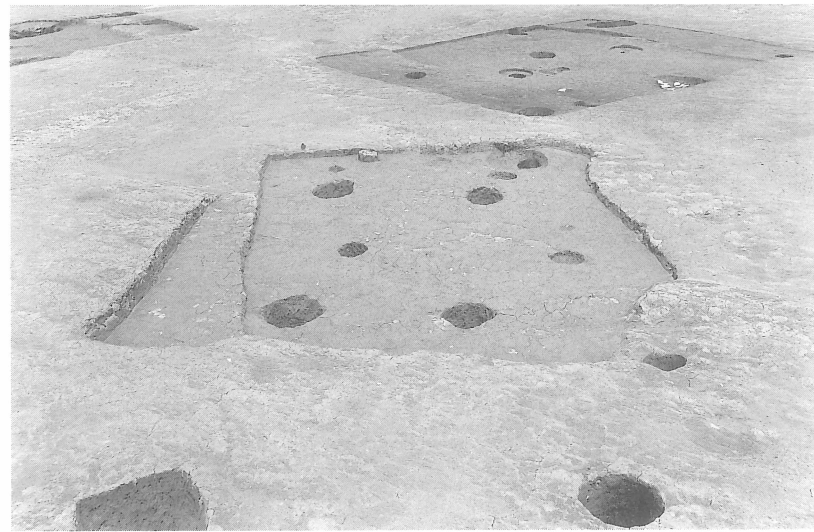


(3) SB05 (5号竖穴住居)  
(4) SB07・17 [7号(左上)・17号(下)竖穴住居]

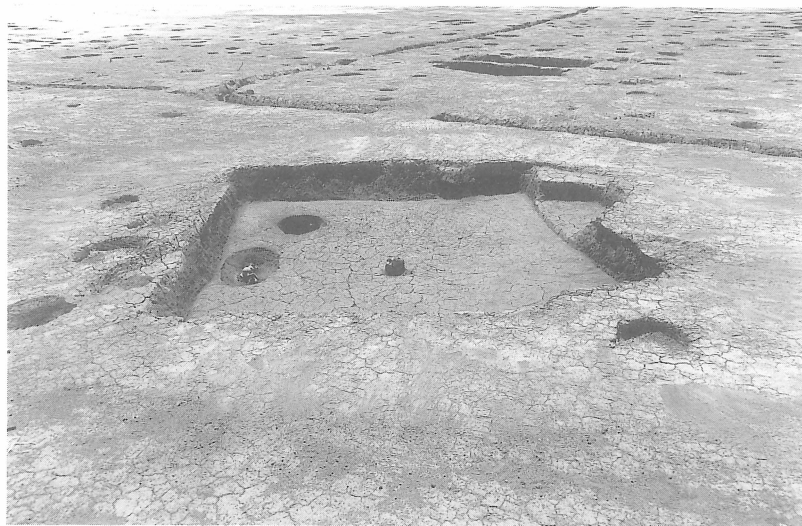
(1) SB03 (3号竖穴住居)  
(2) SB04 (4号竖穴住居)



(3) SB 18 (18号竖穴住居)  
 (4) SB 20 (20号竖穴住居)



(1) SB 10 (10号竖穴住居)  
 (2) SB 12・13 (12号・13号竖穴住居)



(3) SB52 (52号竖穴住居)  
 (4) SB55 (55号竖穴住居)

(1) SB21・SX03 (21号竖穴住居・3号周沟状遺構)  
 (2) SB50 (50号竖穴住居)





(3) S B 22 (22号掘立柱建物)  
 (4) S B 25 (25号掘立柱建物)

(1) S B 01・33 [1号(手前)・33号掘立柱建物]  
 (2) S B 02 (2号掘立柱建物)



(3) S B 26 (26号掘立柱建物)  
(4) S B 26 (26号掘立柱建物)

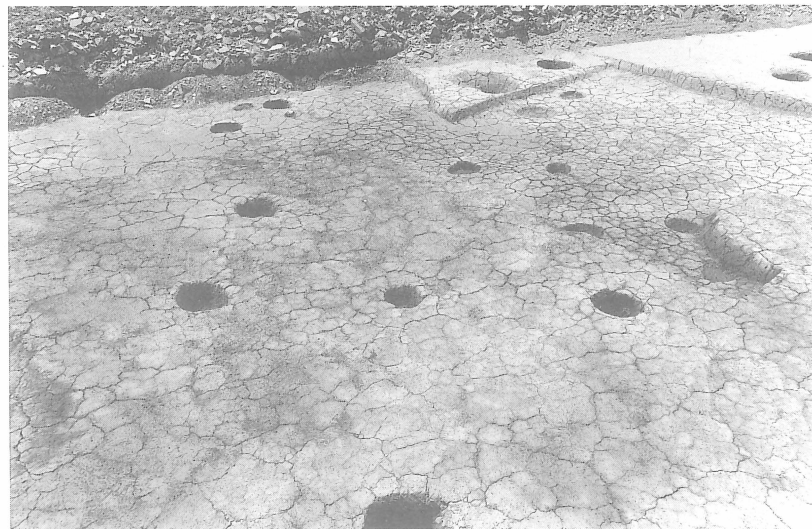
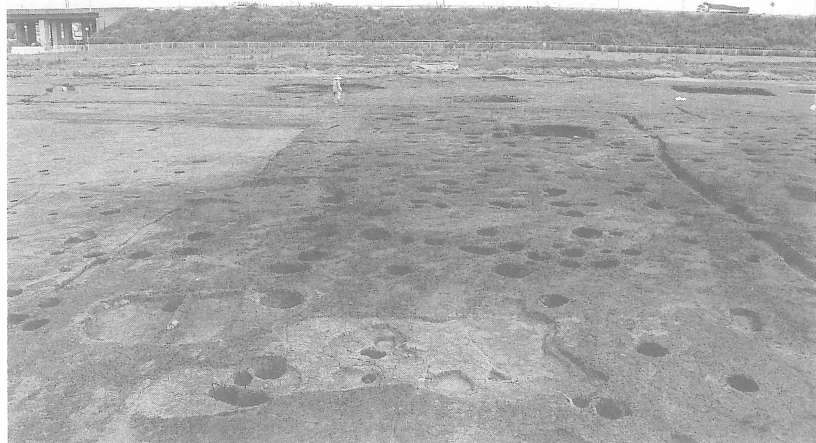
(1) S B 28 (28号掘立柱建物)  
(2) S B 29 (29号掘立柱建物)





(3) SB41・42・43・45 ④1号・43号・45号(手前)掘立柱建物]  
 (4) SB43・45・SX 01(43号・45号掘立柱建物・1号周溝状遺構)

(1) SB38 (38号掘立柱建物)  
 (2) SB40 (40号掘立柱建物)



(3) S B 49 (49号掘立柱建物)  
 (4) S B 53 (53号掘立柱建物)

(1) S B 47 (47号掘立柱建物)  
 (2) S B 48・28 [48号(手前)28号(奥)掘立柱建物]



(1) S B 69・70 [69号(右)・70号(左) 掘立柱建物]



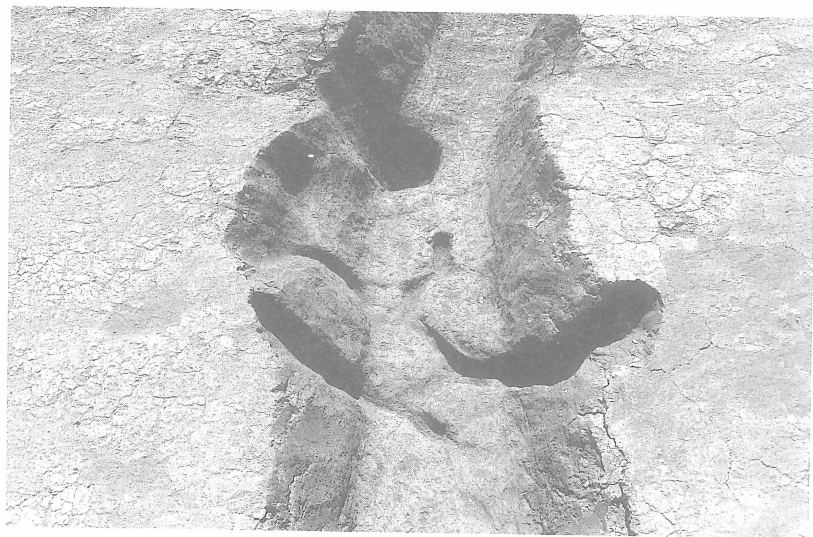
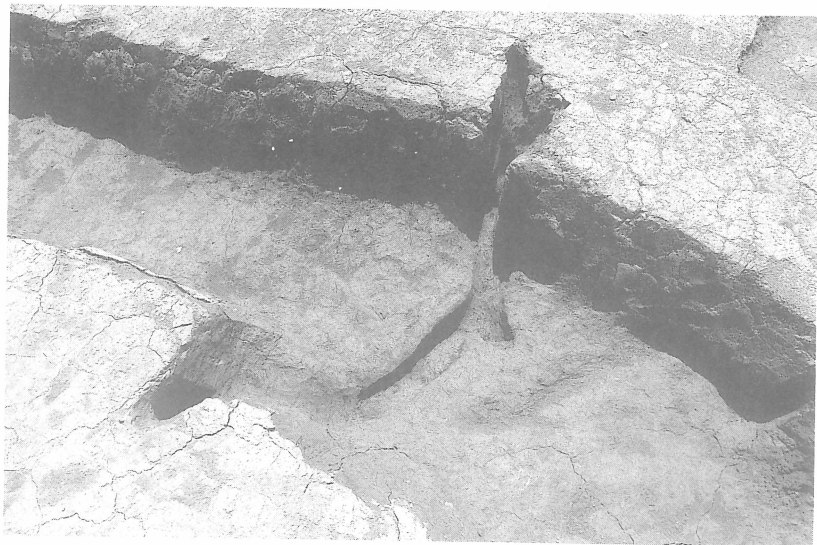
(2) S B 68 (68号掘立柱建物)





(3) SK03 (3号土坑)  
(4) SK04 (4号土坑)

(1) SK01 (1号土坑)  
(2) SK01 (1号土坑)



(3) SD01 (1号溝・No.1堰)  
(4) SD01 (1号溝・No.2堰)

(1) SK05 (5号土坑)  
(2) SK06 (6号土坑)

# 報告書抄録

ふりがな	むろおかこうぎょうだんちないいせき							
書名	室岡工業団地内遺跡Ⅲ							
副書名	福岡県八女市大字室岡所在遺跡の調査報告							
巻次								
シリーズ名	八女市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第44集							
編著者名	赤崎敏男・山田朗子							
編集機関	八女市教育委員会							
所在地	834 福岡県八女市大字本町647 TEL 0943-23-1111							
発行年月日	西暦 1996年3月29日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "		m <sup>2</sup>	
むろおかこうぎょう 室岡工業	ふくおかけん 福岡県	402109		33 12 35	130 31 25	1995. 5. 8 ~ 1995. 9. 29	7, 200 m <sup>2</sup>	工場建設
だんちないいせき 団地内遺跡	やめしおおあざむろおか 八女市大字室岡 あざみちぞえあざのなか 字道添字野中							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
室岡工業 団地内遺跡	集落	弥生時代	竪穴住居	7	弥生式土器			
			掘立柱建物	9	石庖丁			
			周溝状遺構	5				
		古墳時代	竪穴住居	19	須恵器、土師器 鉄製品			
		平安時代	竪穴住居	3	須恵器、土師器			
			掘立柱建物	34	鉄製品土製品、石製品			
			柵列	2	白磁、青磁			
			土壌	6				
			溝	2				
			柱穴	多数				

室岡工業団地内遺跡 Ⅲ  
八女市文化財調査報告書

第 44 集

平成 8 年 3 月 29 日

発行 八女市教育委員会

福岡県八女市大字本町 6 4 7

印刷 (資) 東兄弟印刷所

福岡県八女市大字祈禱院 5 6 2

室岡工業団地内遺跡 III

福岡県八女市大字室岡所在遺跡の調査

( 八女市文化財調査報告書 第44集 ) 正誤表

頁		誤	正
64	第92図	4 (SB21) 7	4 (SB21)
66	第98図	SK02出土土器	SK02出土土器 [1/4]
69	第103図	1 (SB01)	1 (SK01)
74	土 境	深さ (m)	深さ (cm)
図版12	(3)	[41号・43号・45号(手前)・・・	[41号・42号・43号・45号(手前)・